

岡崎市男女共同参画基本計画「新ウィズプラン おかざき 21」見直しにあたっての意識調査結果

【市民意識調査結果】

【事業所意識調査結果】

報告書

平成 27 年 3 月

岡崎市

男女共同参画に関する市民意識調査結果

報告書

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法と回収結果	1
3. 調査項目	1
4. 集計方法及び結果の表示方法	2
第2章 回答者の属性	4
1. 性別	4
2. 年齢	5
3. 就業形態	6
4. 既婚状況	8
5. 家族構成	10
第3章 男女共同参画社会に関する考え方	12
1. 分野別における男女平等についての現状認識	12
2. 男女共同参画についての話し合いや学習について	30
3. 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について	32
4. 岡崎市における地域の慣習やしきたりについて	34
第4章 家庭生活について	36
1. 家庭生活における担当について	36
2. 家事や育児、介護の分担の必要性について	81
第5章 子育て・教育について	83
1. 子どもの育て方について	83
2. 子育てにおける父親と母親の役割について	86
3. 女性が安心して出産・子育てができる要件	88
4. 男性が育児に参加することの必要性について	90
5. 男女平等意識育成のための教育現場における取組内容について	92
第6章 職場について	95
1. 女性が仕事を持つことについて	95
2. 職業を持つ場合の支障について	98
3. 安心して働ける環境について	100
4. 職場におけるセクハラについて	103
5. セクハラを経験した際の相談者について	106
6. セクハラ対策について	109
7. ワーク・ライフ・バランスの認知	112
8. 生活における仕事やプライベートな時間の優先度について	114

第7章 地域や社会との関わり方について	118
1. 地域活動の役割分担について.....	118
2. 現在、参加している地域活動について	132
3. 地域活動に参加しない理由	135
4. 今後、参加を希望する地域活動について.....	138
第8章 高齢化社会や介護について	141
1. 高齢者や病人看護を女性が行っている現状について.....	141
2. 自身が老後を迎えるにあたっての不安	143
3. 自身の要介護時における身の回りの世話について	146
第9章 DV（ドメスティック・バイオレンス）について	149
1. 人権が侵害されるもしくは尊重されていなく感じる場合について	149
2. DV（ドメスティック・バイオレンス）について	151
3. 暴力を受けた際の相談について.....	153
4. 暴力を受けた際、相談しなかった理由	155
5. 暴力の内容や頻度について	157
6. DV被害者に対する援助体制の必要性について	162
7. 具体的な支援内容について	164
8. 「デートDV」の認知	166
第10章 男女共同参画社会の実現に向けて	168
1. 今後、男女が家事、子育て、介護等に積極参加するための必要事項.....	168
2. 男女平等社会実現のための岡崎市への期待事項	170
第11章 自由筆記意見とそのまとめ	172
第12章 まとめ	185
(参考資料)	
◆アンケート調査票	189

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて、平成23年4月に「新ウィズプランおかざき21」を策定し、市民の皆様とともに取り組んできました。

本調査は、「新ウィズプランおかざき21」は計画期間が平成27年度までであり、その見直しを行うために市民からの意見を把握して、男女共同参画社会の推進のための課題や施策を検討する材料を得るために実施しました。

2. 調査方法と回収結果

(1) 調査対象

調査対象は、市内在住成人（20歳以上）の男女について、男女比1：1で無作為抽出を行いました。

対象者数は、前回（平成20年度調査）と同様に、3,000名としました。

(2) 調査方法

調査票を郵送配布・回収方式で実施しました。

(3) 調査期間

概ね、平成26年7月1日～平成26年9月10日

(4) 回収結果

有効配布数*	回収数	有効回答数	有効回答率
3,000	1,093	1,079	36.0%

3. 調査項目

- ①回答者のプロフィール..... 5問
- ②男女共同参画社会に関する考え方について..... 4問
- ③家庭生活について..... 2問
- ③子育て・教育について..... 5問
- ④職場について..... 8問
- ⑤地域や社会との関わり方について..... 4問
- ⑥高齢化社会や介護について..... 3問
- ⑥DV（ドメスティック・バイオレンス）について... 8問
- ⑦男女共同参画の推進について..... 2問
- ⑥意見の自由筆記

4. 集計方法及び結果の表示方法

(1) 集計方法

前回の集計と同様に、男女・年齢別の三重クロス集計を行うことを中心として、分析しています。

(2) 留意点

- ① 図中の構成比 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0%にはなりません。
- ② 複数回答の場合の回答割合 (%) は回答者数を母数としており、合計は 100%を超えます。
- ③ 選択肢についての文中の記述は調査票の記述をそのまま用いていますが、図表中については略している場合があります。
- ④ 二重回答は乱数表を用いて回答を決定しています。また、判読不能の回答、回答がない場合は不明に含めています。
- ⑤ 一部の図表においては、設問・選択肢などの表現は意味が変わらない程度に一部省略してある場合があります。

(3) 統計的な検定について

① 標本誤差について

本調査は、前回調査の票数と同様の数としたことなどから、対象とする市民(母数)に対して約 1%抽出と低くなっています。

そこで、母集団の意見をどの程度反映しているのかについては、変則的ですがクロス集計の状況に応じて信頼度を変えて標本誤差を算出して、次のような捉え方をして分析する際に留意しています。

三重クロスについては、市民意識を反映している度合いが低くなるため、本文の記述においては、「本調査の結果においては」などの記述を加えている場合があります。

		集計別信頼度の想定	有効回収数	回答割合 (例)					評価
				50%	40%	30%	20%	10%	
	M		n	60%	70%	80%	90%		
				それぞれの回答割合の母集団との誤差± (%)					
全体 (参考)	295,744	信頼度 (90%)による変数 κ 1.65	1,079	2.51	2.46	2.30	2.01	1.50	母集団 100 人中 90 人はこの結果にあてはまる。
女性	146,805	信頼度 (80%)による変数 κ 1.28	623	2.56	2.51	2.35	2.05	1.54	母集団 100 人中 80 人はこの結果にあてはまる。
男性	148,939		443	3.04	2.97	2.78	2.43	1.82	

② カイ二乗検定について

本報告書に掲載しているクロス集計による図表等については、男女別(二重クロス)と男女・年齢別(三重クロス)についてカイ二乗検定を行い、集計の有意性を確認し

ています。この結果については、本報告書では文中において、下記のように概要を示しています。

また、文頭の○印は概ね有意性がある検定結果をふまえて記述していることを示しており、有意性に問題があった場合のみ注釈として▽印で示しています。

▽1-1	5%水準の有意差があるが、2項目間の相関は弱い。
▽1-2	概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で有意差がない。 または、概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で検定不能。
▼2-1	有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。(※有意差がある項目が多いか、ない項目が多いが示している場合もある) または、有意差がある項目と検定不能が半々ぐらい。
▼2-2	有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。
▼3-1	概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。
▼3-2	有意差はない。
▼3-3	期待度数が低いセルがあり検定不能。

※特に、▽1-2以下の有意性が低い結果分析においては、有意差がある項目や選択肢を中心に分析しています。

※カイ二乗検定とは、表頭項目（クロス集計表の上側の設問項目）と表側項目（クロス集計表の左側の属性項目）の間に、統計的に意味のある関連性があるかどうかを調べるために、「独立性を検定」するものです。観測されたデータの分布が理論上の期待度数と、観察度数との食い違いの程度、つまり理論値の分布とほぼ同じと見なすことができるのかについて、たとえば、「5%の確率（水準）で異なるかもしれないが95%の確率で同じ（有意）」という検定を行います。

第2章 回答者の属性

1. 性別

問ア あなたの性別についてお答えください。(○は1つ)

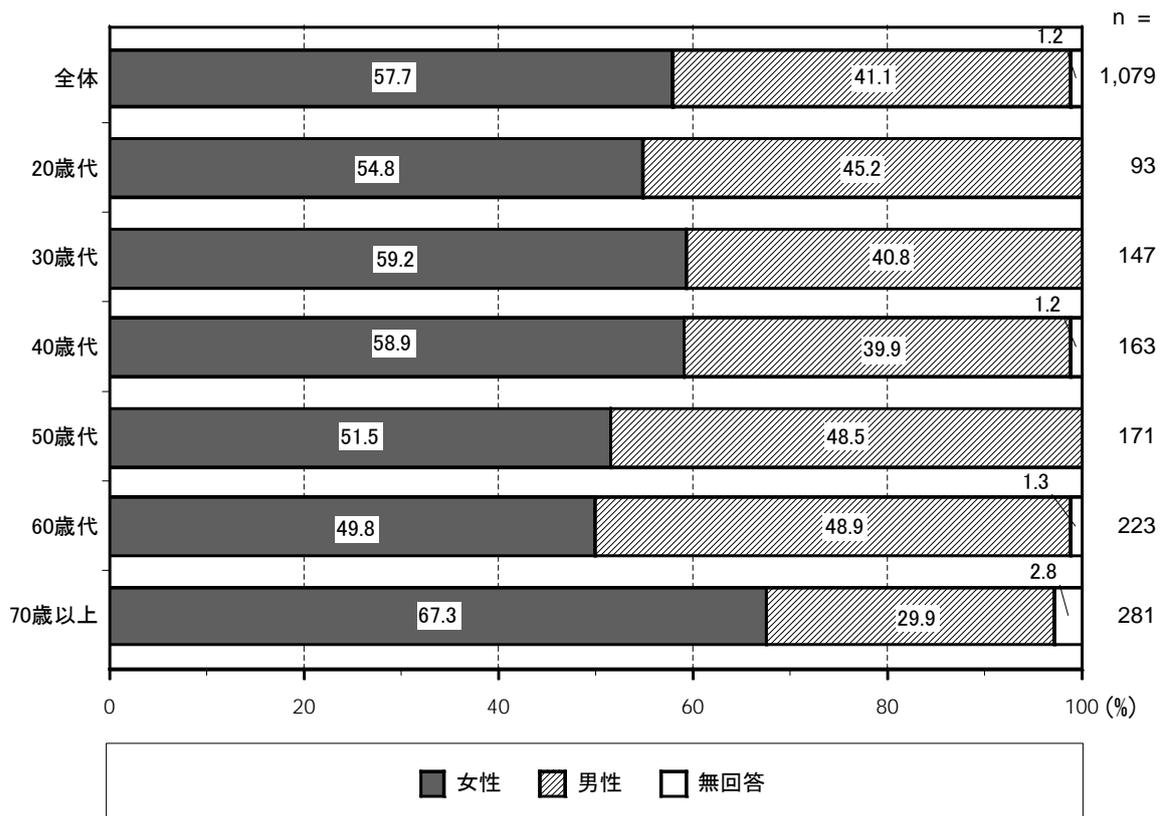
(1) 全体

○男女を同数でアンケート調査を行いました。性別では「女性」が57.7%、「男性」が41.1%で、「女性」が15ポイント以上多くなっています。(図表2-1)

(2) 年齢別

○全ての年齢層で、「女性」の割合が「男性」よりも高くなっています。特に70歳以上では、「女性」が67.3%と、年齢層の中で「女性」が最も高くなっています。

図表2-1 性別(性別・年齢別)



2. 年齢

問イ あなたの年齢についてお答えください。(〇は1つ)

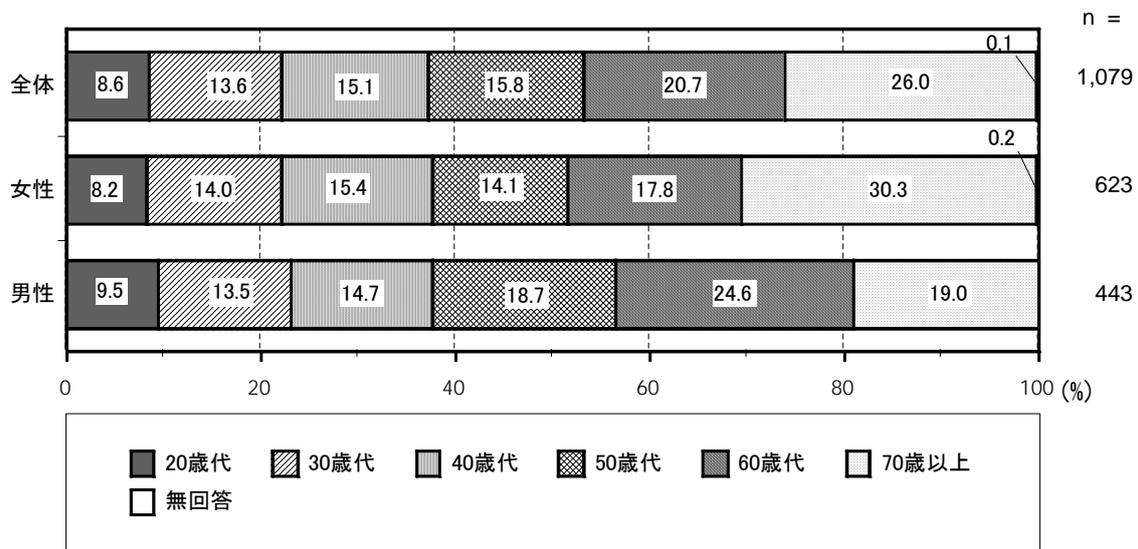
(1) 全体

- 「70歳以上」が26.0%と最も多く、次いで「60歳代」が20.7%であり、合わせて『60歳以上』が約47%と、高年齢層の回答が多くなっています。(図表2-2)
- 「20歳代」は8.6%と最も少なく、「30歳代」から「50歳代」はそれぞれ10%台です。

(2) 性別

- 女性では「70歳以上」の割合が30.3%と高く、男性では「60歳代」が24.6%と高くなっています。

図表2-2 年齢(性別・年齢別)



3. 就業形態

問ウ あなたの職業についてお答えください。(○は1つ)

(1) 全体

- 全体では「会社員」が30.1%と最も多く、次いで「無職」が26.6%となっています。
(図表 2-3)
- 「パート・アルバイト」と「専業主婦・専業主夫」がそれぞれ1割強です。

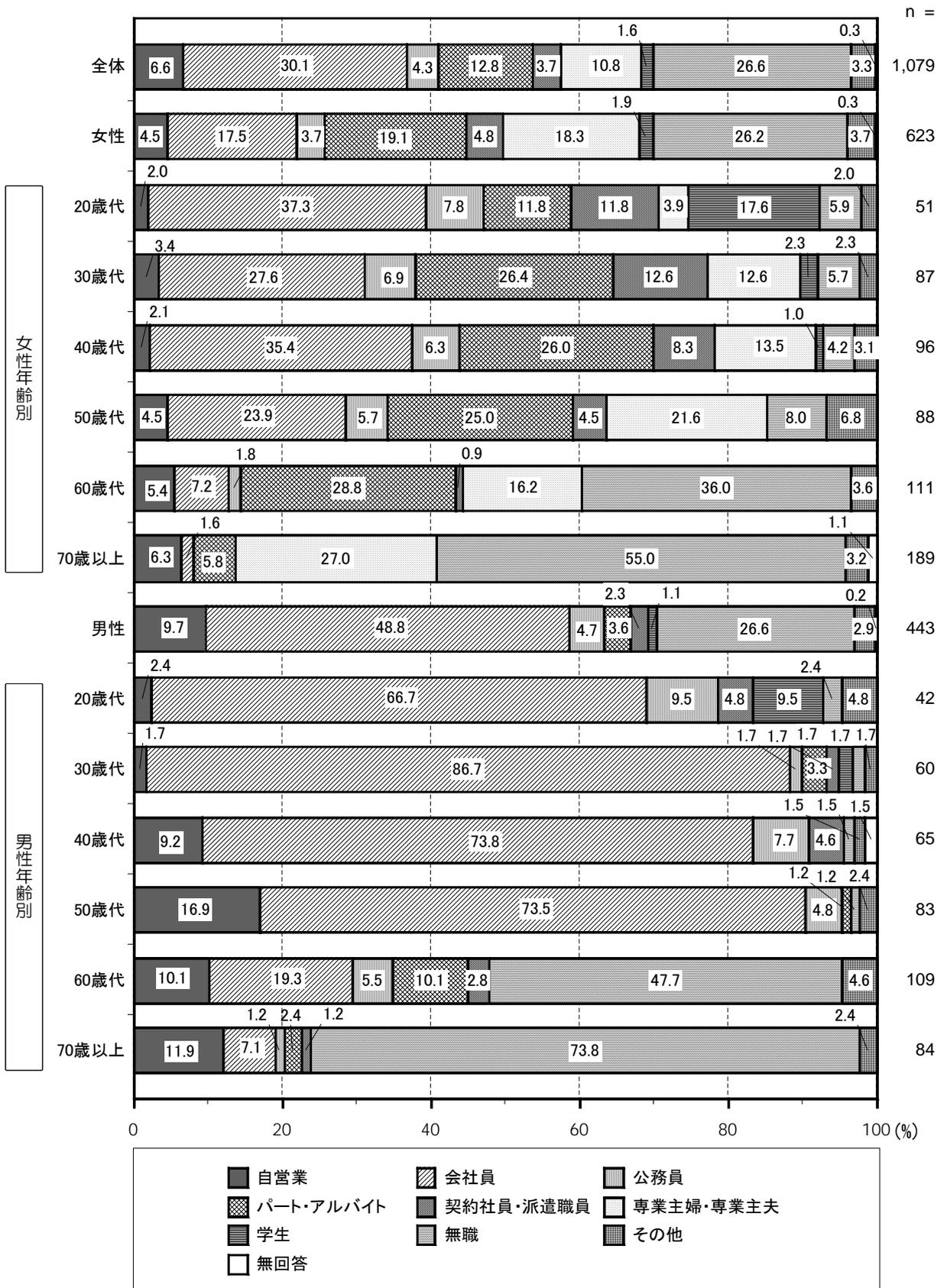
(2) 性別

- 女性で「パート・アルバイト」と「専業主婦・専業主夫」が2割弱と高くなっています。
- 男性では、「会社員」が48.8%と半数近くを占めています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代と40歳代で「会社員」が35%を超え、30歳代から60歳代で「パート・アルバイト」が25%以上と高くなっています。
 - 男性では20歳代から50歳代にかけて「会社員」が高く、特に30歳代では86.7%を占めています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表2-3 職種(性別・年齢別)



4. 既婚状況

問工 あなたは、結婚していますか。(事実婚を含む)(○は1つ)

(1) 全体

- 「結婚している」が51.7%と最も多く、「離婚・死別した」が29.7%、「結婚したことがない」が18.4%です。(平成20年度調査では、それぞれ59.6%、24.3%、15.8%)。
(図表2-4)

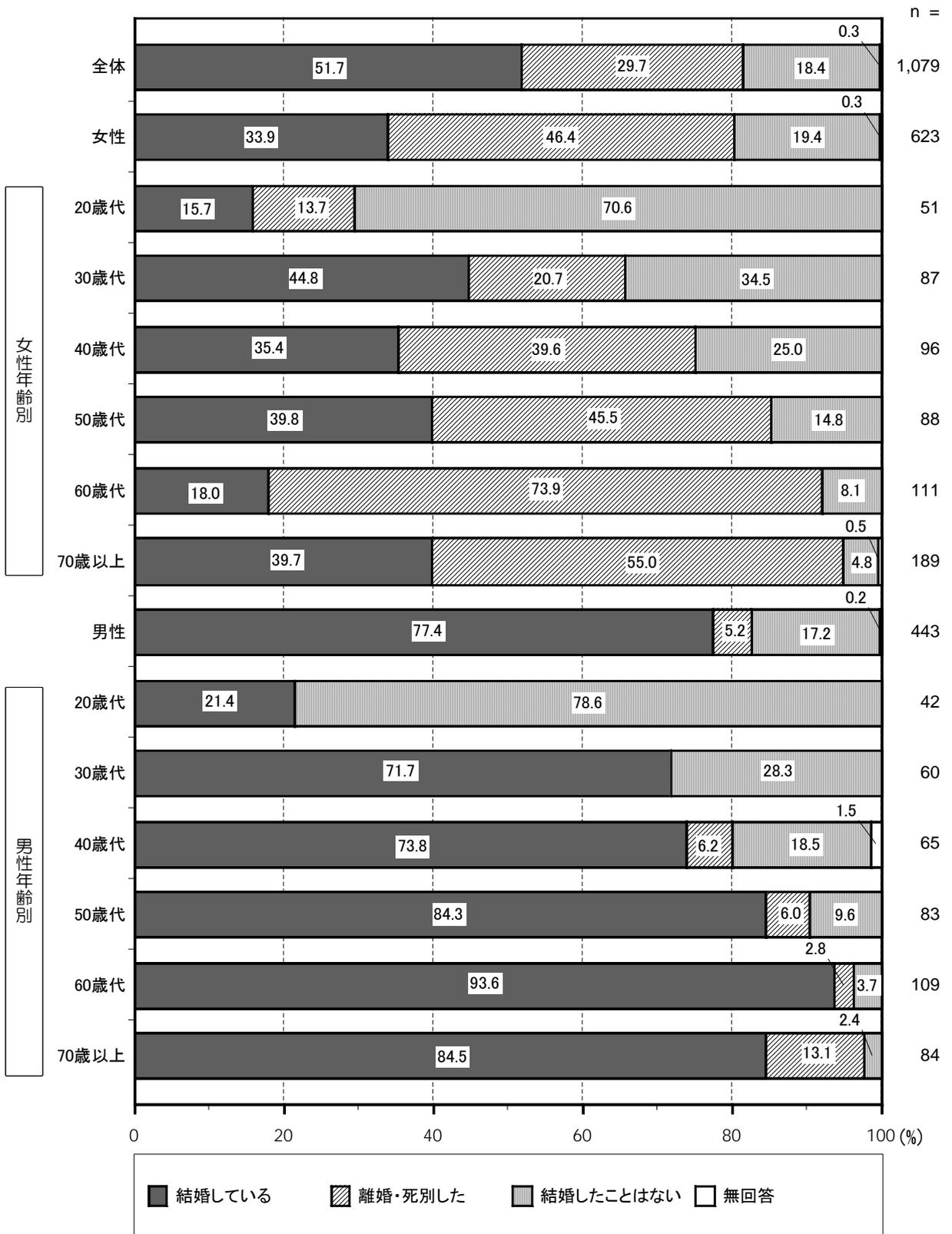
(2) 性別

- 女性では「離別・死別した」が46.4%と高くなっています。
- 対照的に男性では「結婚している」が77.4%と高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性で60歳代と70歳以上で「離婚・死別した」が特に高くなっています。さらに、40歳代と50歳代では「離婚・死別した」が選択肢の中で最も回答を集めており、本調査においては離婚した人がセーフティネットの構築を市に期待したことなどにより、積極的に回答したと思われます。
- 男性では30歳代以上で「結婚している」が7割を超えており、60歳代の93.6%にかけて、年齢にしたがって高くなっています。

図表2-4 既婚状況(性別・年齢別)



5. 家族構成

問才 あなたと同居している家族構成についてお答えください。(○は1つ)

(1) 全体

- 「親と子（2世代世帯）」が41.8%と最も多く、次いで「単身世帯（1人）」が23.8%、「夫婦のみ（1世代世帯）」が17.2%、「親と子と孫（3世代世帯）」が12.0%です。
(図表 2-5)

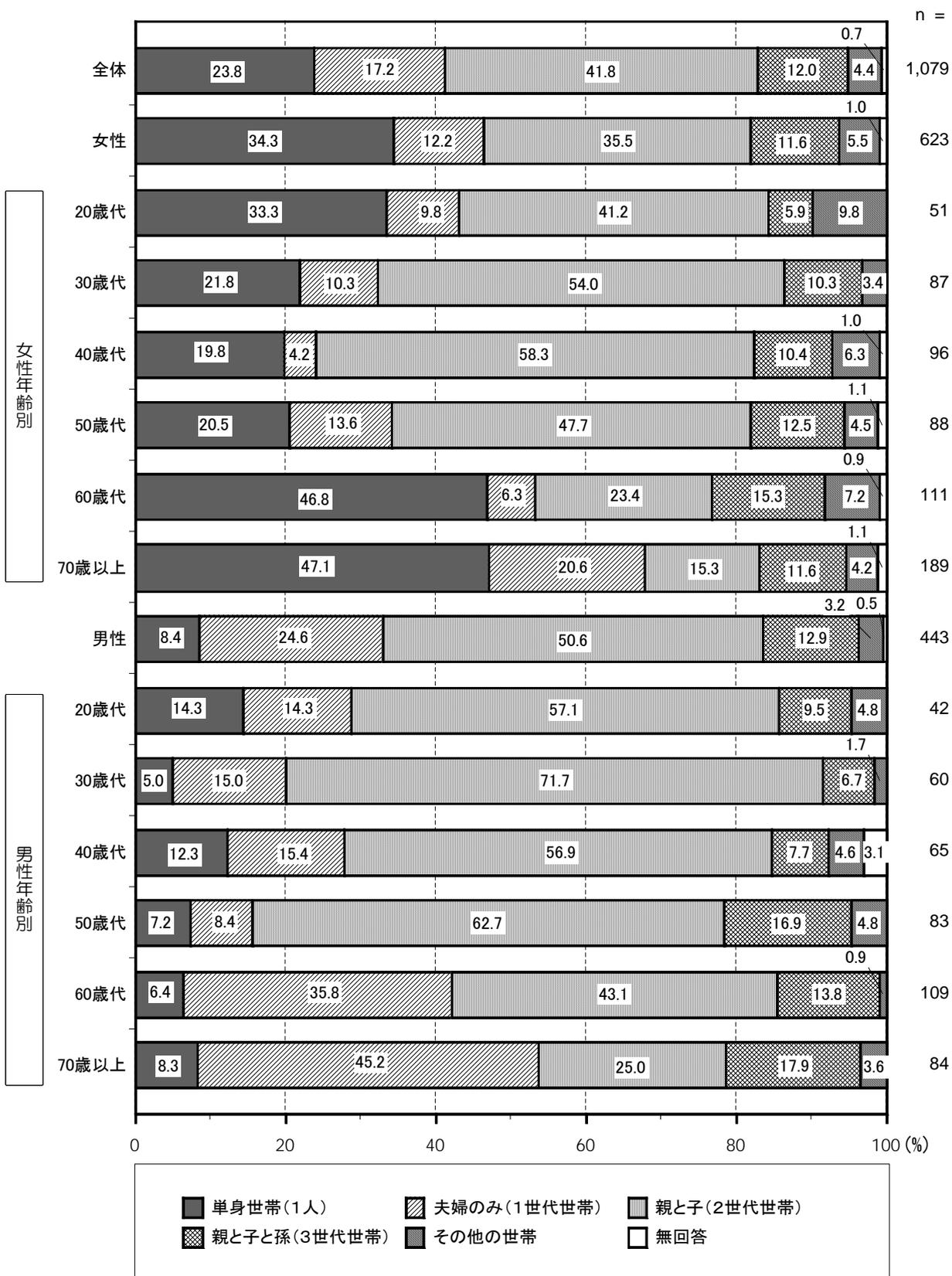
(2) 性別

- 女性では「単身世帯（1人）」が34.3%と、男性よりも4倍以上のポイントとなっています。
- 男性では「親と子（2世代世帯）」が、半数を超えています。

(3) 性別・年齢別

- 女性で30歳代と40歳代が「親と子（2世代世帯）」が50%を超え、また、60歳代と70歳以上で「単身世帯（1人）」の割合が45%を超えて、他の年齢層よりも高くなっています。
- 男性では30歳代と子育てを終える50歳代で「親と子（2世代世帯）」が6割を超えており、70歳以上では「夫婦のみ（1世代世帯）」が45.2%と高くなっています。

図表2-5 家族構成(性別・年齢別)



第3章 男女共同参画社会に関する考え方について

1. 分野別における男女平等についての現状認識

問 1 あなたは、次にあげる分野において、男女平等になっていると思いますか。
(それぞれに1つ○)

1-1 家庭生活

(1) 全体

- 「やや男性が優遇されている」が37.3%と最も多く、次いで「男女平等である」が30.1%です。(図表3-1)
- 「やや男性が優遇されている」と「男性の方が優遇されている」(19.3%)を合わせると、『男性が優遇されている』は約57%、「やや女性が優遇されている」(7.5%)と「女性の方が優遇されている」(2.1%)を合わせた『女性が優遇されている』は約1割にとどまっています。

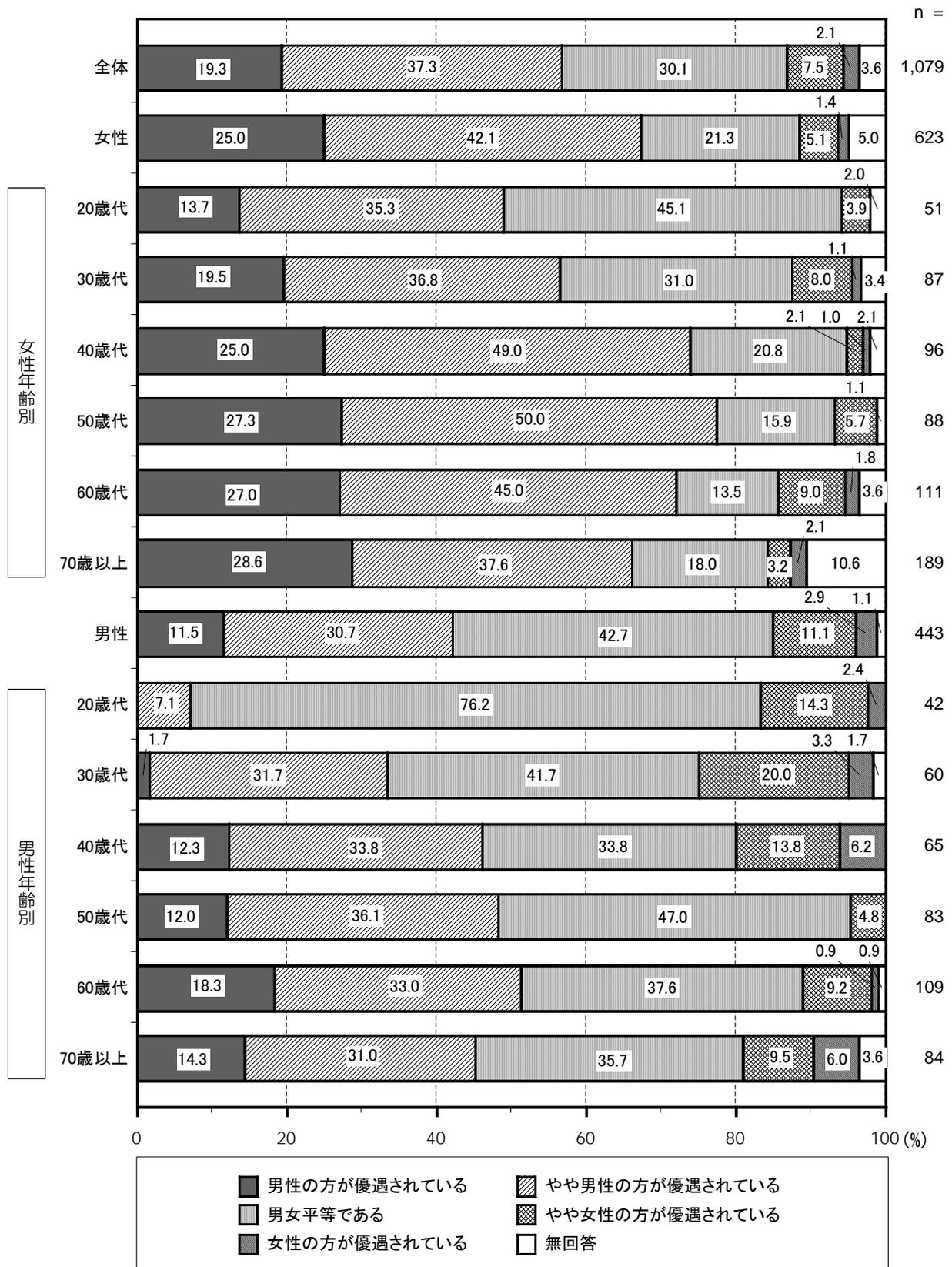
(2) 性別

- 性別で大きく意識が異なり、女性では『男性が優遇されている』が約67%、男性では約42%で、女性の方が男性より25ポイント程度高くなっています。
 - 一方、男性では「男女平等である」が42.7%で、女性の21.3%の倍程度のポイントになっています。
- ※問1の性別・年齢別のカイ二乗検定においては、図示している選択肢によるクロス集計では検定が困難な場合が多かったため、『男性が優遇されている』(「男性の方が優遇されている」+「やや男性の方が優遇されている」)、『女性が優遇されている』(「女性の方が優遇されている」+「やや女性の方が優遇されている」)と選択肢をまとめて検定した結果を示しています。しかし、それでも1-3学校生活以降の三重クロスについては、検定が不能の場合があります。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代から60歳代にかけて『男性が優遇されている』の割合が7割を超えて、特に高くなっています。
- 男性では「男女平等である」の割合が、40歳代以外の年齢層で5つの選択肢のうち最も高くなっています。

図表3-1 家庭生活における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-2 職場

(1) 全体

- 「男性の方が優遇されている」(27.9%)と「やや男性が優遇されている」(36.5%)とを合わせると、『男性が優遇されている』は65%弱です。(図表 3-2)
- 「男女平等である」は19.6%、「やや女性が優遇されている」(6.0%)と「女性の方が優遇されている」(1.6%)を合わせた『女性が優遇されている』は約8%にとどまります。

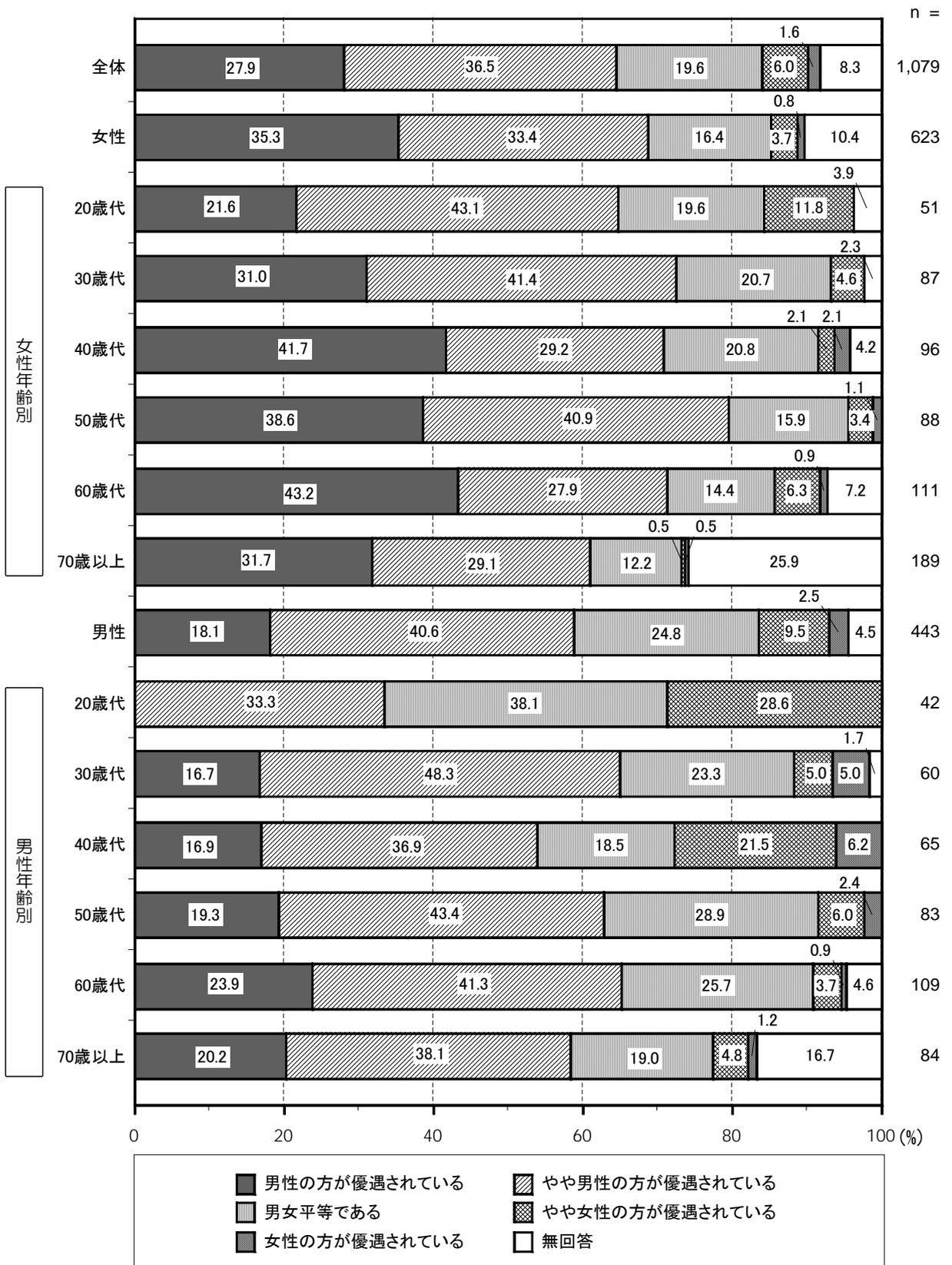
(2) 性別

- 性別で大きく意識が異なり、女性では『男性が優遇されている』が7割弱と、男性よりも10ポイント高くなっています。
- 一方、男性では「男女平等である」が24.8%で、女性よりも高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、30歳代から60歳代にかけて『男性が優遇されている』の割合が7割を超えて、50歳代では約8割と特に高くなっています。
- 男性では「男女平等である」の割合が、20歳代で38.1%と高く、30歳代と60歳代では『男性が優遇されている』が65%以上とやや高くなっています。

図表3-2 職場における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-3 学校教育

(1) 全体

- 「男女平等である」が58.2%と圧倒的に多く、『男性が優遇されている』が約28%、『女性が優遇されている』は約4%と少なくなっています。(図表 3-3)

(2) 性別

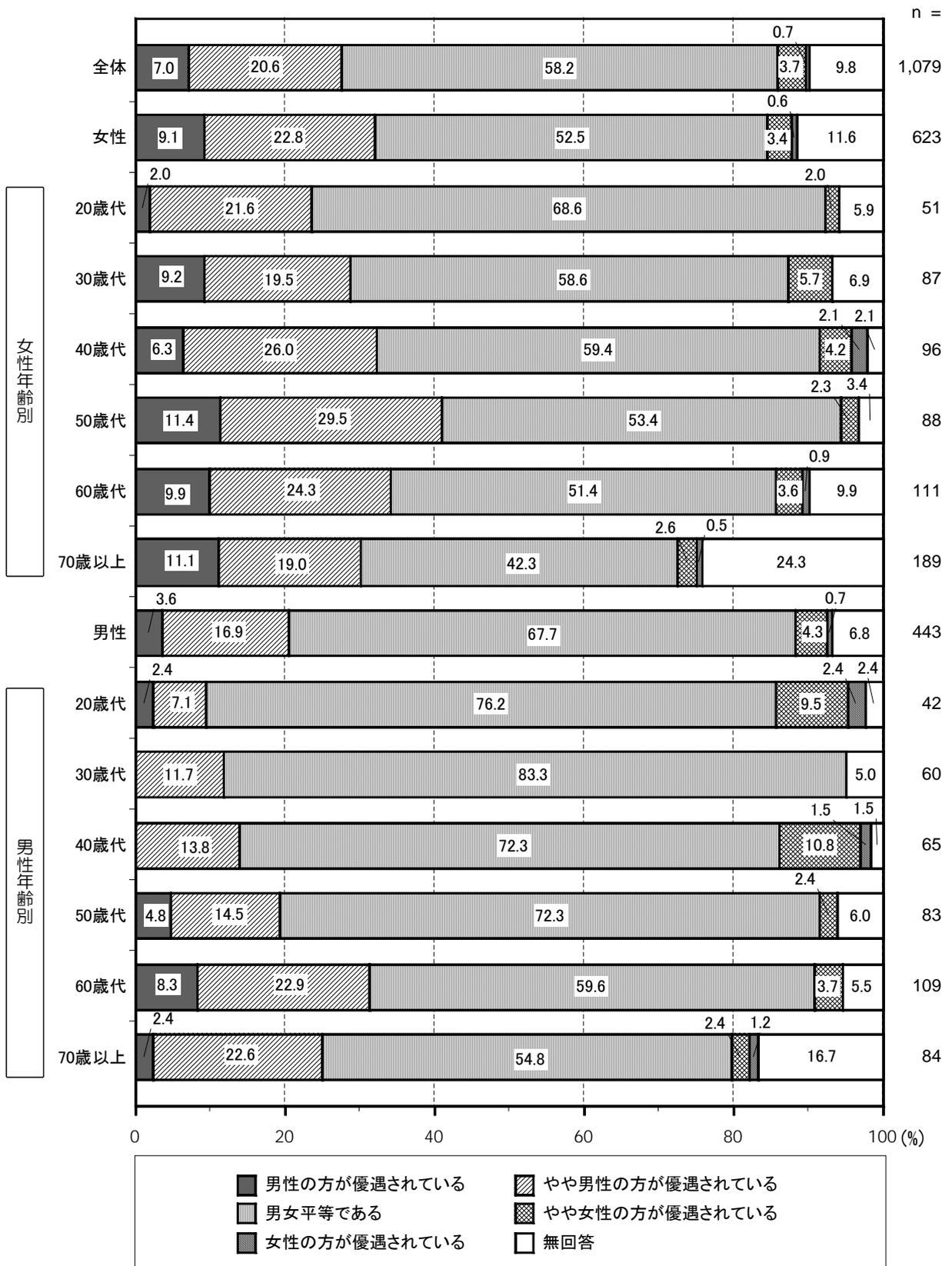
- 女性では『男性が優遇されている』が約32%と男性よりも高くなっており、男性では「男女平等である」が67.7%で、女性よりも15ポイント以上高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、50歳代において『男性が優遇されている』の割合が4割を超えて高くなっていますが、20歳代では「男女平等である」が68.8%と高くなっています。
- 男性では20歳代から40歳代にかけて「男女平等である」の割合が高く、特に30歳代では83.3%と高くなっています。

▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表3-3 学校教育の場における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-4 地域活動

(1) 全体

- 『男性が優遇されている』が約48%で、「男女平等である」が36.9%、『女性が優遇されている』は約8%と少なくなっています。(図表3-4)

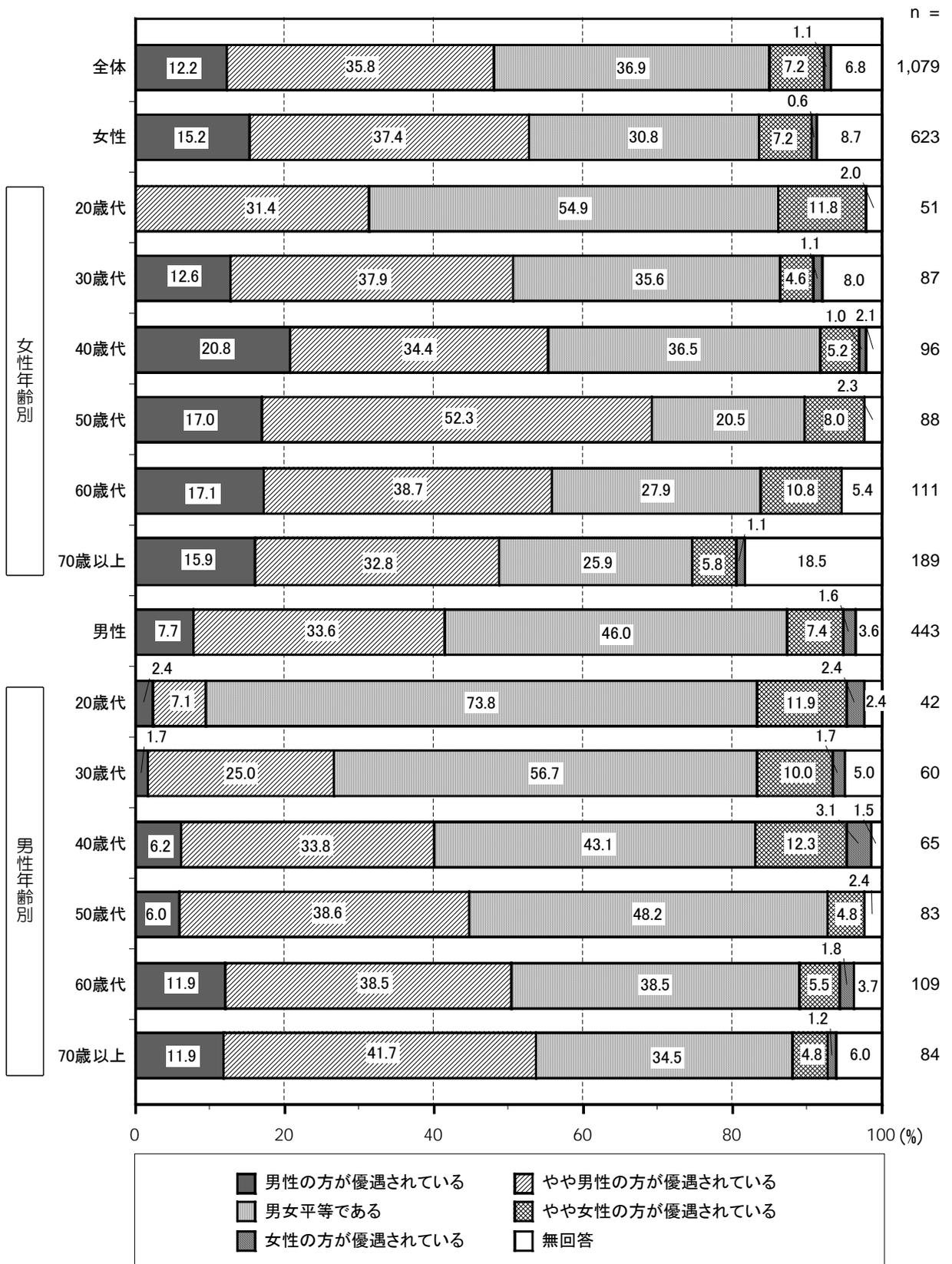
(2) 性別

- 女性では『男性が優遇されている』が約53%と高くなっており、男性では「男女平等である」が46.0%で、女性よりも10ポイント以上高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、50歳代において『男性が優遇されている』の割合が7割でピークとなっており、30歳代と70歳以上では全体でみた割合と同じぐらいです。また、20歳代では、「男女平等である」が54.9%と高くなっています。
- 男性では20歳代から年齢が高くなるにしがたって、『男性が優遇されている』の割合が高くなり、「男女平等である」の割合が低くなる傾向があるとうかがえます。

図表3-4 地域活動における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-5 政治の場

(1) 全体

- 「男性の方が優遇されている」が44.0%、「やや男性のほうに優遇されている」が36.5%で、合わせて『男性の方が優遇されている』は約8割です。(図表3-5)

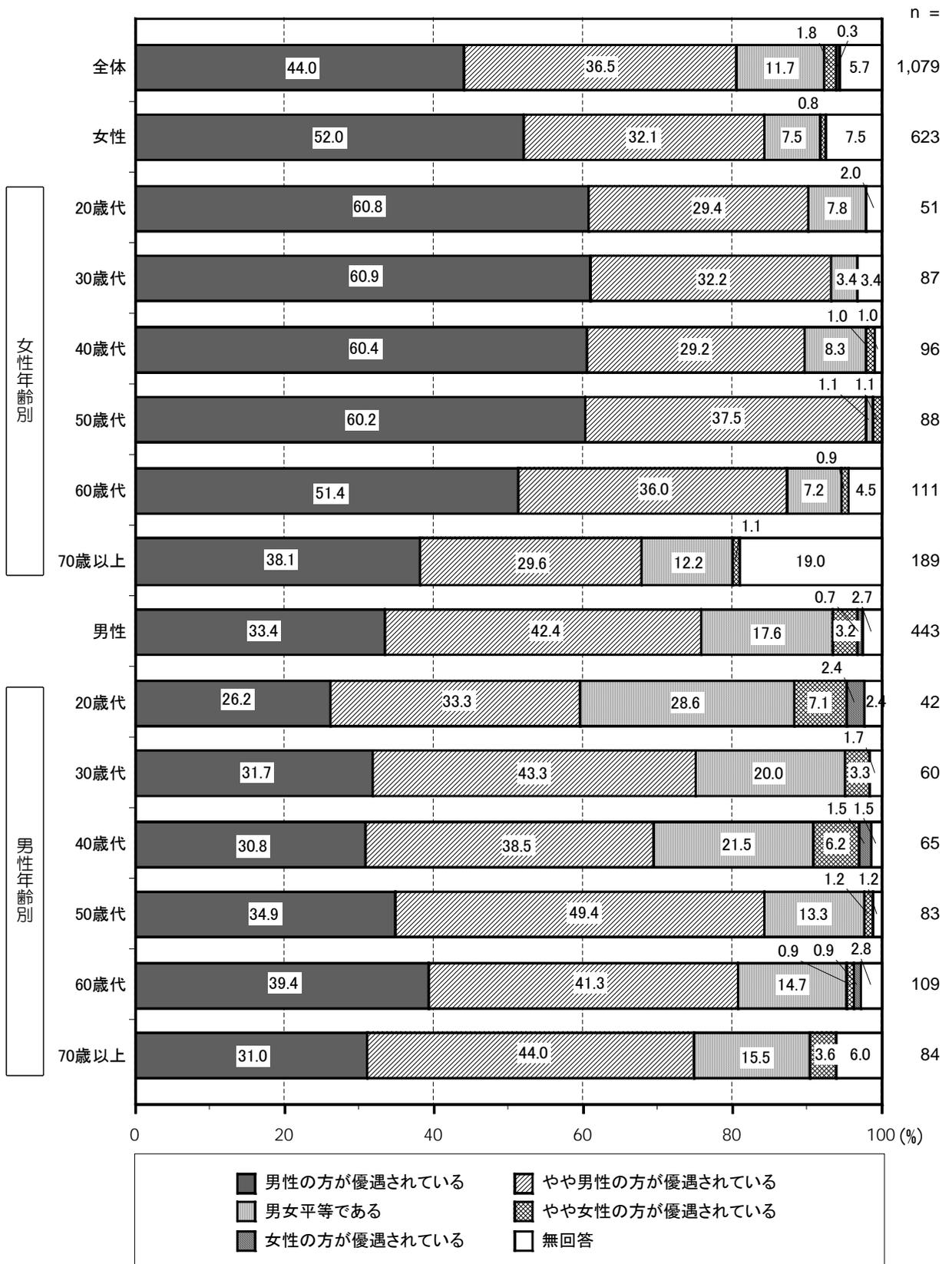
(2) 性別

- 女性では「男性の方が優遇されている」が52.0%で、男性よりも20ポイント近く高くなっています。
- 男性では、「やや男性の方が優遇されている」(42.4%)と「男女平等である」(17.6%)が、女性よりも10ポイント以上高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、20歳代から50歳代にかけて「男性の方が優遇されている」が約6割と高くなっています。
 - 男性では50歳代で『男性の方が優遇されている』が85%弱で、やや高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表3-5 政治の場における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-6 法律や制度上について

(1) 全体

○『男性が優遇されている』が約 54%で、「男女平等である」が 32.2%です。(図表 3-6)

(2) 性別

○女性では『男性の方が優遇されている』が 65%弱で、男性よりも 20 ポイント以上高くなっています。

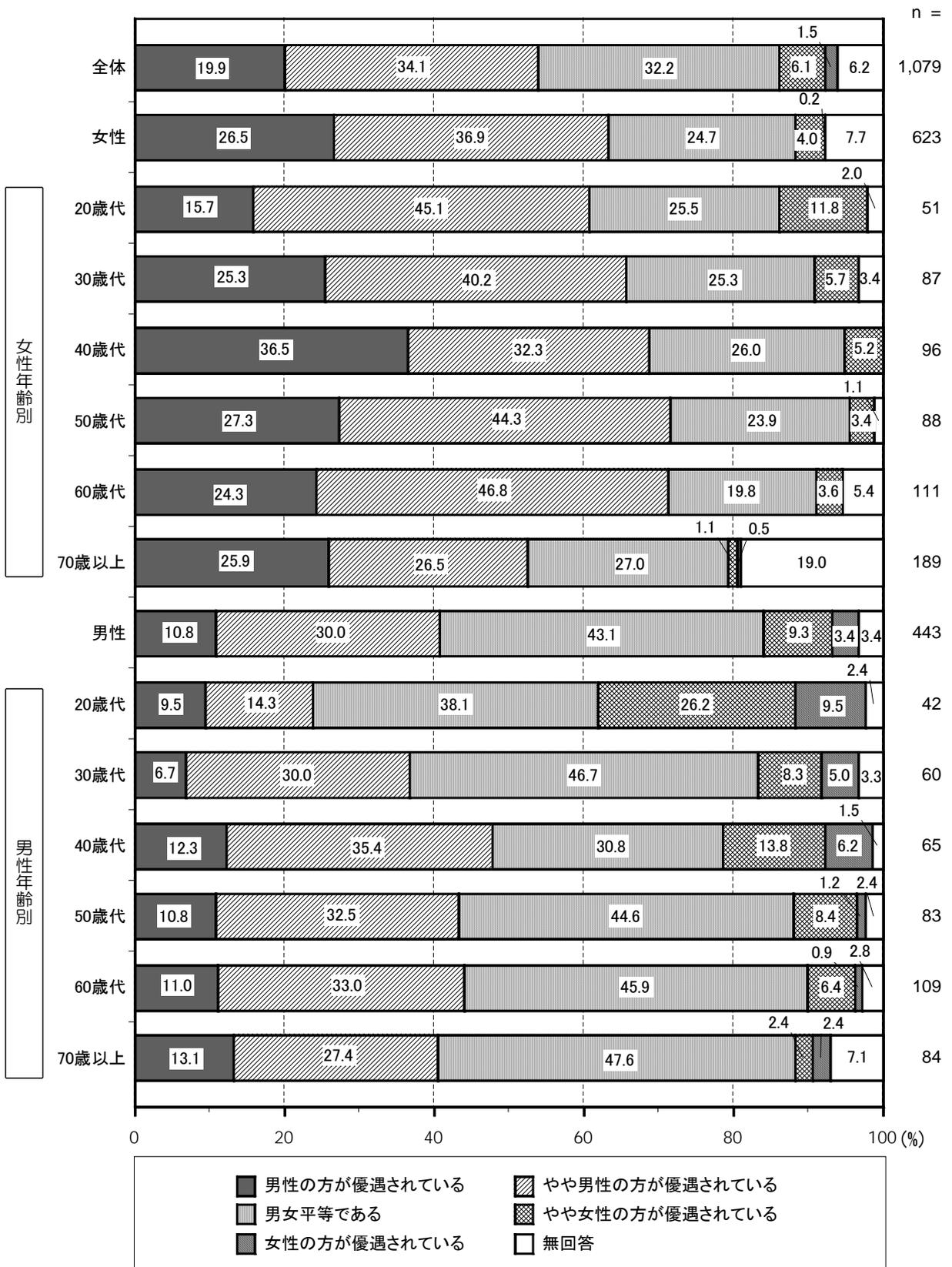
○男性では、「男女平等である」が 43.1%で、女性よりも 20 ポイント近く高くなっています。

(3) 性別・年齢別

○女性では、50 歳代と 60 歳代で『男性の方が優遇されている』が 7 割を超えて、やや高くなっています。

○男性では、40 歳代で『男性の方が優遇されている』が約 48%と高く、「男女平等である」が 30.8%で他の年齢層より低くなっています。

図表3-6 法律や制度上における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-7 社会通念・慣習・しきたりなど

(1) 全体

- 『男性が優遇されている』が約8割で圧倒的に多く、「男女平等である」が11.5%です。(図表3-7)

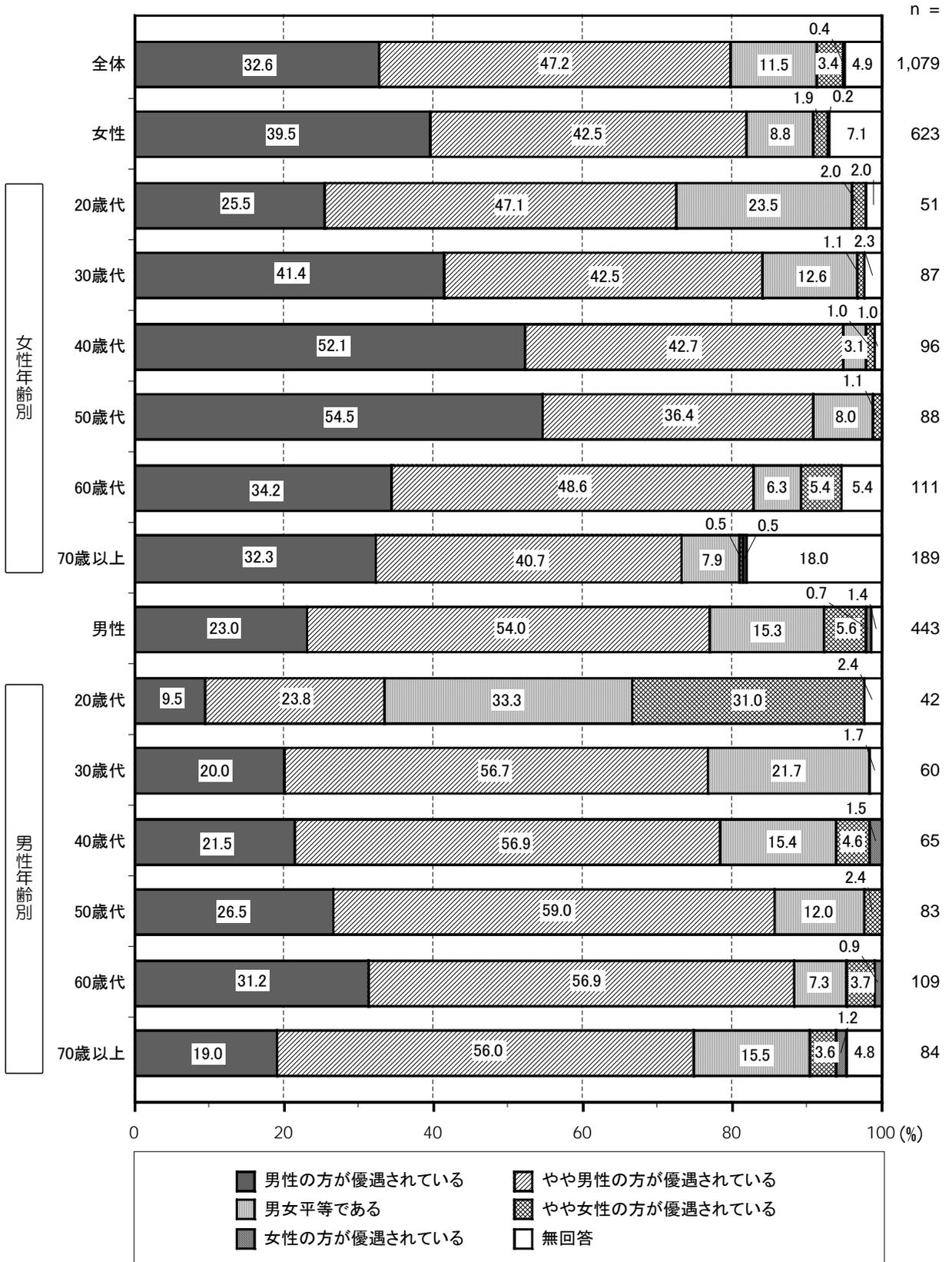
(2) 性別

- 女性では『男性の方が優遇されている』が約82%、男性では約77%であり、やや女性の割合が高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で『男性の方が優遇されている』が9割を超えて、特に高くなっています。
 - 男性では、50歳代と60歳代で『男性の方が優遇されている』が85%を超えて高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表3-7 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女平等についての現状認識
(性別・年齢別)



1-8 社会全体について

(1) 全体

- 「やや男性の方が優遇されている」が 54.6%で、『男性が優遇されている』が約 77%と多くなっています。「男女平等である」が 13.9%です。(図表 3-8)

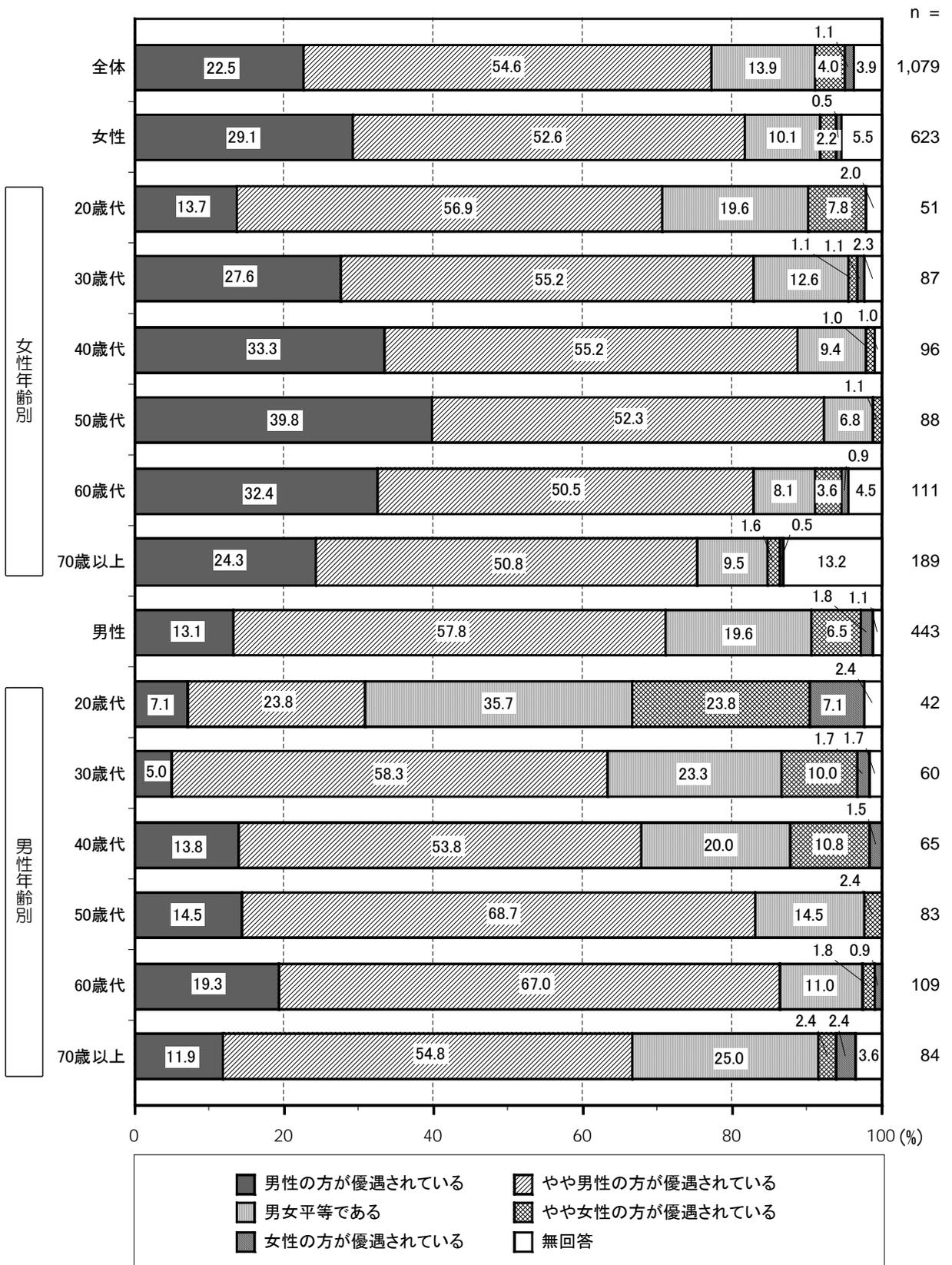
(2) 性別

- 女性では『男性の方が優遇されている』が約 82%で、男性では約 71%であり、10ポイント程度女性が高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 50 歳代で『男性の方が優遇されている』が 9 割を超えて特に高くピークとなっており、20 歳代と 70 歳以上では 7 割程度と低くなっています。
 - 男性では、60 歳代で『男性の方が優遇されている』が約 86%でピークとなっています。20 歳代では、「男女平等である」が 35.7%と他の年齢層より高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表3-8 社会全体における男女平等についての現状認識(性別・年齢別)



1-9 分野別の現状認識のまとめ

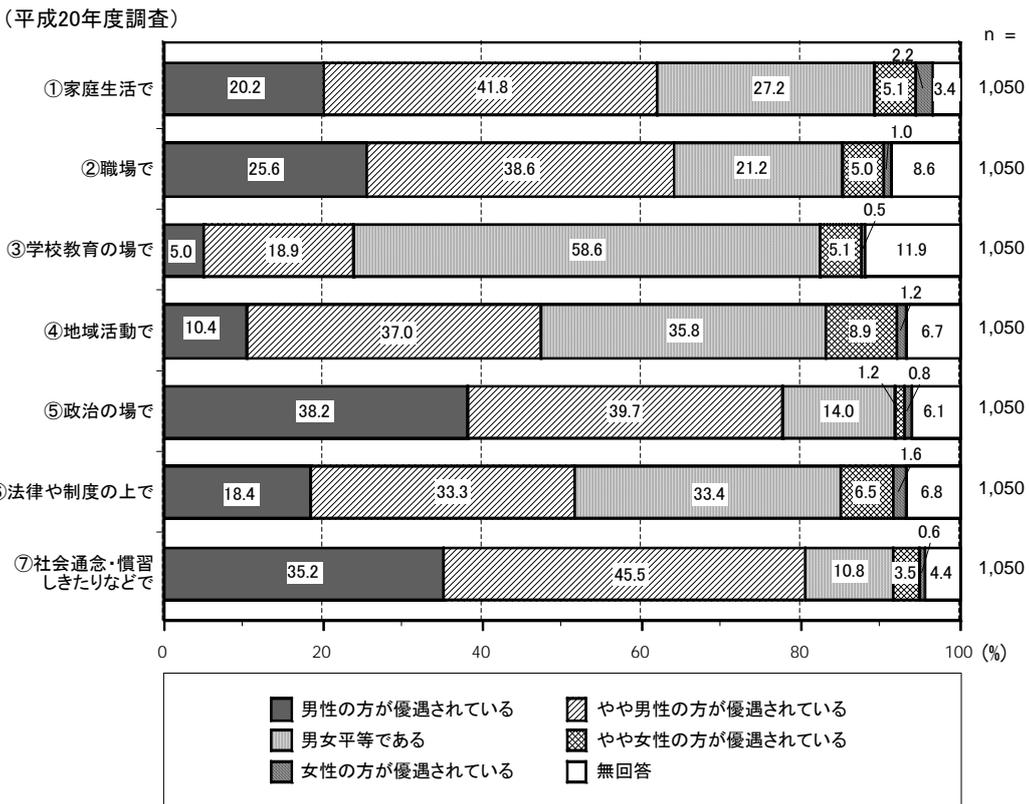
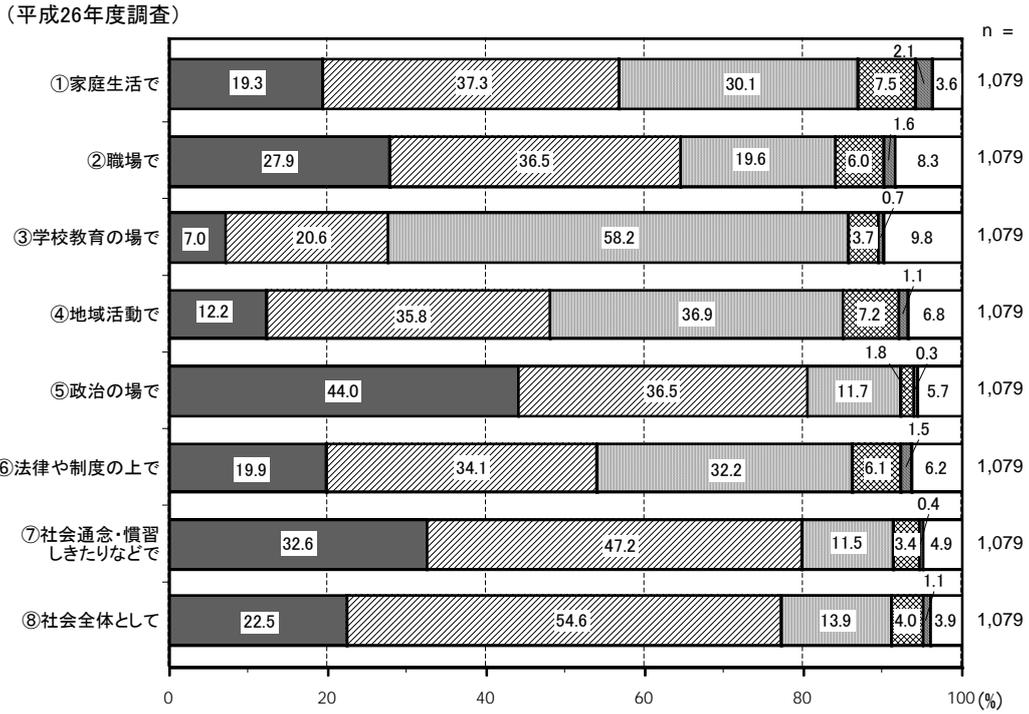
(1) 項目別の現状認識

- 『男性が優遇されている』が⑤政治の場で、⑦社会通念・慣習しきたりなどにおいて約8割と他の項目よりも高く、⑧社会全体としても約77%と高くなっています。
(図表 3-9)
- 次いで、『男性が優遇されている』が高いのは、②職場で(約64%)、①家庭生活上で(約57%)、⑥法律や制度上で(約54%)、④地域活動で(約48%)です。
- ③学校教育の場では『男性が優遇されている』が約28%と低く、「男女平等である」が58.2%に達しており、将来の世代において男女共同参画社会の一層の推進が期待されます。

(2) 過去の調査との比較

- ①家庭生活上について、本年度調査の結果が平成20年度調査よりも『男性が優遇されている』がやや低くなっています。
- 一方、③教育の場では、本年度調査が平成20年度調査よりも『男性が優遇されている』が高くなっています。
- そのほかの項目では、大きな変化はありません。

図表3-9 分野別における男女平等についての現状認識(平成20年度調査比較)



※平成20年度調査では、調査項目「⑧社会全体として」は実施せず

2. 男女共同参画についての話し合いや学習について

問2 あなたは、男女平等・男女共同参画についての話し合いや学習をしたことがありますか。主なものをお答えください。(○は1つ)

(1) 全体

- 「話し合ったり、学習したことがない」が52.9%を占めており、「家族で話した」から「男女平等・男女共同参画に関する研修会や講座などに参加した」までの『何らかの機会でも話した』のは約44%です。(図表3-10)
- 話し合った中では、主に「職場や労働組合で話したり、学習した」(12.0%)と「友人と話した」(11.4%)、「家族で話した」(9.9%)など、回答が分かれています。

(2) 性別

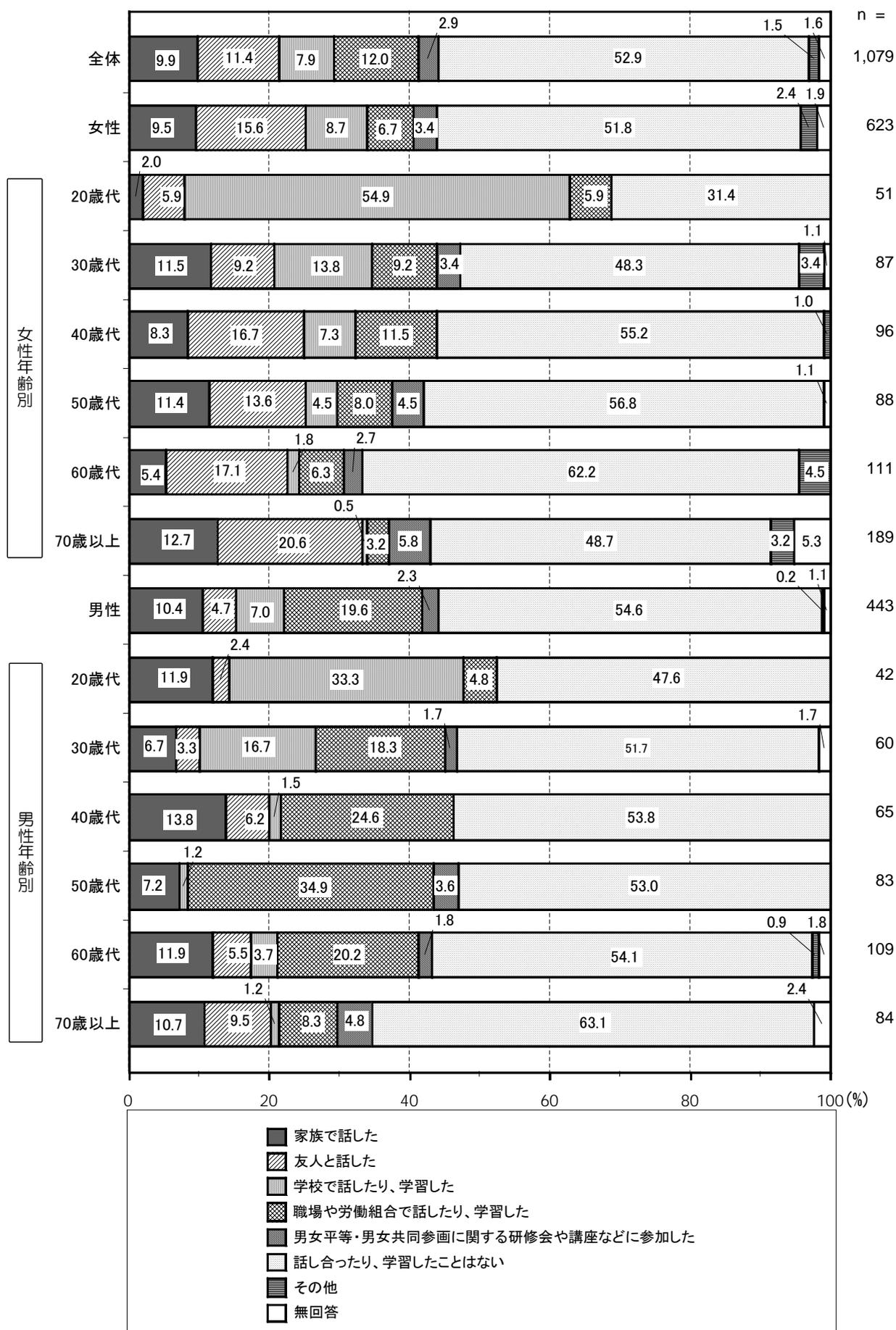
- 女性、男性とも「話し合ったり、学習したことがない」が半数を超えています。
- 女性では「友人と話した」(15.6%)が高く、「職場や労働組合で話したり、学習した」(6.7%)が低くなっています。逆に男性では「友人と話した」(4.7%)が低く、「職場や労働組合で話したり、学習した」(19.6%)が高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では60歳代から若くなるにしたがって、『何らかの機会でも話した』の割合が高くなっていると思われます。20歳代では「学校で話したり、学習した」が54.9%と非常に高い割合になっています。
- 男性でも20歳代で「学校で話したり、学習した」が33.3%と他の年齢層よりも高く、『何らかの機会でも話した』も約52%と高くなっています。また、50歳代では「職場や労働組合で話したり、学習した」が34.9%と高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表3-10 男女共同参画についての話し合いや学習について(性別・年齢別)



3. 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について

問3 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように考えますか。(○は1つ)

(1) 全体

- 「どちらともいえない」が43.0%と多く、次いで「どちらかといえば賛成」が27.7%となっています。(図表3-11)
- 「賛成」(4.2%)と「どちらかといえば賛成」(27.7%)を合わせると、『賛成』が約32%、「どちらかといえば反対」(13.5%)と「反対」(11.1%)を合わせると、『反対』が約25%で、賛成意見のほうが多くなっています。

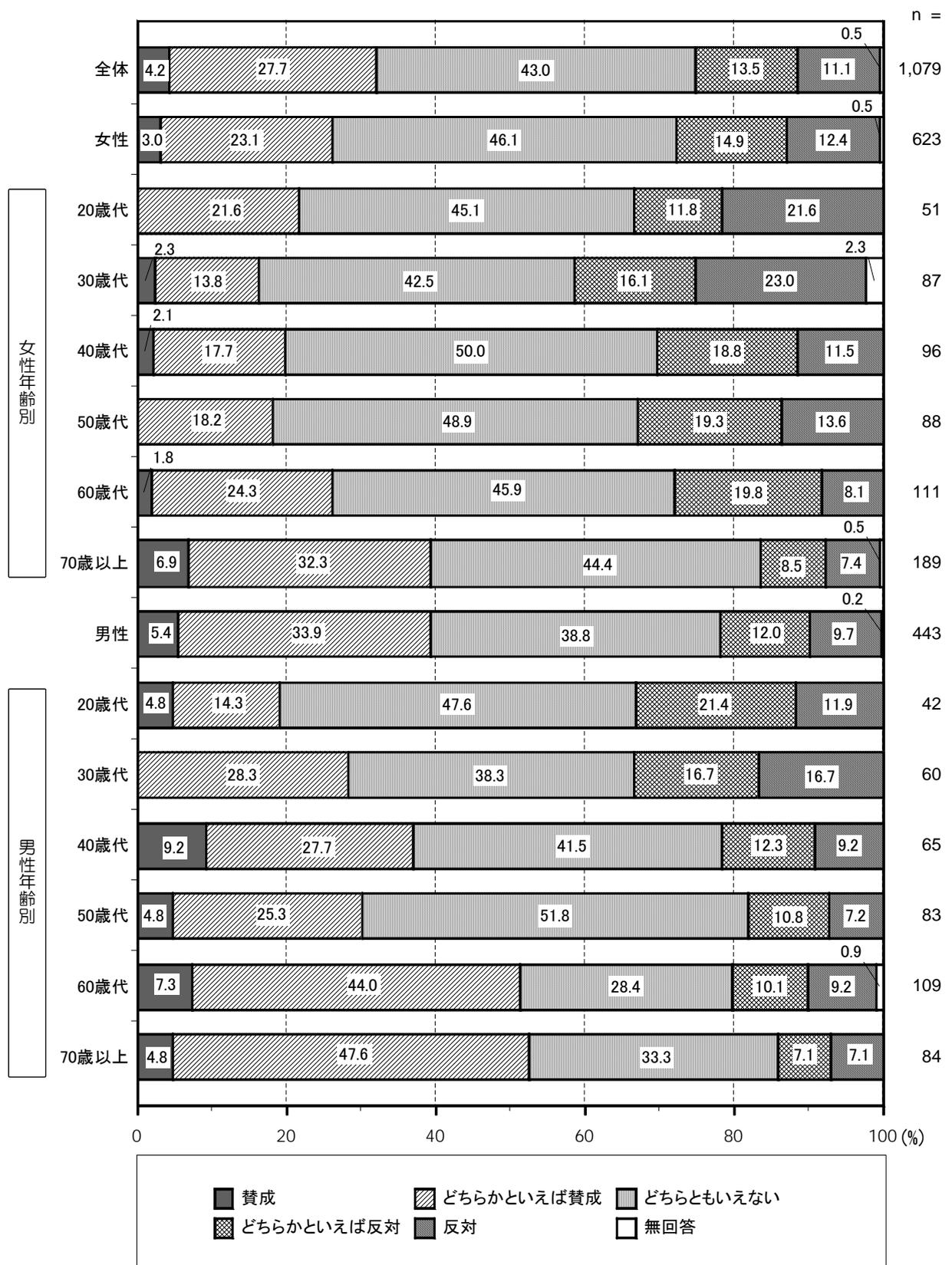
(2) 性別

- 女性では『賛成』が約26%で、『反対』が約27%と拮抗しています。
- 男性では『賛成』が約40%と高くなっています。
- ※『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」、「どちらともいえない」、『反対』(「どちらかといえば反対」*「反対」)と選択肢をまとめて検定しています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、子育て期の家庭が多い30歳代で『反対』が4割近くと高くなっています。
- 男性では、60歳以上で『賛成』が5割を超えており、一方、30歳代以下では『反対』が概ね3分の1と、他の年齢層よりも高くなっています。

図表3-11 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について(性別・年齢別)



4. 岡崎市における地域の慣習やしきたりについて

問4 あなたは、岡崎市において地域の慣習やしきたりで、現在も続いていると感じるものがありますか(○は2つまで)

(1) 全体

- 「行事における雑用は主に女性が行っていると思う」が43.8%、「自治会やPTAなどの役員には夫の名前を書くが実際は妻がやっていると思う」が36.4%と高くなっており、女性が地域支えているという意見が多くなっています。(図表3-12)
- 「既婚女性は「〇〇さん家のお嫁さん」「〇〇ちゃんのお母さん」と呼ばれていると思う」が28.8%、「自治会やPTAなどの役員は男性に任されることが通例になっていると思う」が22.2%、「公共の場では、女性の意見よりも男性の意見が優先されている傾向があると思う」が16.1%です。

(2) 性別

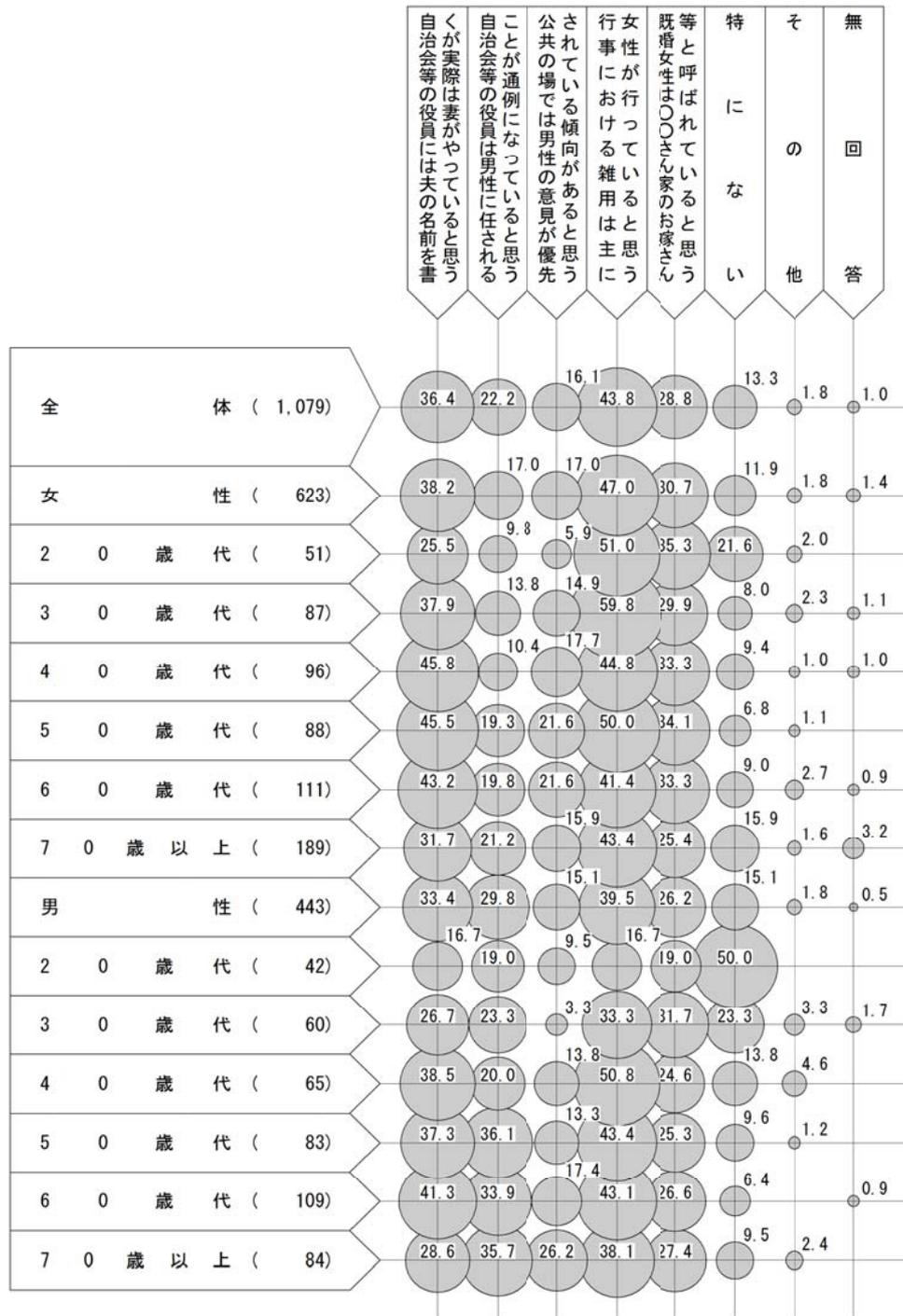
- 女性で「行事における雑用は主に女性が行っていると思う」が47.0%とやや高くなっています。
 - 男性で「自治会やPTAなどの役員は男性に任されることが通例になっていると思う」が29.8%と女性に比べて高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。(有意差がない項目が多い)

(3) 性別・年齢別

- 女性では地域活動を担っている20歳代、30歳代、50歳代で「行事における雑用は主に女性が行っていると思う」が高くなっており、特に30歳代では約6割に達しています。さらに、40歳代から60歳代で「自治会やPTAなどの役員には夫の名前を書くが実際は妻がやっていると思う」が43%を超えて高くなっています。
- 男性では40歳代で「行事における雑用は主に女性が行っていると思う」が50.8%で、女性と同様、高くなっています。また、女性と同様に、40歳代から60歳代で「自治会やPTAなどの役員には夫の名前を書くが実際は妻がやっていると思う」が37%以上でほかの年齢層よりも高くなっています。50歳代と70歳以上では、「自治会やPTAなどの役員は男性に任されることが通例になっていると思う」が35%を超えて高くなっています。

▽1-2：概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で有意差がない。

図表3-12 岡崎市における地域の慣習やしきたりについて(性別・年齢別)



第4章 家庭生活について

1. 家庭生活における担当について

問5 あなたの家庭では、次のことをどなたが主に行っていますか。(それぞれに1つ○)

1-1 食事のしたく

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が66.0%と、多くなっています。次いで、「自分のみ(単身)」(17.5%)を除くと、「女性が多いが男性も分担」が9.3%と多くなっており、そのほかの項目は数パーセント未満とわずかです。(図表4-1)
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約75%と圧倒的に多く、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)は約2%です。

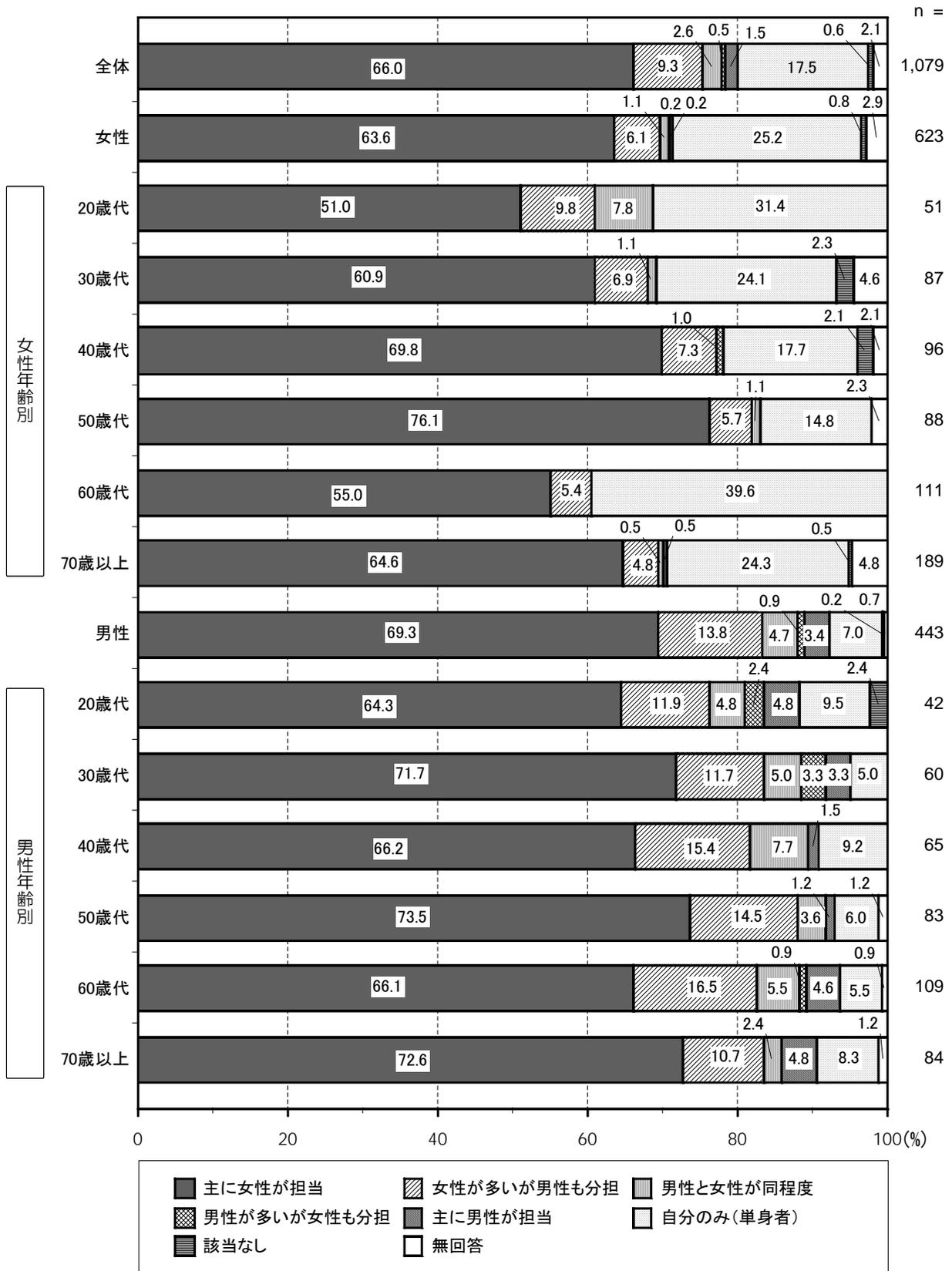
(2) 性別

- 女性では「自分のみ(単身)」が25.2%と高くなっており、『主に女性が担当』が約7割で、全体で見た場合よりもやや低くなっています。
 - 男性では『主に女性が担当』が約83%で、女性よりも10数ポイント高くなっています。
- ※問5のカイ二乗検定においては、図示している選択肢によるクロス集計では検定が困難な場合が多く、『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)と「男性と女性が同程度」、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)と選択肢をまとめて検定した結果を示しています。しかし、性別のクロスでも検定が不能の場合があります。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、20歳代から50歳代まで、年齢にしたがって『主に女性が担当』の割合が高くなっています。20歳代と60歳代では「自分のみ(単身)」が他の年齢層よりも高く、60歳代では約4割となっています。
 - 男性では20歳代を除いて、『主に女性が担当』が8割を超えています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-1 食事のしたく担当(性別・年齢別)



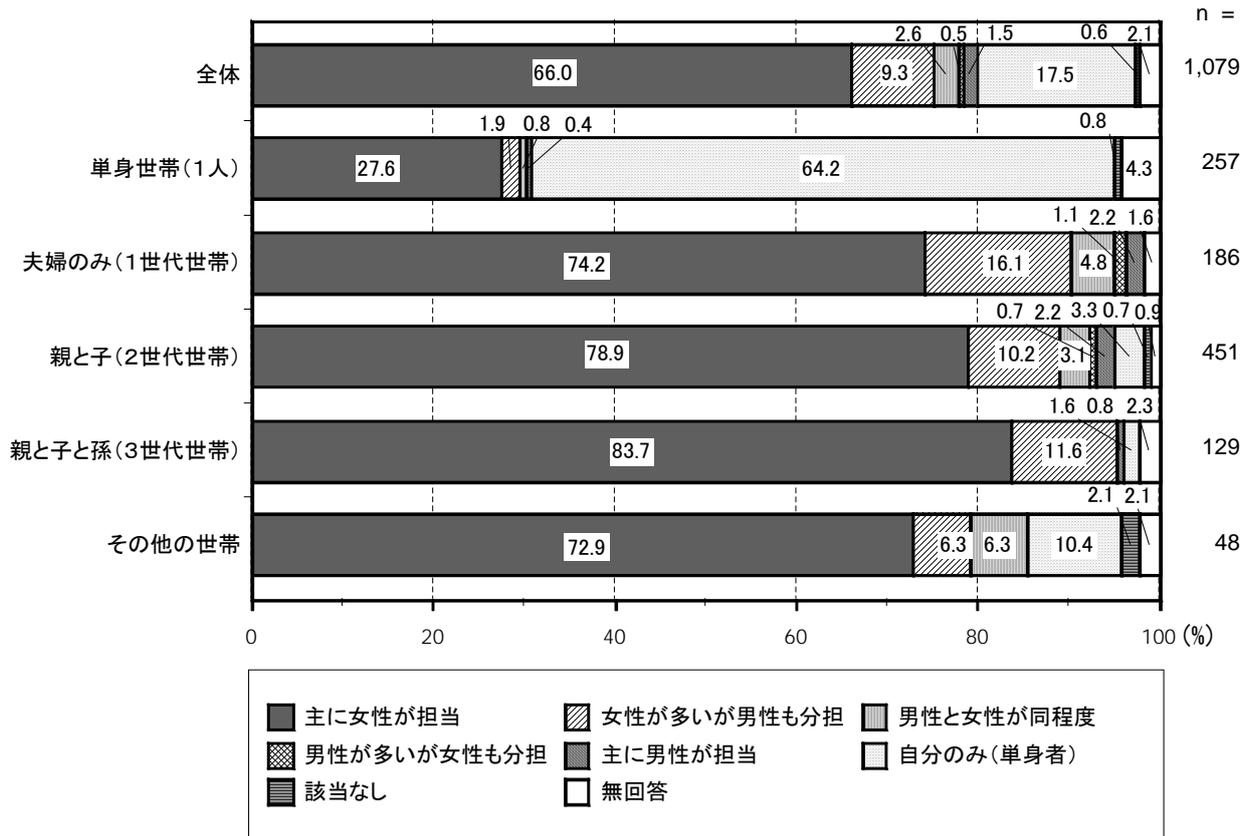
(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）では、『主に女性が担当』の割合が高く、親と子と孫（3世代世帯）では約95%に達しています。（図表4-2）

○夫婦のみ（1世代世帯）では「女性が多いが男性も分担」が16.1%と高くなっています。

▼3-3：（選択肢をまとめても）期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-2 食事のしたく担当(世帯)



※単身世帯の場合には、「自分のみ（単身者）」に回答を補正することも考えられますが、近居する親子などで「主に女性が担当」などの実情がある場合などが考えられるため、回答状況をそのまま集計しています。

1-2 食事の後片付け

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が56.4%と、多くなっています。(図表4-3)
 - 「女性が多いが男性も分担」が15.0%で、「男性と女性が同程度」は4.4%です。
 - 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約72%、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)は約4%です。
- ※「自分のみ(単身者)」は図表4-15までほぼ同様の傾向になるため、1-2~1-15までにおいては、あまり記述しません。

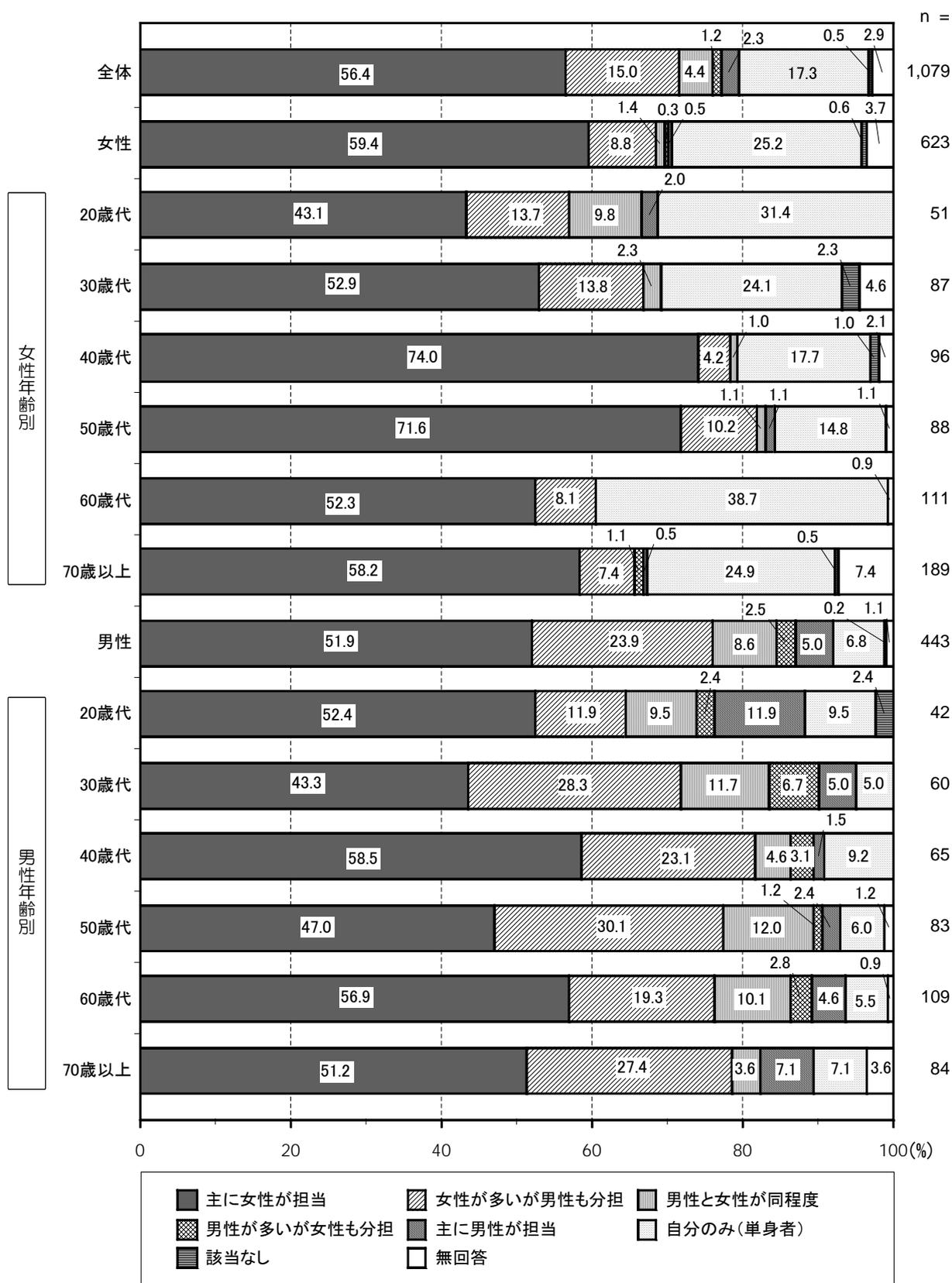
(2) 性別

- 『主に女性が担当』は男性が約76%で女性よりも高くなっています。
- 一方、その内訳では女性では「主に女性が担当」が59.4%とやや高くなっており、男性では「女性が多いが男性も分担」が23.9%で女性の3倍近くのポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で、『主に女性が担当』が78%以上、内訳の「主に女性が担当」の割合が7割を超えて高くなっています。
 - 男性では40歳代で『主に女性が担当』が約82%と高く、さらに50歳代で「女性が多いが男性も分担」が30.1%、20歳代では『主に男性が担当』が約14%でほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3:(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

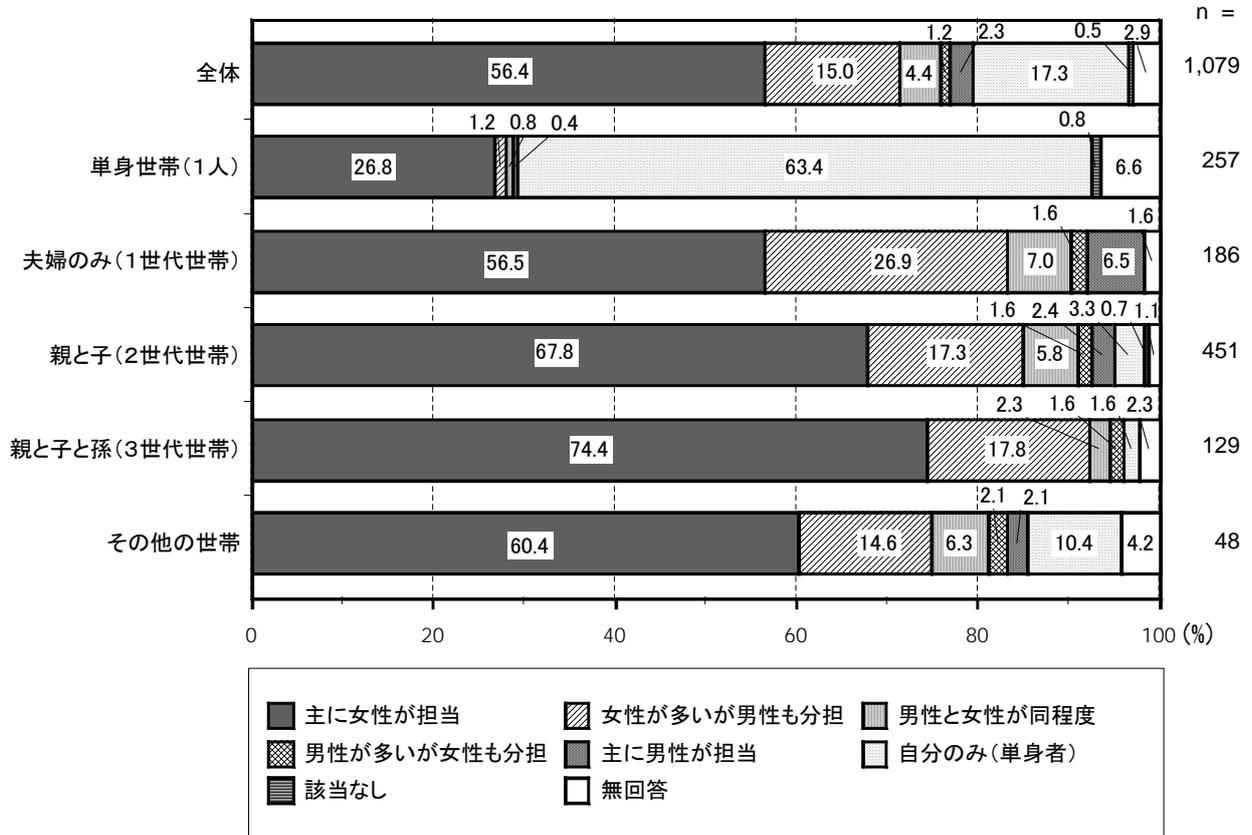
図表4-3 食事の後片づけの担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。（図表4-4）

図表4-4 食事の後片づけの担当(世帯)



1-3 ごみやリサイクルの分類

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 46.5%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 14.9%です。(図表 4-5)
- 「男性と女性が同程度」は 9.9%、「主に男性が担当」は 5.5%と少なくなっています。
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 61%、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）は約 8%です。

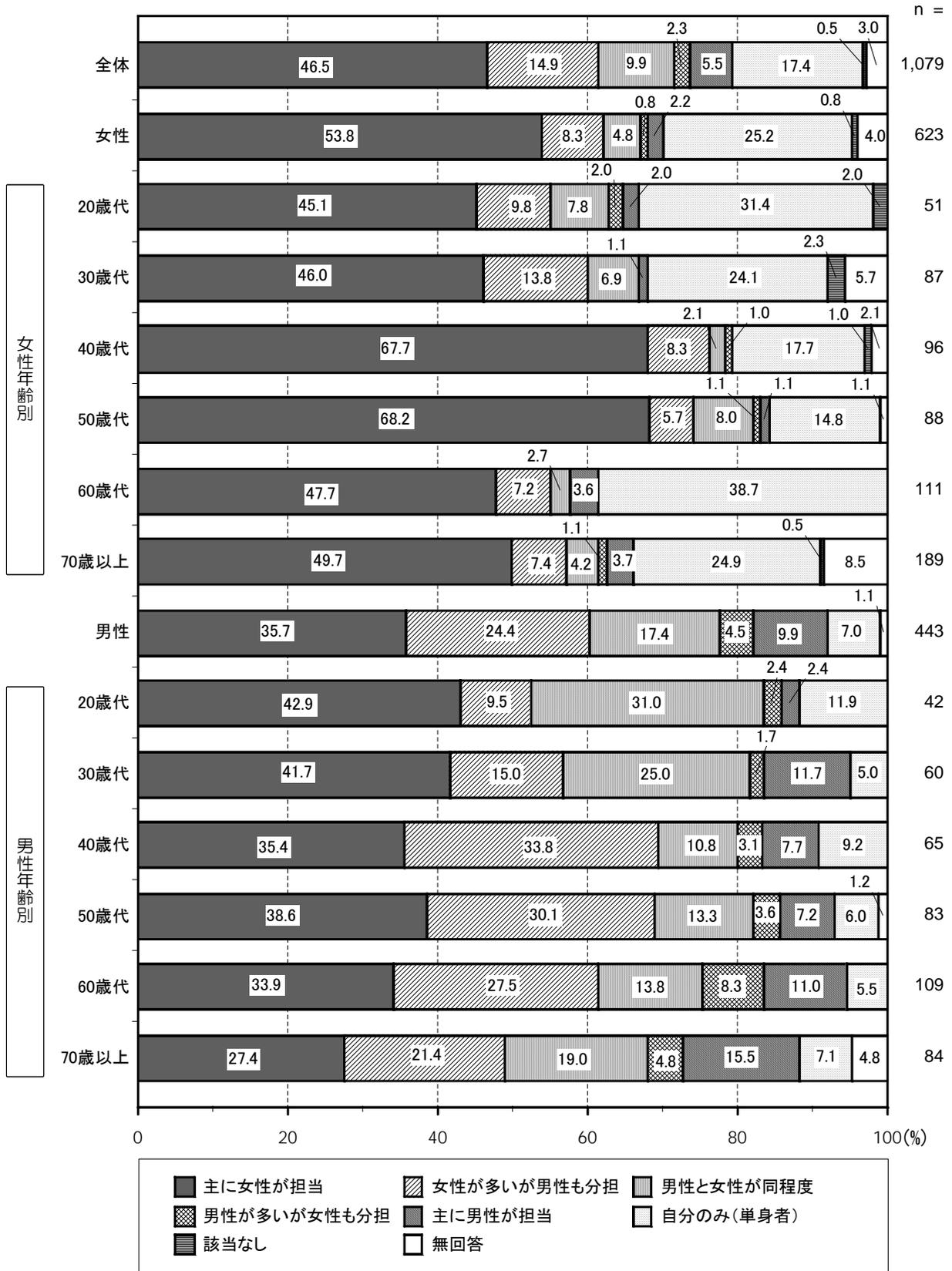
(2) 性別

- 『主に女性が担当』は女性と男性で、ほとんど差がありませんが、女性では「主に女性が担当」が 53.8%と高くなっています。
- 一方、男性では「女性が多いが男性も分担」が 24.4%、「男性と女性が同程度」が 17.4%で女性よりもそれぞれ 3～4 倍のポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40 歳代と 50 歳代で『主に女性が担当』が 73%以上と高くなっています。
- 男性では 40 歳代と 50 歳代で『主に女性が担当』が 7 割近くと高くなっていますが、内訳は「女性が多いが男性も分担」が 3 割を超えて、他の年齢層よりも高くなっています。

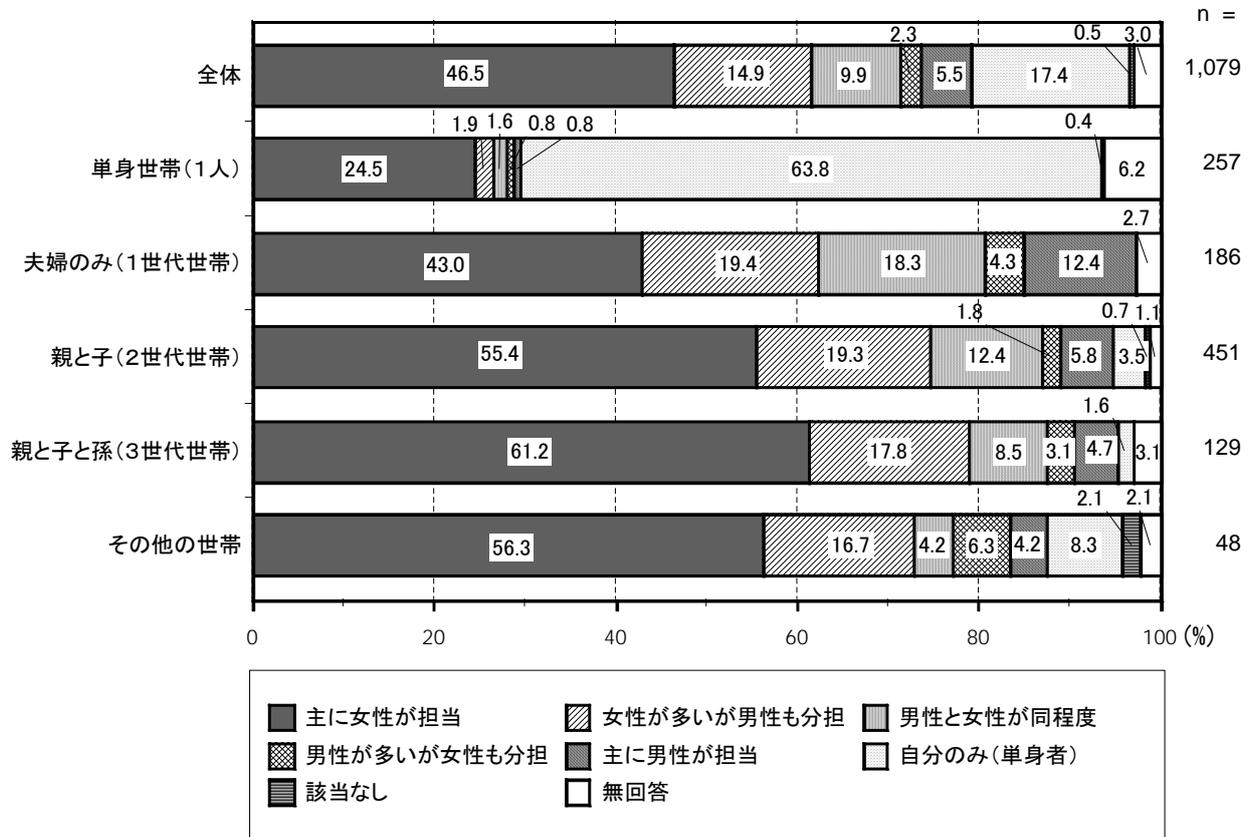
図表4-5 ごみやリサイクルの分類担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。（図表4-6）

図表4-6 ごみやリサイクルの分類担当(世帯)



1-4 ごみを出す担当

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が41.1%と多く、次いで「主に男性が担当」は15.1%、「女性が多いが男性も分担」が11.6%です。(図表4-7)
- 「男性と女性が同程度」は6.9%と少なくなっています。
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約53%と半数近くで、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)は約20%です。

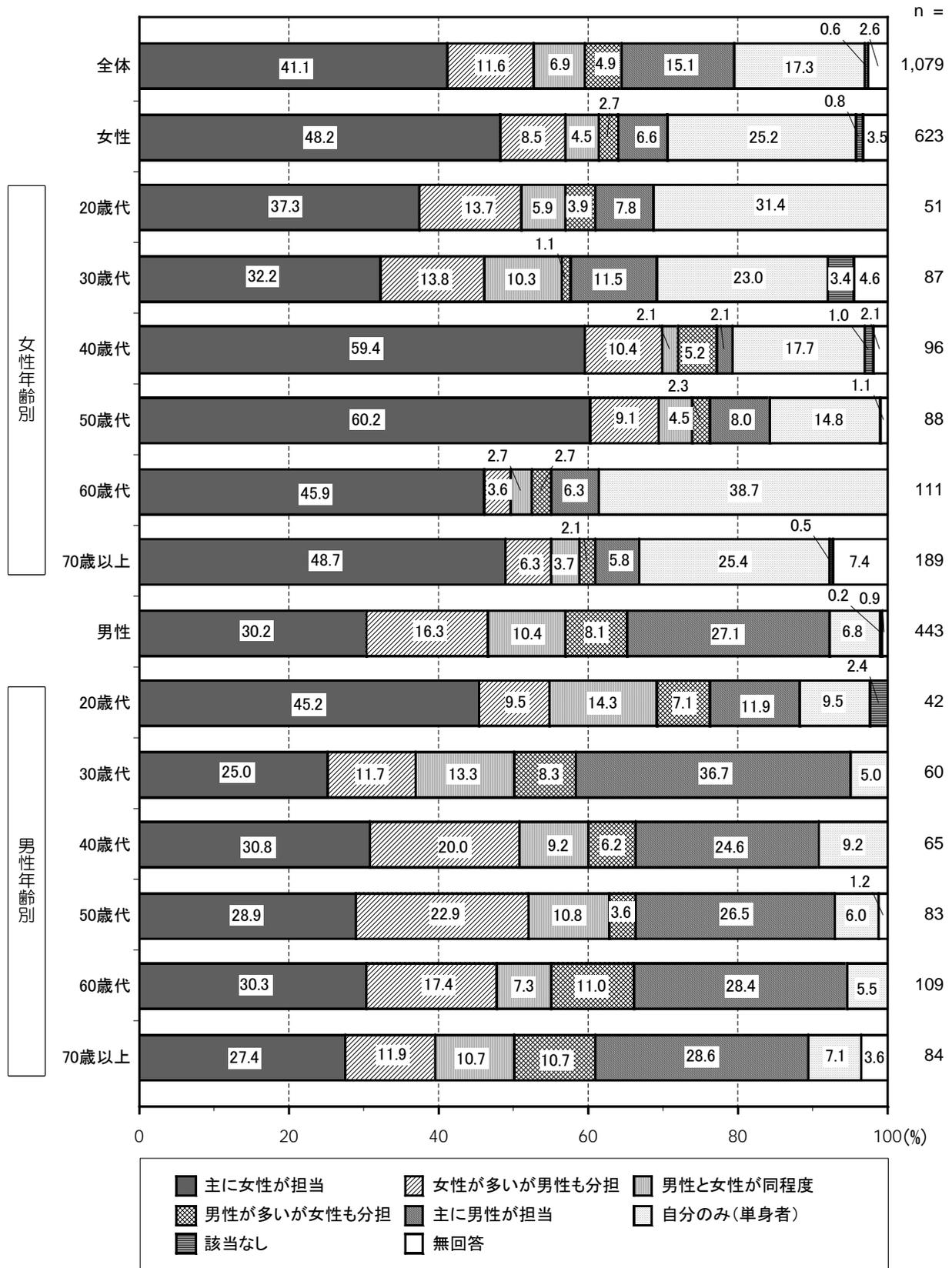
(2) 性別

- 女性では『主に女性が担当』が約57%で、男性よりも10ポイント高くなっています。
- 男性では『主に男性が担当』が約35%と、女性の4倍近くのポイントとなっています。その内訳では「主に男性が担当」が27.1%と高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で『主に女性が担当』が約7割と高くなっており、30歳代ではこの割合が5割を切り低くなっています。
- 男性では60歳代以上で『主に男性が担当』が約4割とやや高くなっています。

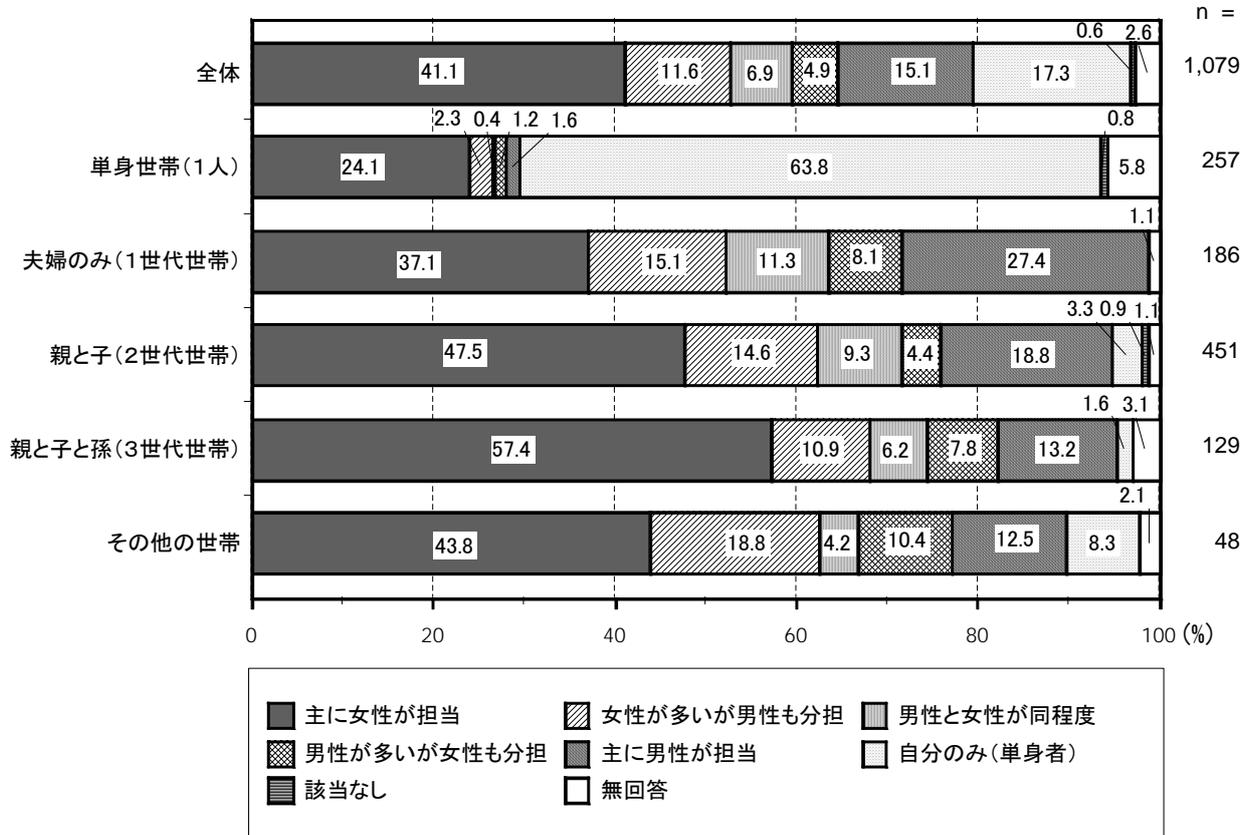
図表4-7 ごみを出す担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。（図表4-8）

図表4-8 ごみを出す担当(世帯)



1-5 洗濯等の担当

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 59.8%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 12.2%です。
- 「男性と女性が同程度」は 4.0%と少なくなっています。(図表 4-9)
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約 72%と高く、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)はわずかに約 3%です。

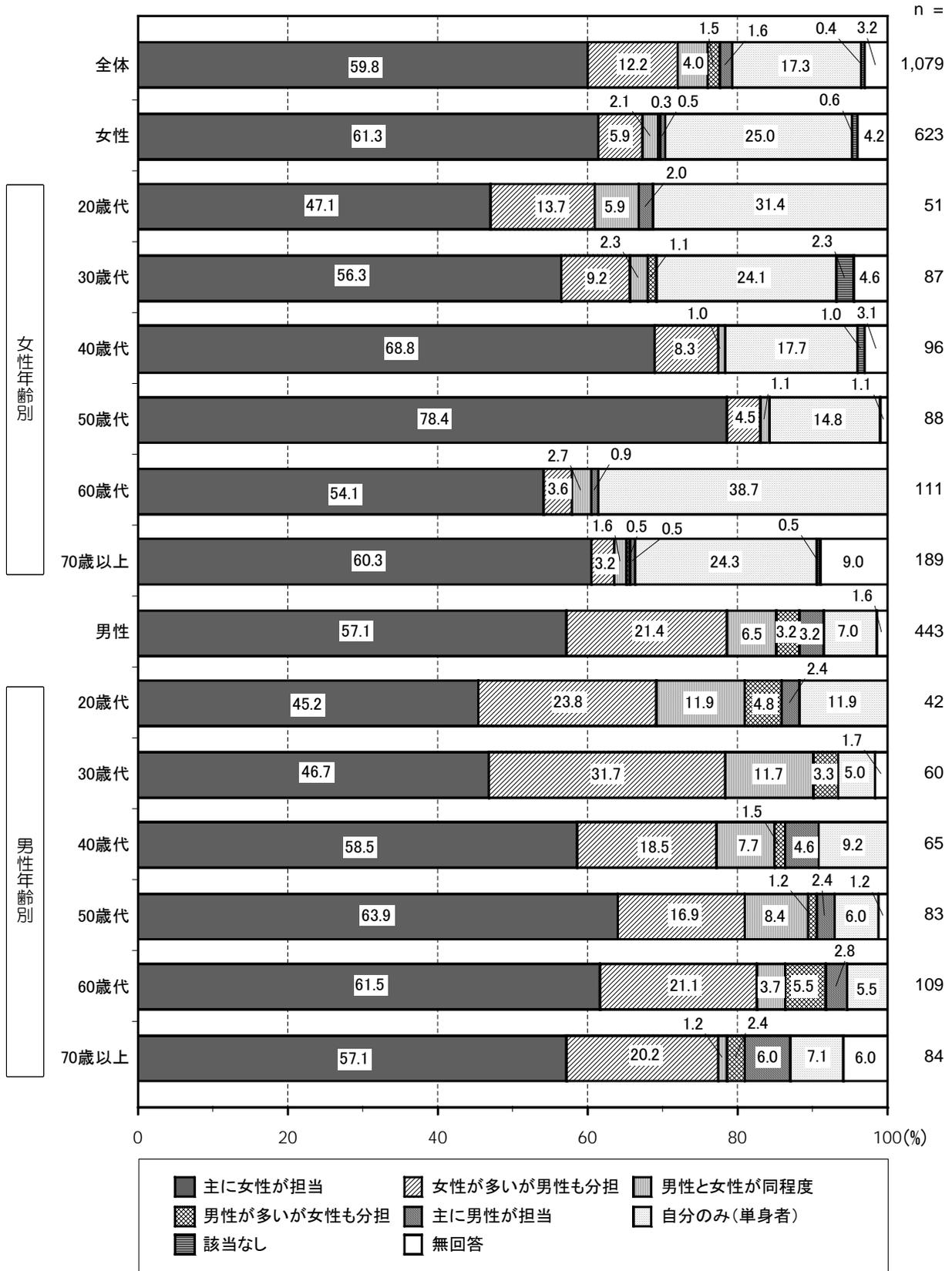
(2) 性別

- 男性では『主に女性が担当』が約 79%で、女性と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40 歳代と 50 歳代で『主に女性が担当』が高くなっており、50 歳代では約 83%と特に高くなっています。
 - 男性では 50 歳代と 60 歳代で『主に女性が担当』が 8 割を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。男性では子育て期の 30 歳代で、「女性が多いが男性も分担」が 31.7%と高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

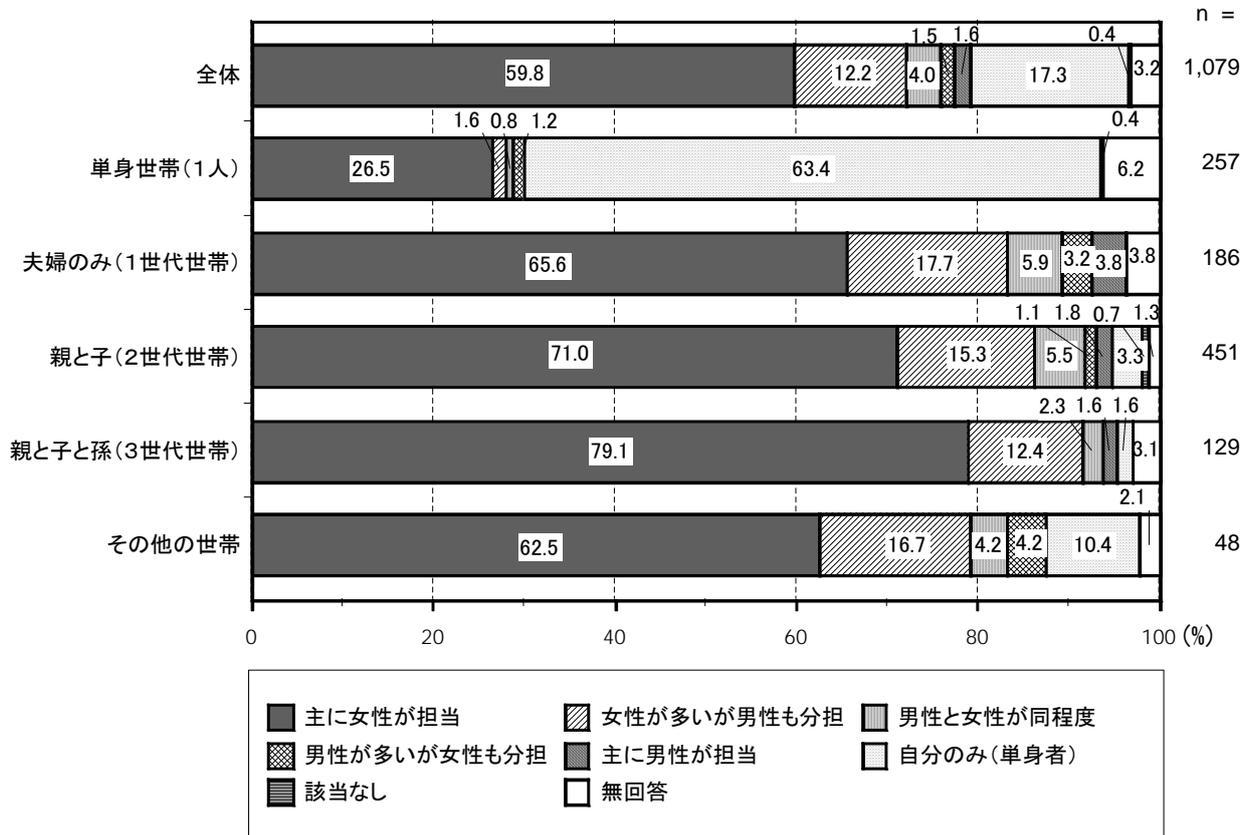
図表4-9 洗濯等の担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっており、親と子と孫（3世代世帯）では9割を超えています。『主に女性が担当』は夫婦のみ（1世代世帯）でも約83%と高くなっていきます。（図表4-10）

図表4-10 洗濯等の担当(世帯)



1-6 洗濯等の取り入れの担当

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 54.9%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 15.6%です。(図表 4-11)
- 「男性と女性が同程度」は 5.0%となっています。
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 70%と高く、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）は約 4%です。

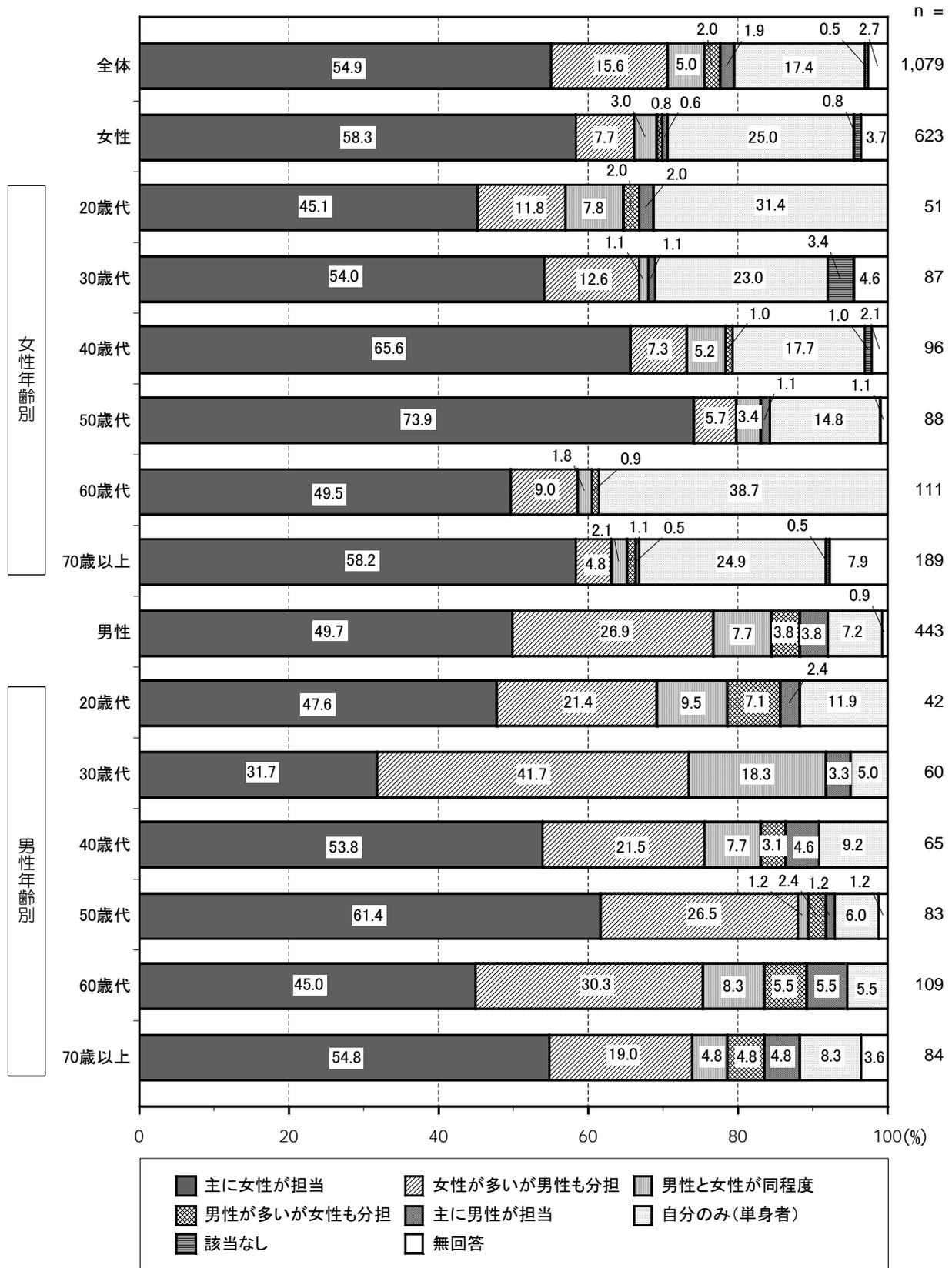
(2) 性別

- 女性では「主に女性が担当」が 58.3%と高くなっています。
- 男性では『主に女性が担当』が約 77%と女性よりも 10ポイント高くなっていますが、内訳では「女性が多いが男性も分担」が 26.9%と女性の3倍を超えるポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で『主に女性が担当』が高くなっており、50歳代では約8割と特に高くなっています。
 - 男性では50歳代で『主に女性が担当』が約88%と高くなっています。一方、子育て期の30歳代で「女性が多いが男性も分担」が41.7%と最も高くなっており、「男性と女性が同程度」が18.3%でほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

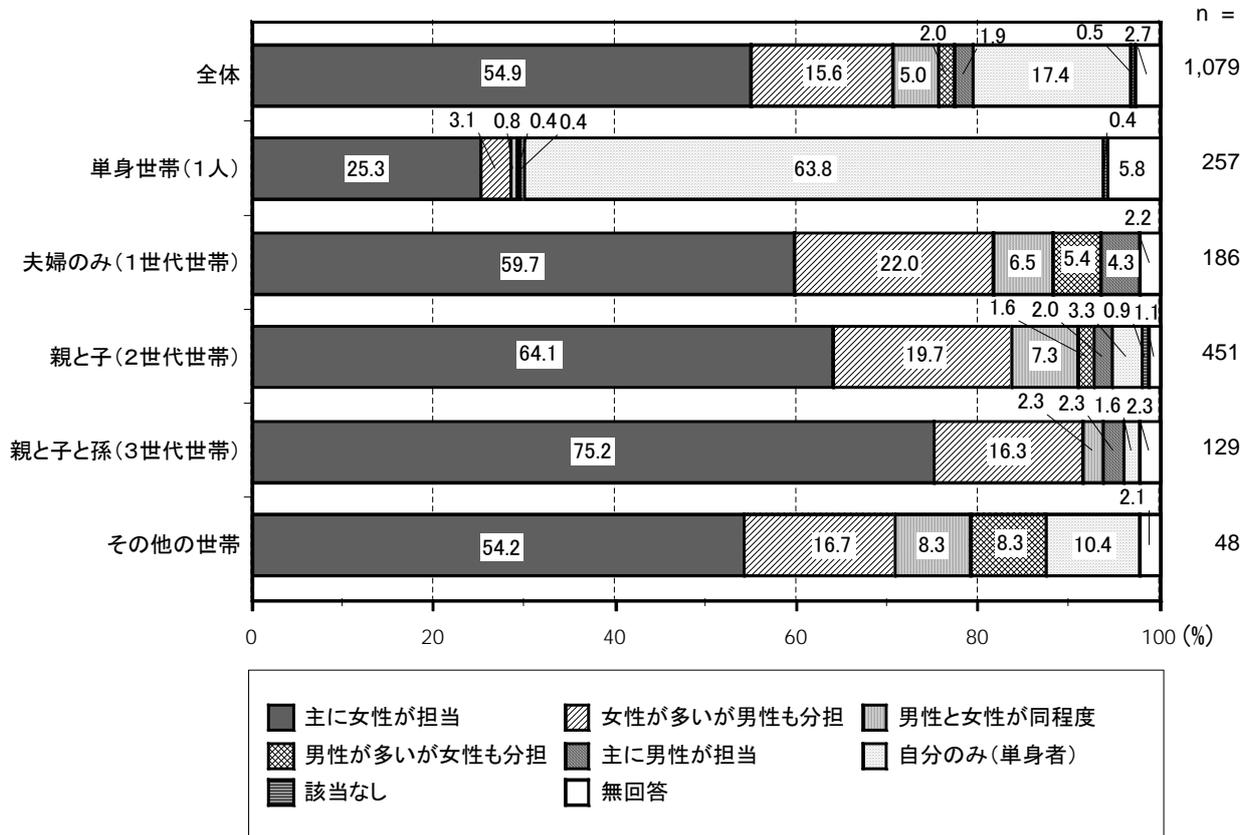
図表4-11 洗濯物の取り入れ等の担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。『主に女性が担当』は夫婦のみ（1世代世帯）でも8割を超え、親と子と孫（3世代世帯）では約92%と なっています。（図表4-12）

図表4-12 洗濯物の取り入れ等の担当(世帯)



1-7 食料品等の買い物

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 50.1%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 17.6%です。(図表 4-13)
- 「男性と女性が同程度」は 8.5%とみられます。
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 68%、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）はわずかに約 3%です。

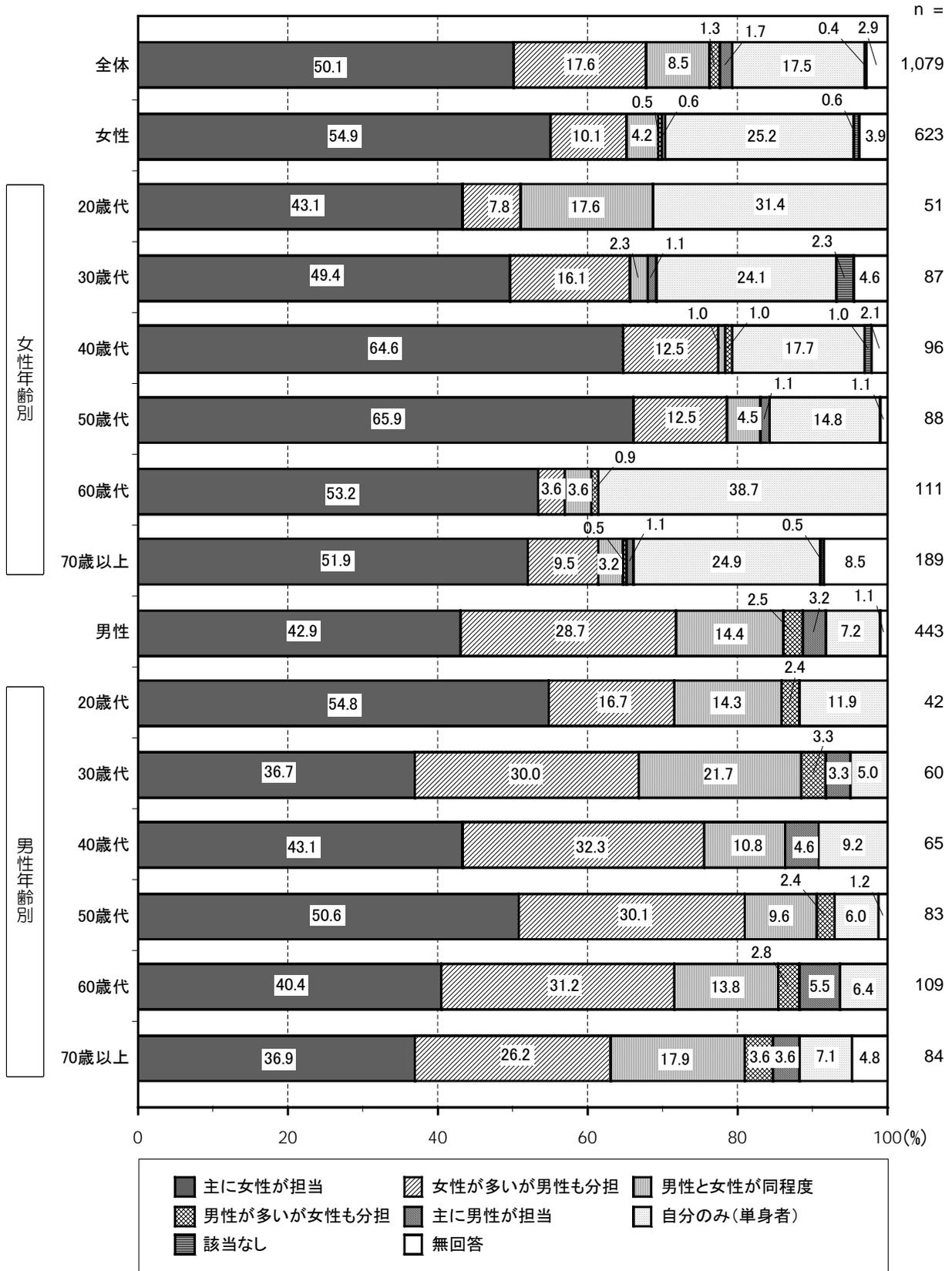
(2) 性別

- 女性では「主に女性が担当」が 54.9%と高くなっています。
- 男性では『主に女性が担当』が約 72%と女性より高くなっていますが、その内訳では「女性が多いが男性も分担」が 28.7%、また「男性と女性が同程度」が 14.4%と、女性に比べて高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で『主に女性が担当』が77%以上と高くなっています。20歳代では、「男性と女性が同程度」が17.6%とほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では50歳代で『主に女性が担当』が8割を超えて高くなっています。子育て期の30歳代では「男性と女性が同程度」が21.7%で、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

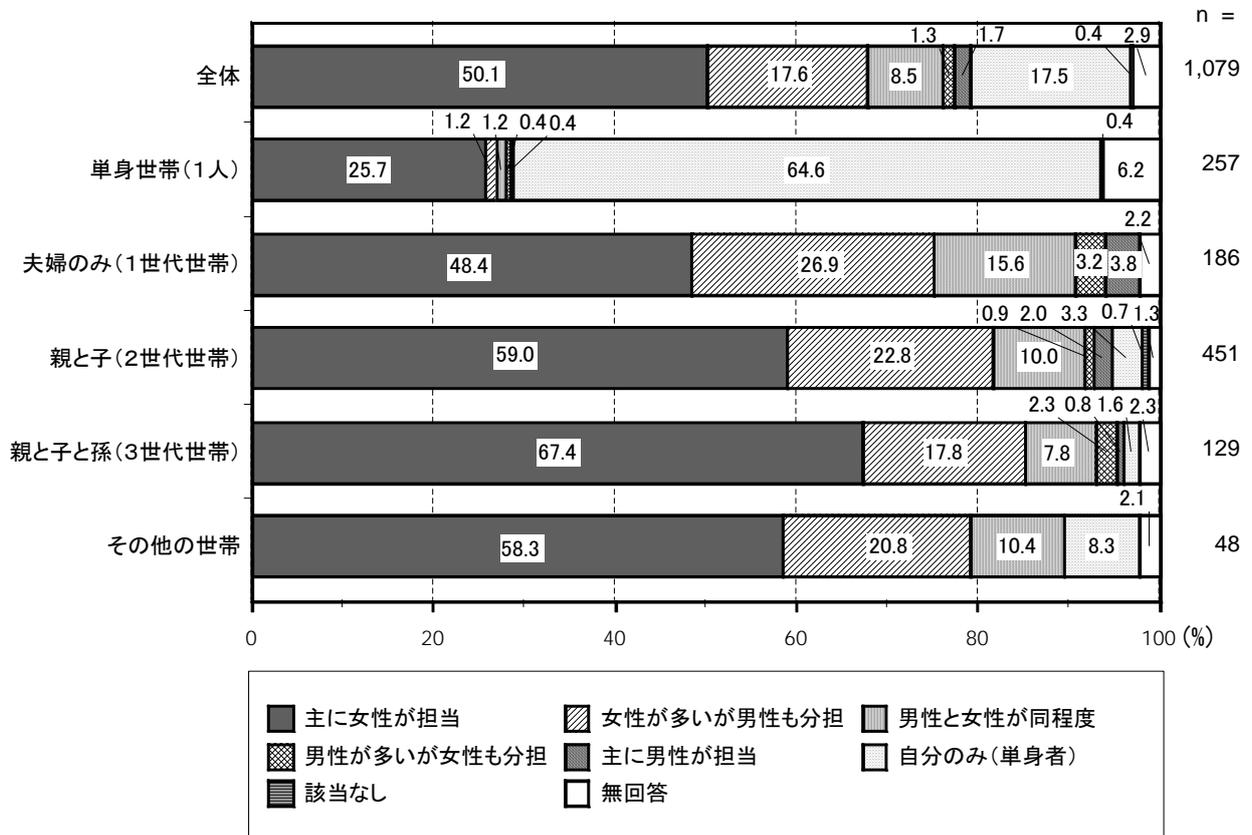
図表4-13 食料品等の買い物担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっており、親と子と孫（3世代世帯）では約85%となっています。（図表4-14）

図表4-14 食料品等の買い物担当(世帯)



1-8 掃除

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 48.2%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 20.1%です。(図表 4-15)
- 「男性と女性が同程度」は 7.2%みられます。
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 68%、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）はわずかに約 4%です。

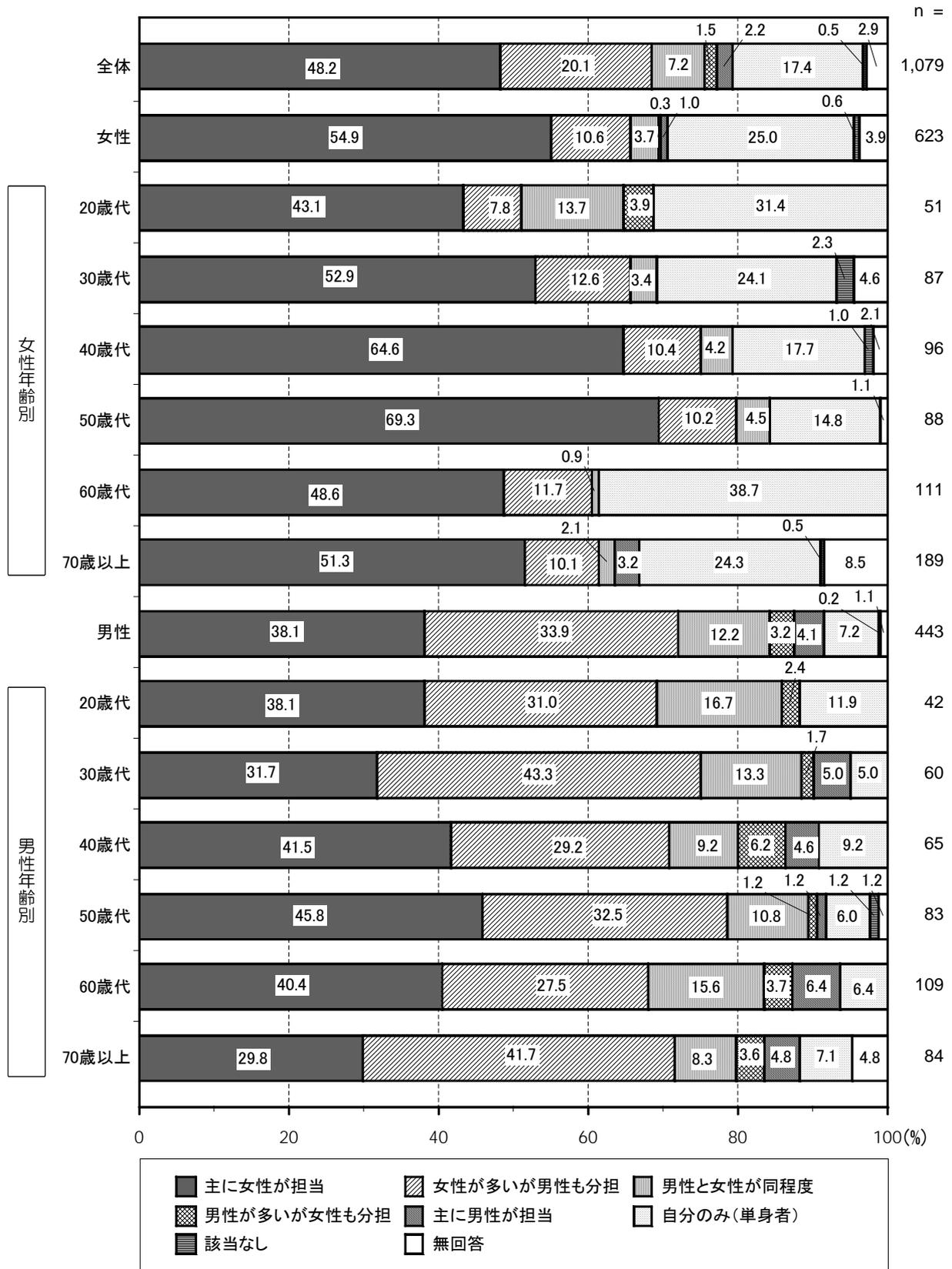
(2) 性別

- 女性では「主に女性が担当」が 54.9%と高くなっています。
- 男性では『主に女性が担当』が約 72%で女性よりも高くなっていますが、内訳では「女性が多いが男性も分担」が 33.9%と、また「男性と女性が同程度」が 12.2%と、女性に比べて高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、20歳代から50歳代に年齢が高くなるにしたがって、『主に女性が担当』の割合が高くなり、50歳代では8割近くに達しています。
 - 男性では50歳代で『主に女性が担当』が約78%と高くなっています。30歳代と70歳以上では「女性が多いが男性も分担」が4割を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-15 掃除の担当(性別・年齢別)

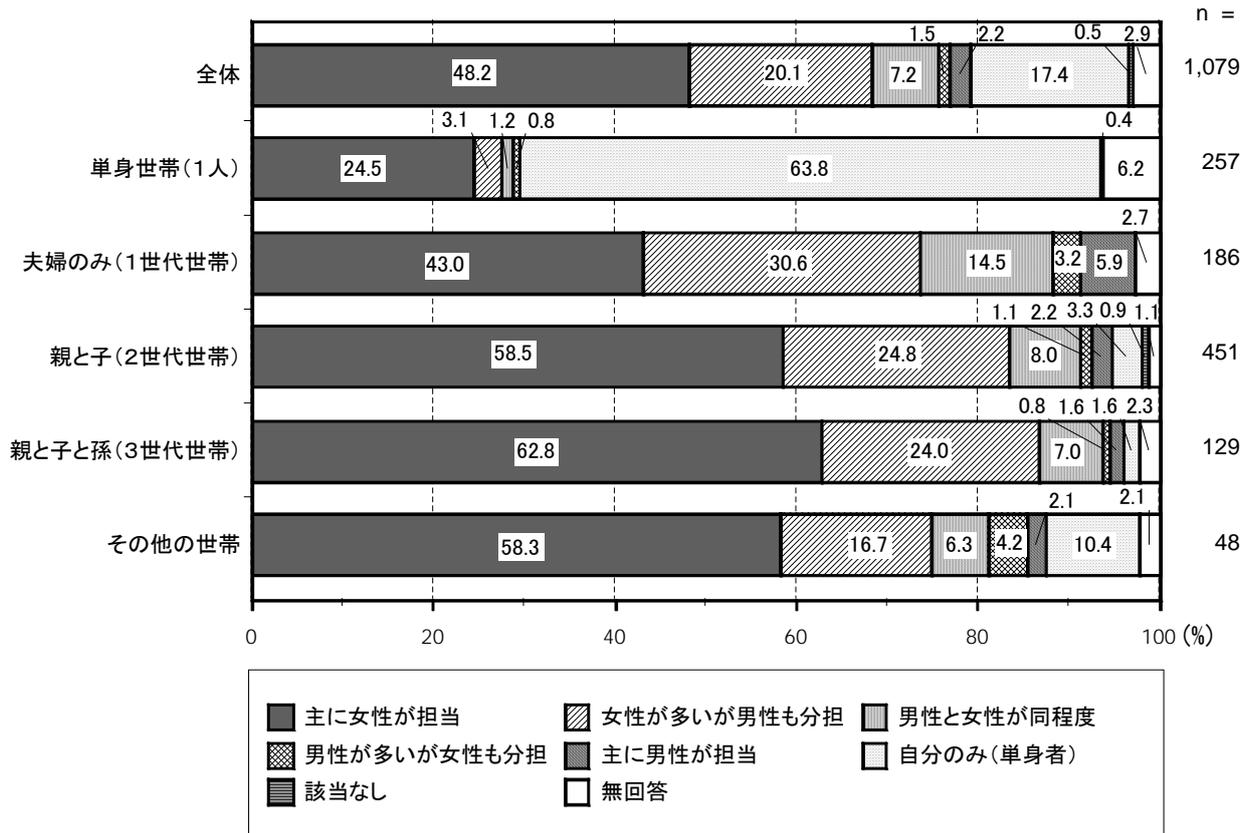


(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子（2世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっているとうかがえますが、親と子（2世代世帯）から、親と子と孫（3世代世帯）では緩やかに高くなっています。（図表4-16）

○夫婦のみ（1世代世帯）では「女性が多いが男性も分担」が30.6%と、ほかの世帯構成よりも高くなっています。

図表4-16 掃除の担当(世帯)



1-9 風呂掃除

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 45.0%と多く、「女性が多いが男性も分担」が 15.0%です。(図表 4-17)
- 「男性と女性が同程度」は 7.4%、「主に男性が担当」が 7.3%とみられます。
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 6割、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）は約 11%です。

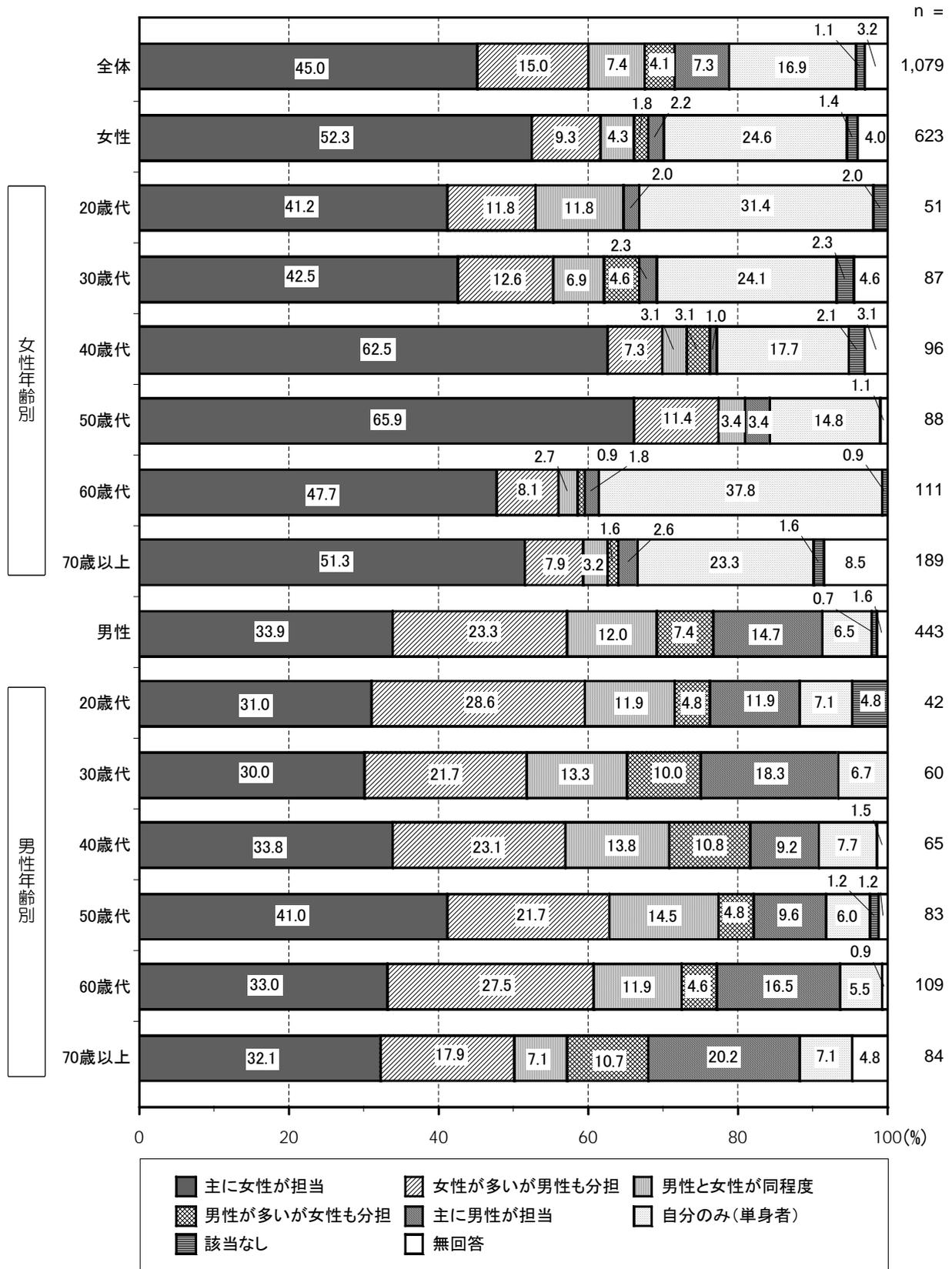
(2) 性別

- 女性では『主に女性が担当』が約 6割とやや高く、うち「主に女性が担当」が 52.3%と高くなっています。
- 男性では「女性が多いが男性も分担」が 23.3%と「男性と女性が同程度」(12.0%)、「主に男性が担当」(14.7%)が、女性に比べて高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と 50歳代で『主に女性が担当』が 6割を超えて高く、50歳代では約 77%みられます。
- 男性では 50歳代と 60歳代で『主に女性が担当』が 6割を超えており、50歳代で「主に女性が担当」が 41.0%と他の年齢層よりも特に高くなっています。20歳代で「女性が多いが男性も分担」が 28.6%、70歳以上では「主に男性が担当」が 20.2%で、ほかの年齢層よりも高くなっています。

図表4-17 風呂掃除の担当(性別・年齢別)

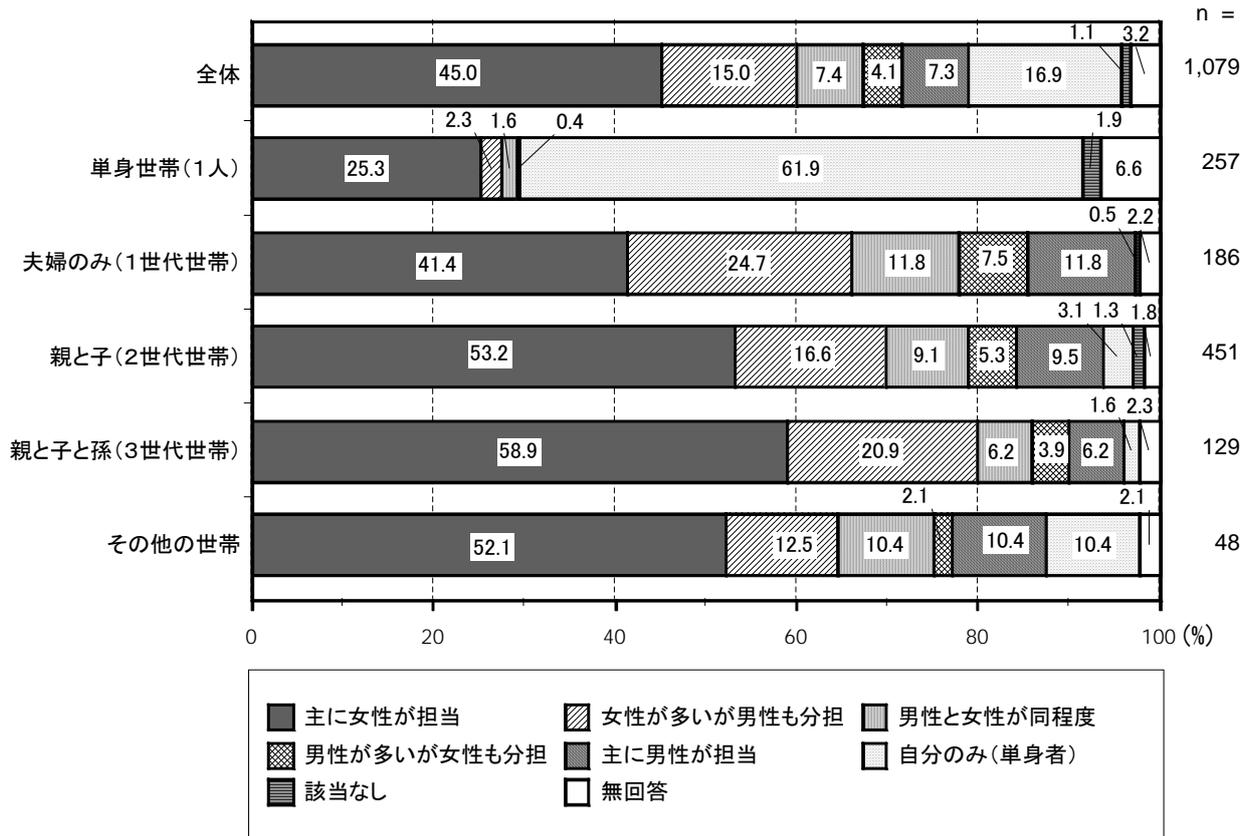


(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっており、親と子と孫（3世代世帯）では約8割と高くなっています。（図表4-18）

○夫婦のみ（1世代世帯）と親と子と孫（3世代世帯）では「女性が多いが男性も分担」が2割を超え、夫婦のみ（1世代世帯）では「主に男性が担当」が11.8%とほかの世帯構成よりもやや高くなっています。

図表4-18 風呂掃除の担当(世帯)



1-10 子どものしつけ

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が25.6%、「女性が多いが男性も分担」が18.7%、「男性と女性が同程度」が13.1%です。(無回答が35.8%となっています。)(図表4-19)
- 「主に女性が担当」は、1-9までの食事、ごみ、洗濯、掃除などの役割分担よりも低くなっています。
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約44%、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)はわずか約2%です。

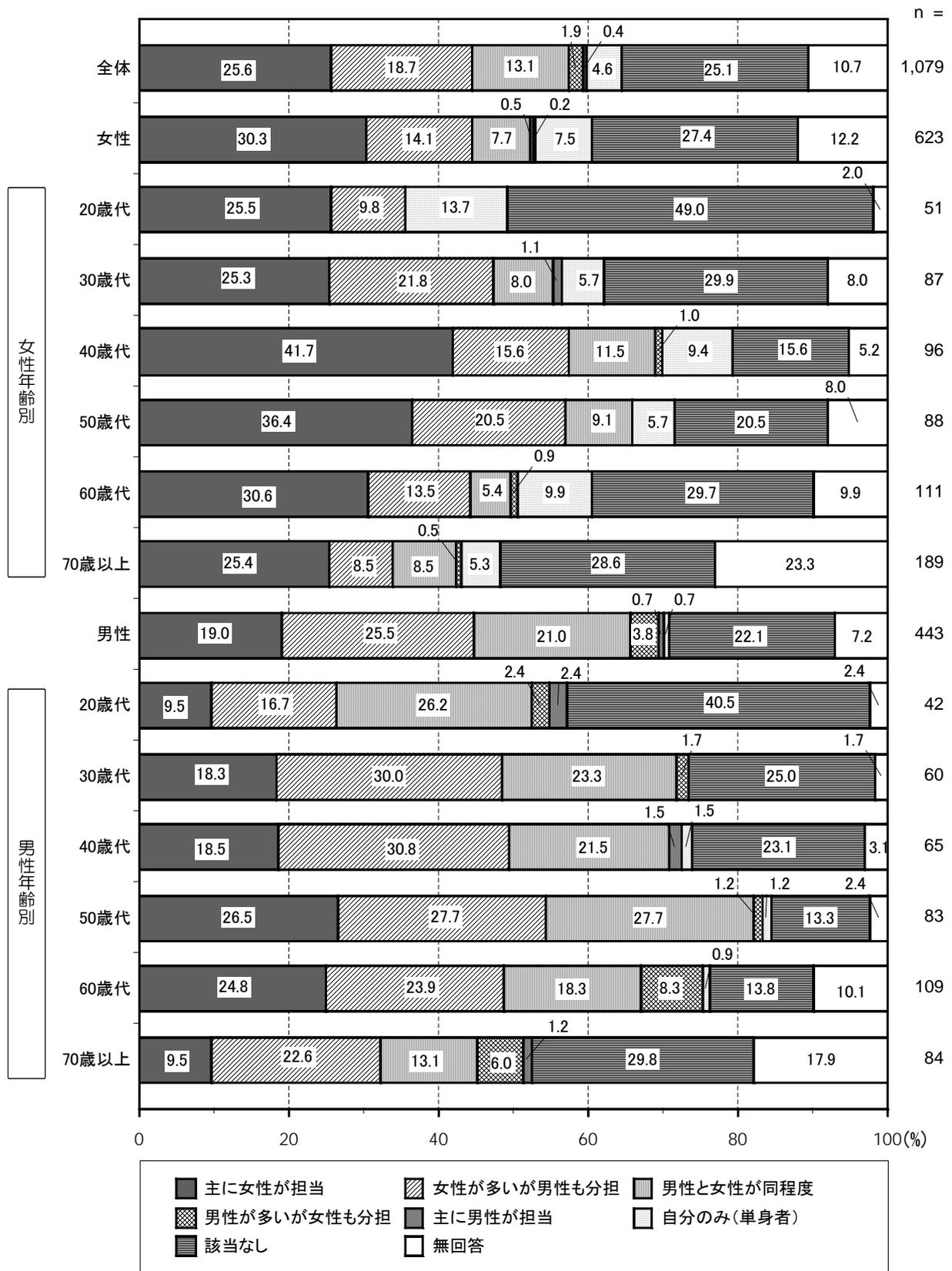
(2) 性別

- 『主に女性が担当』については性別の差がありませんが、女性では「主に女性が担当」が30.3%と高くなっています。
- 男性では「女性が多いが男性も分担」が25.5%と最も高く、「男性と女性が同程度」が21.0%で、女性の3倍程度のポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、40歳代と50歳代で『主に女性が担当』が55%を超えて高くなっていますが、30歳代と50歳代では「女性が多いが男性も分担」が2割を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では50歳代で『主に女性が担当』が約54%と、ほかの年齢層よりも高くなっています。20歳代と50歳代で「男性と女性が同程度」が25%強、40歳代では「女性が多いが男性も分担」が30.8%と高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-19 子どものしつけ担当(性別・年齢別)



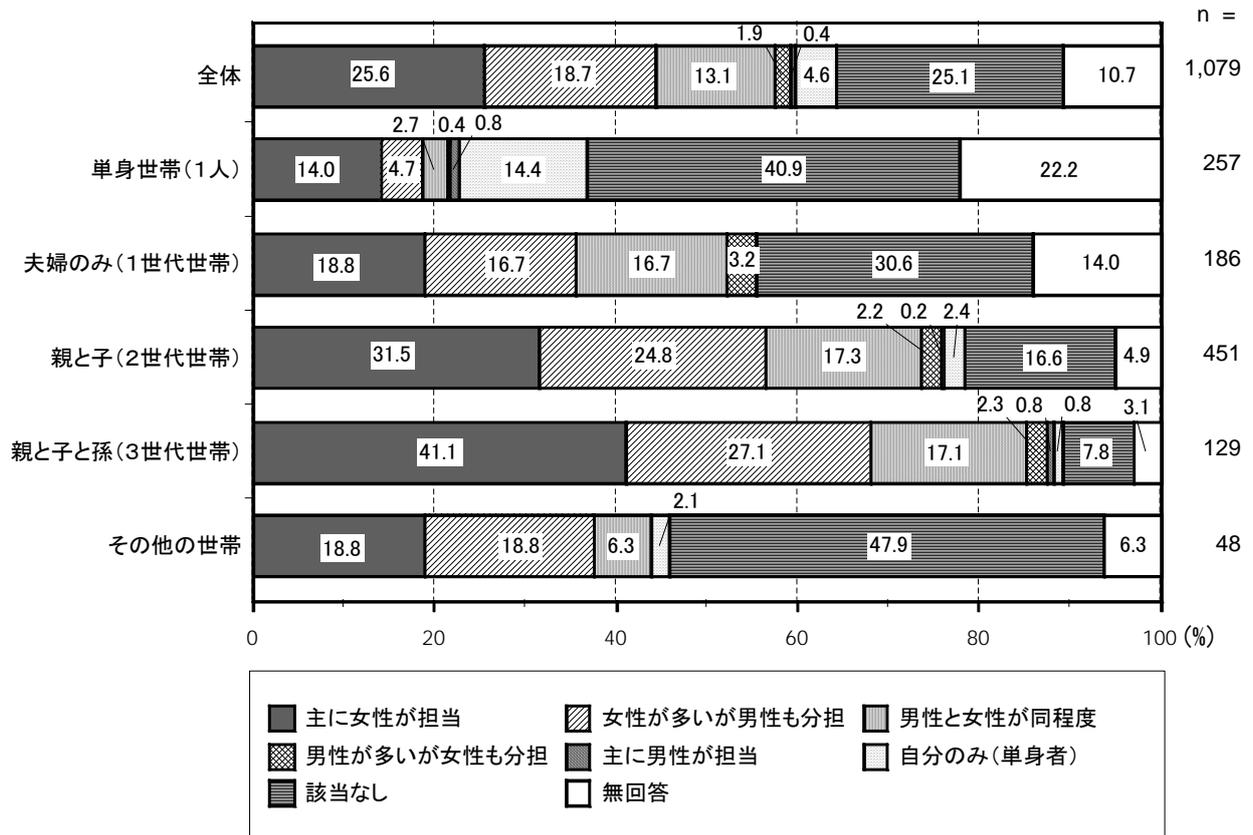
(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっているとうかがえます。（図表4-20）

○「男性と女性が同程度」は夫婦のみ（1世代世帯）から親と子と孫（3世代世帯）まで、約17%と同じ程度となっています。

▼3-3：（選択肢をまとめても）期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-20 子どものしつけ担当(世帯)



1-11 乳幼児の世話

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 34.3%、「女性が多いが男性も分担」が 14.3%です。(図表 4-21)
- 「男性と女性が同程度」は 4.2%です。(「該当なし」と無回答が約 36%です。)
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」)は約 49%、
『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」)はほとんどありません。

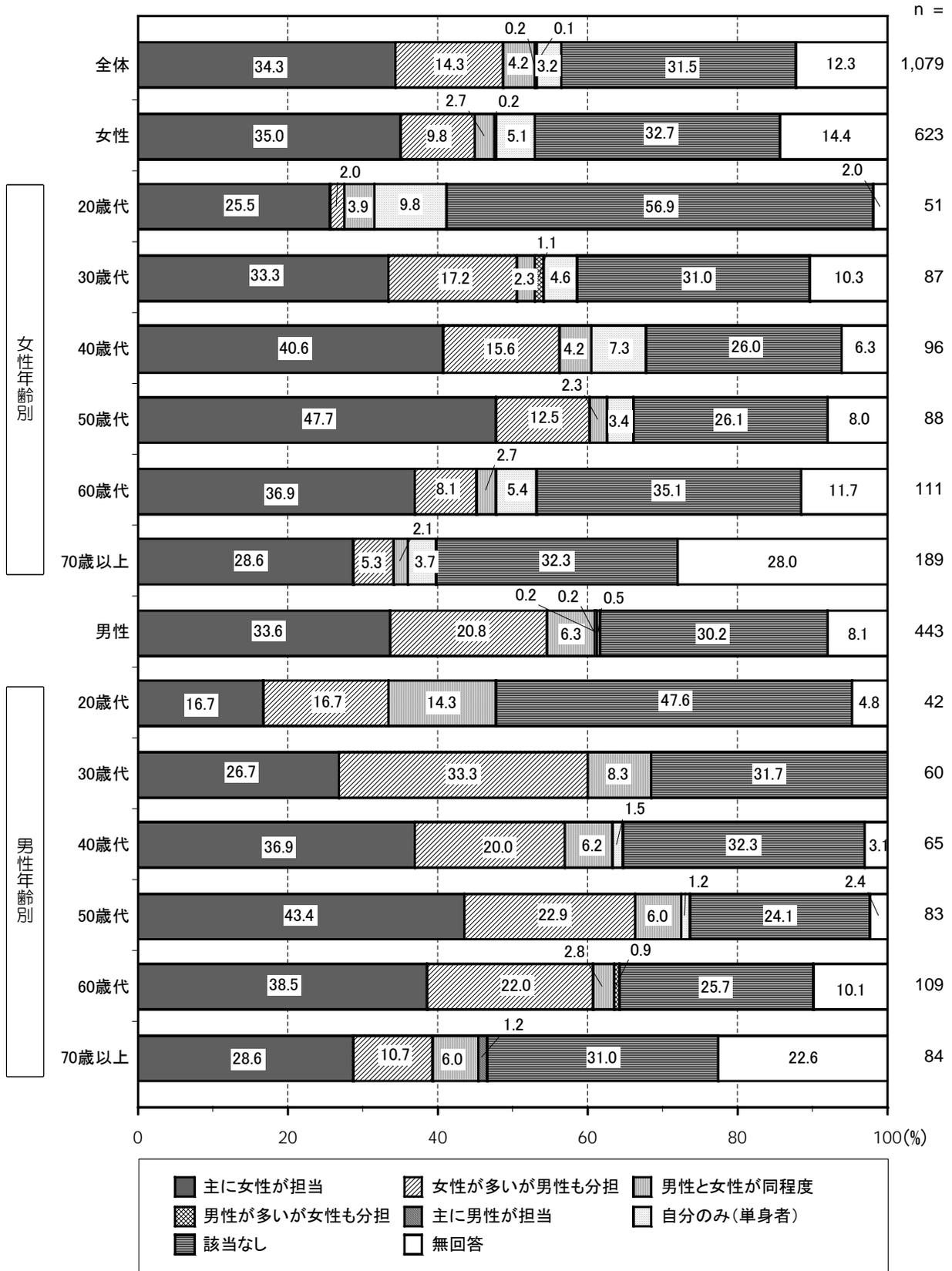
(2) 性別

- 男性では『主に女性が担当』が約 54%と、女性に比べて高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代から 50 歳代にかけて、年齢が高くなるにしたがって『主に女性が担当』が高くなっているとうかがえ、50 歳代では約 6 割です。
- 男性では「主に女性が担当」については 20 歳代から 50 歳代にかけて、年齢が高くなるにしたがって高くなっています。また、幼少の子どもが多い 30 歳代で「女性が多いが男性も分担」が 3 分の 1 程度と高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても)期待度数が低いセルがあり検定不能。

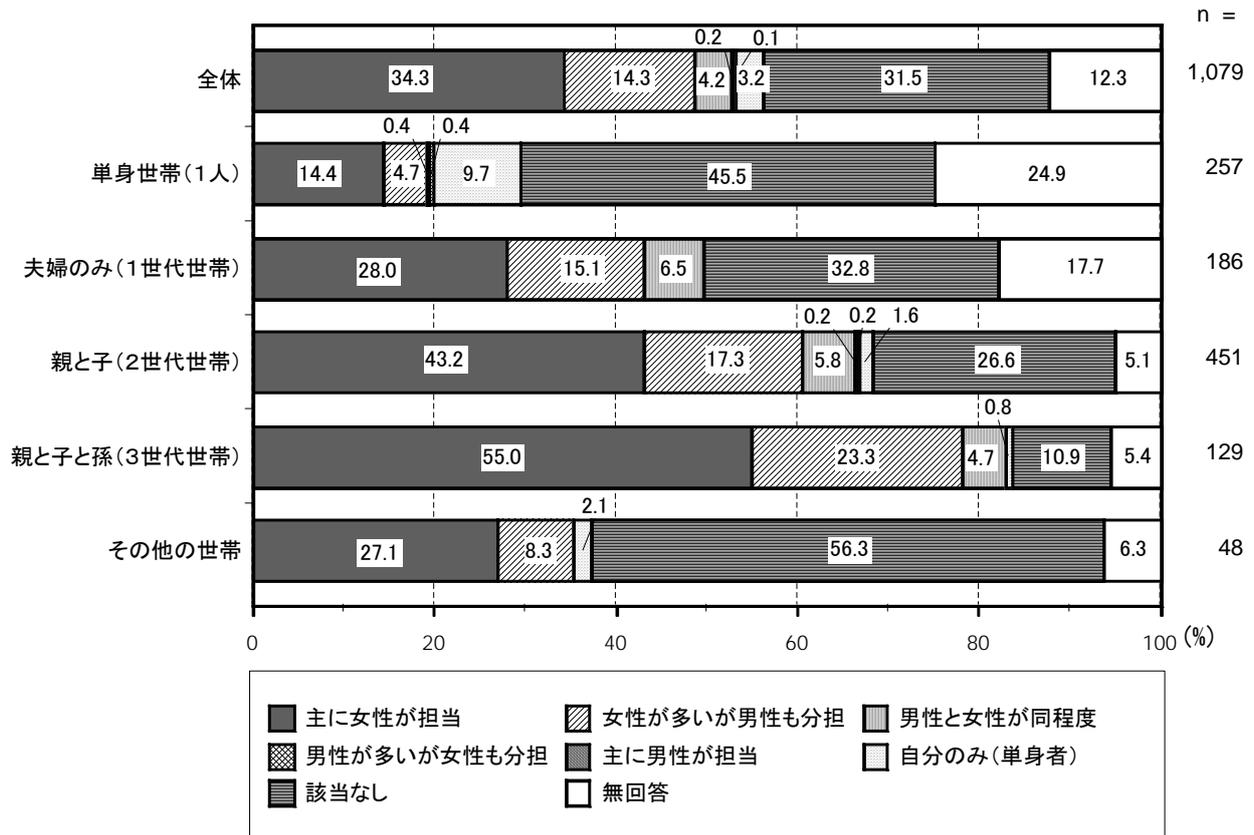
図表4-21 乳幼児の世話担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

- 夫婦のみ（1世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が明確に高くなっています。（図表4-22）
- 親と子と孫（3世代世帯）では『主に女性が担当』が約78%、また、「女性が多いが男性も分担」が23.3%と、ほかの世帯構成よりも高くなっているとうかがえます。
- ▼3-3：（選択肢をまとめても）期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-22 乳幼児の世話担当(世帯)



1-12 介護・看護

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 29.6%、「女性が多いが男性も分担」が 9.8%です。(図表 4-23)
- 「男性と女性が同程度」は 4.8%です。(「該当なし」と無回答が約 50%です。)
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」)は約 39%、
『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」)はわずかに約 2%です。

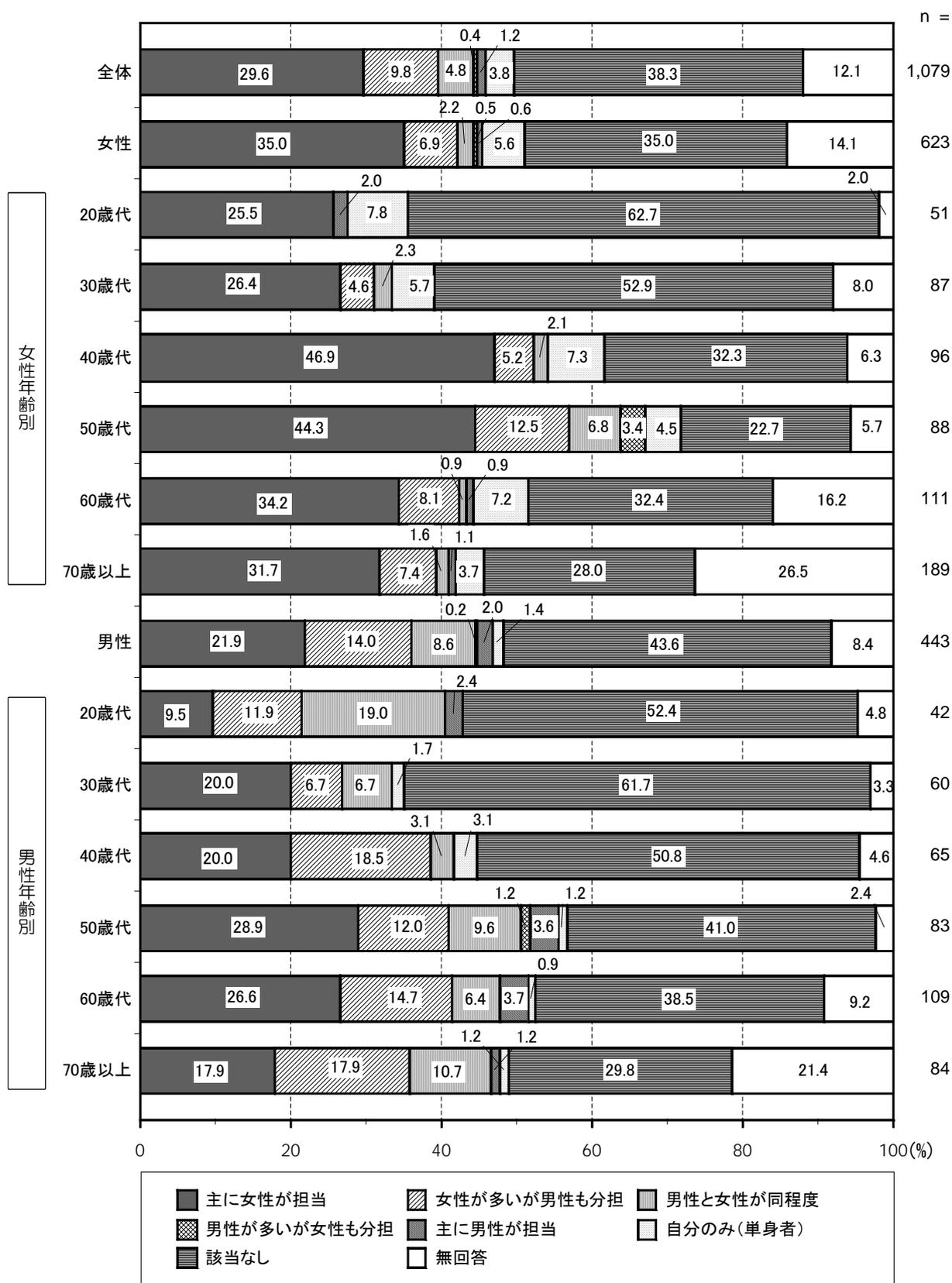
(2) 性別

- 女性では『主に女性が担当』が約 42%で、うち特に「主に女性が担当」が 35.0%と高くなっています。
- 男性では「女性が多いが男性も分担」が 14.0%、「男性と女性が同程度」は 8.6%と、女性よりも高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 40 歳代と 50 歳代で『主に女性が担当』が 52%以上と高くなっており、さらに 50 歳代では「女性が多いが男性も分担」が 12.5%と、ほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では 20 歳代で「男性と女性が同程度」が 19.0%と高く、50 歳代で「主に女性が担当」が 28.9%と、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：(選択肢をまとめても) 期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-23 介護・看護の担当(性別・年齢別)

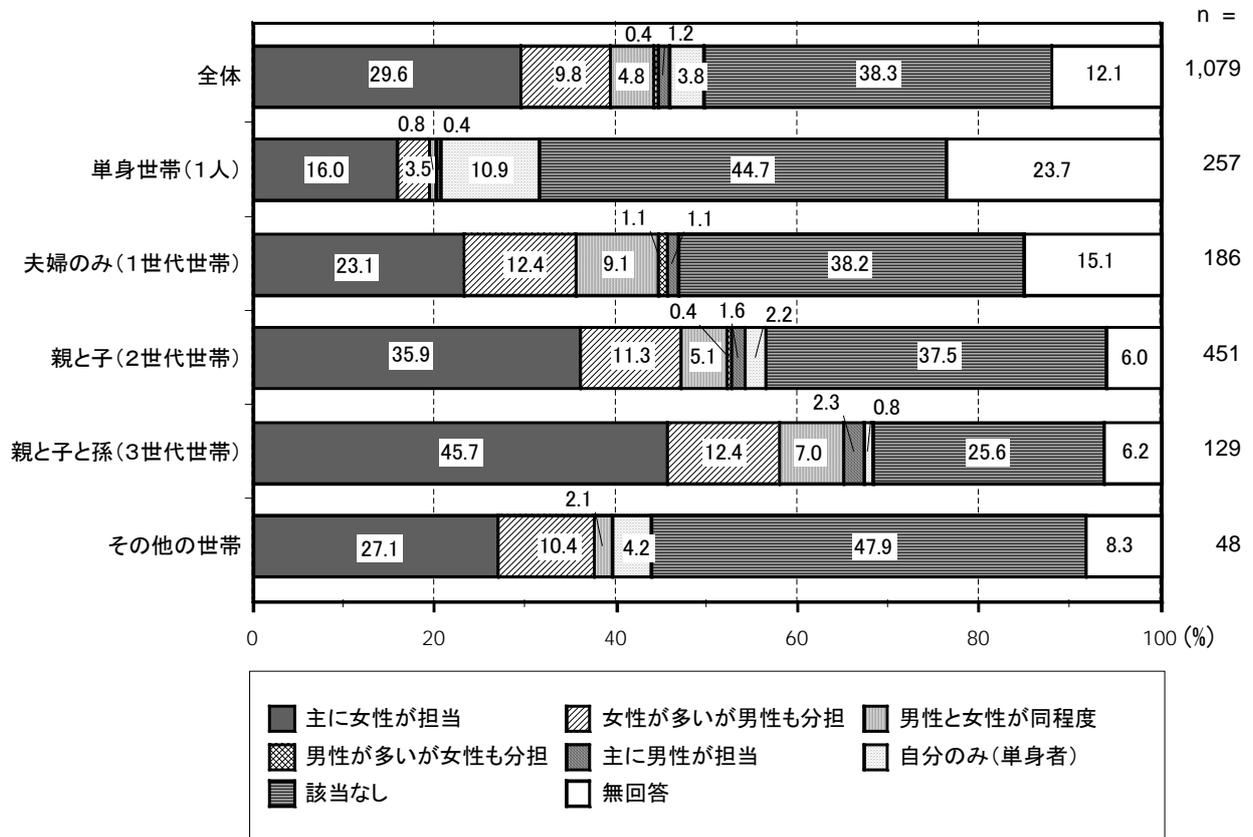


(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。（図表4-24）

▼3-3：（選択肢をまとめても）期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-24 介護・看護の担当(世帯)



1-13 家計管理

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が 50.8%、「女性が多いが男性も分担」が 10.7%、「男性と女性が同程度」は 7.4%です。(図表 4-25)
- 『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 61%、『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）は約 8%です。

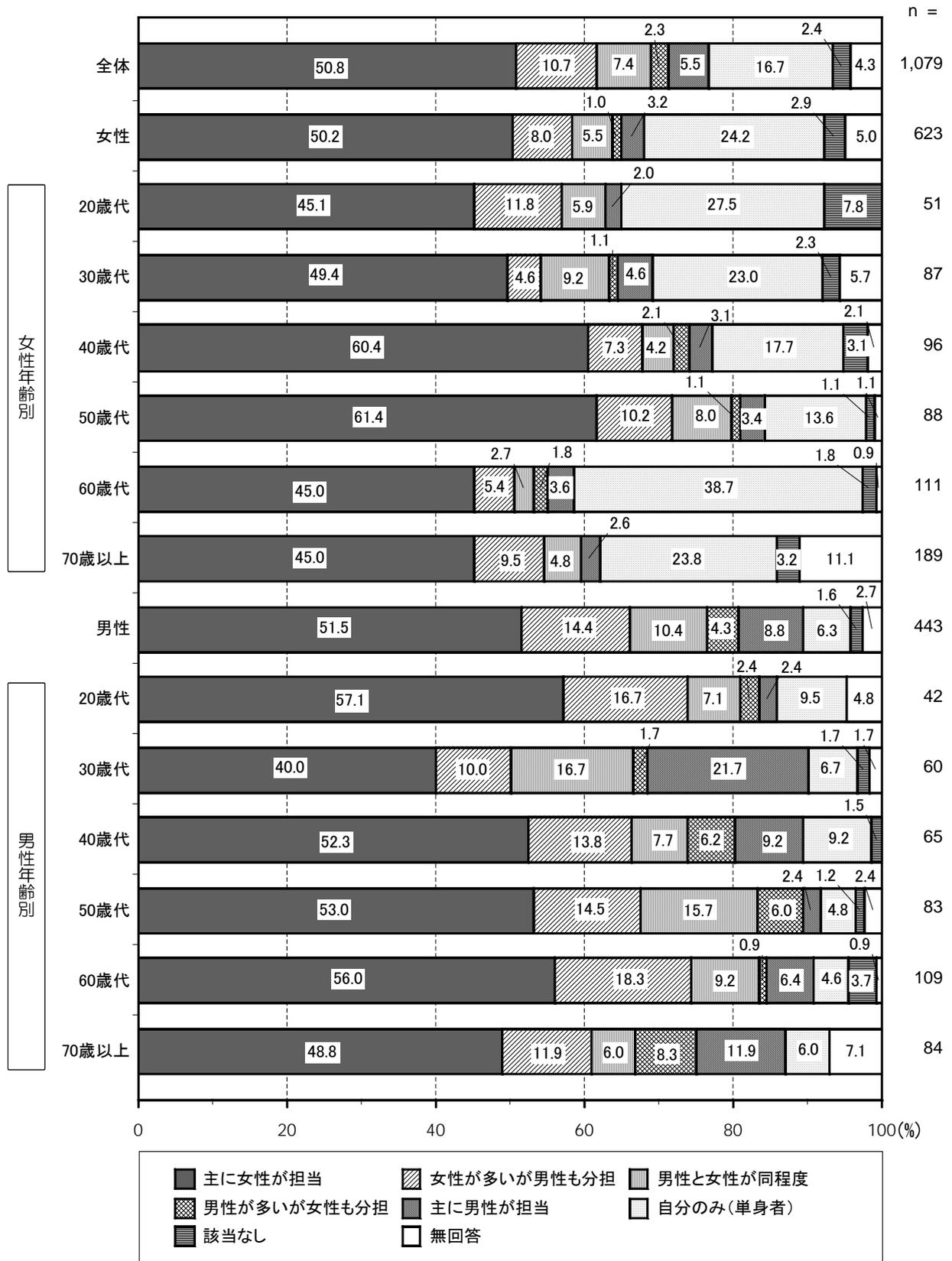
(2) 性別

- 男性で『主に女性が担当』が約 66%と高くなっていますが、うち「女性が多いが男性も分担」が 14.4%、また「男性と女性が同程度」が 10.4%、『主に男性が担当』が約 13%で、女性よりもやや高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 40 歳代と 50 歳代で『主に女性が担当』が 65%を超えて、高くなっています。また、30 歳代では「男性と女性が同程度」が 9.2%で、ほかの年齢層よりもやや高くなっています。
- 男性では 30 歳代で「主に男性が担当」は 21.7%で、年齢層の中で特に高くなっています。

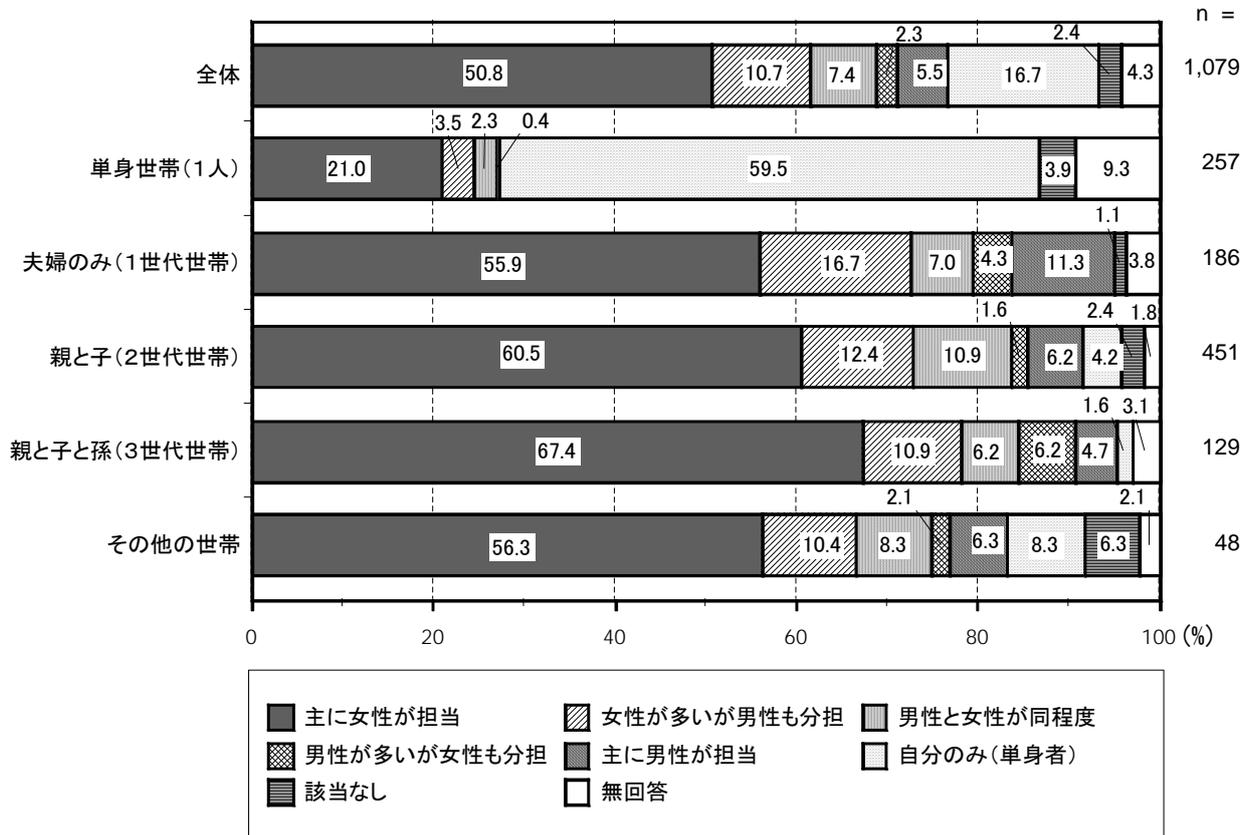
図表4-25 家計管理の担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

- 夫婦のみ（1世代世帯）、親と子と孫（3世代世帯）と多世代になるほど『主に女性が担当』の割合が高くなっています。（図表4-26）
- 夫婦のみ（1世代世帯）では「女性が多いが男性も分担」が16.7%、「主に男性が担当」が11.3%で、ほかの世帯構成よりも高くなっています。

図表4-26 家計管理の担当(性別・年齢別)



1-15 高額なものの購入

(1) 全体

- 「男性と女性が同程度」が23.4%と最も多く、次いで「主に男性が担当」が18.3%、「主に女性が担当」が14.3%で、そのほかの家事や家計管理の回答と比べる特徴があります。(図表4-27)
- 『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約22%、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)の方が高く約26%です。

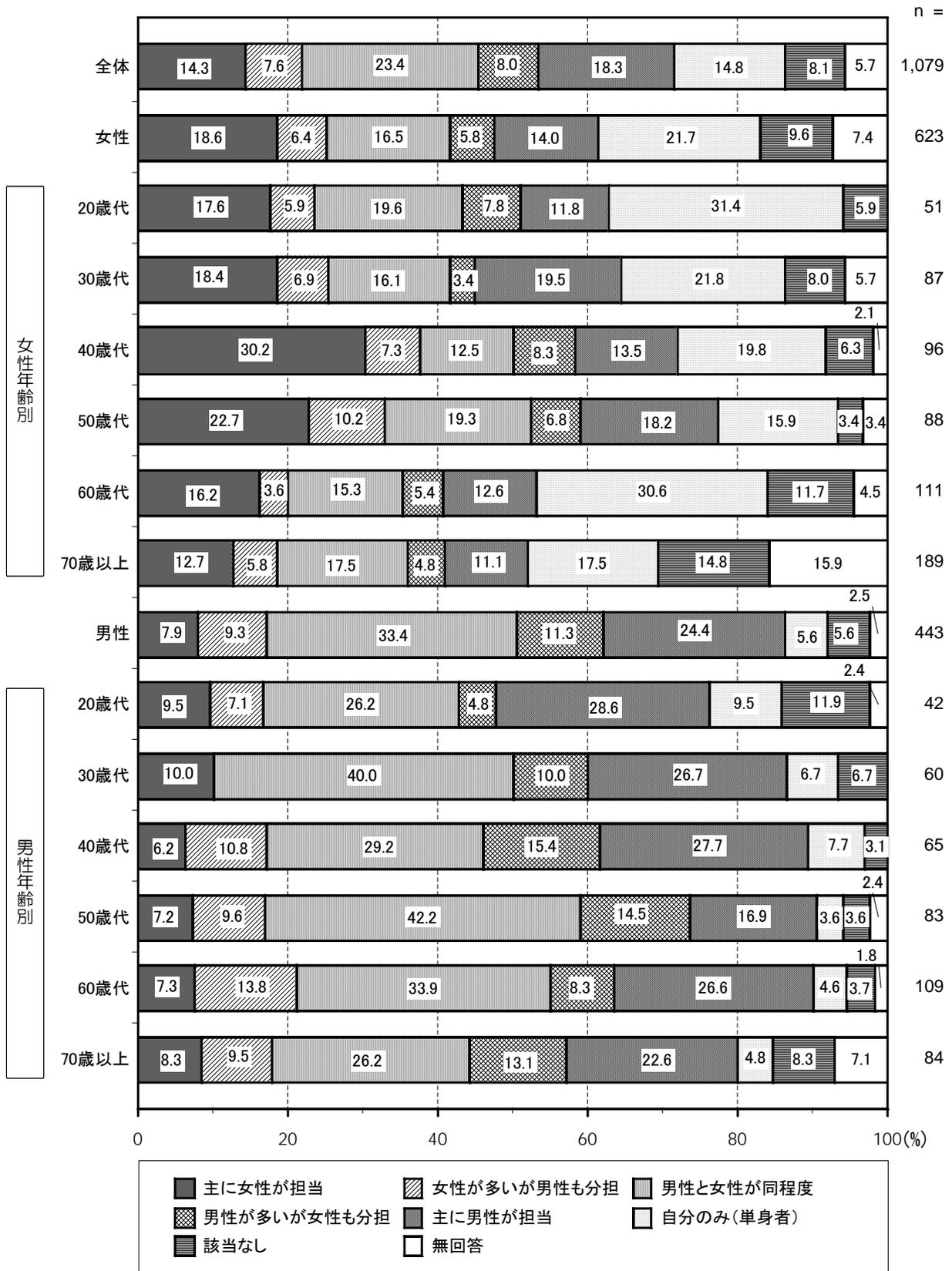
(2) 性別

- 女性では『主に女性が担当』が約25%と高くなっています。
- 男性では「男性と女性が同程度」が33.4%、『主に男性が担当』が約36%と高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では40歳代で『主に女性が担当』が約38%と高くなっています。
- 男性では50歳代で「男性と女性が同程度」は42.2%で、年齢層の中で特に高くなっています。また、40歳代では『主に男性が担当』が約43%と高く、女性の40歳代と逆の傾向になっています。

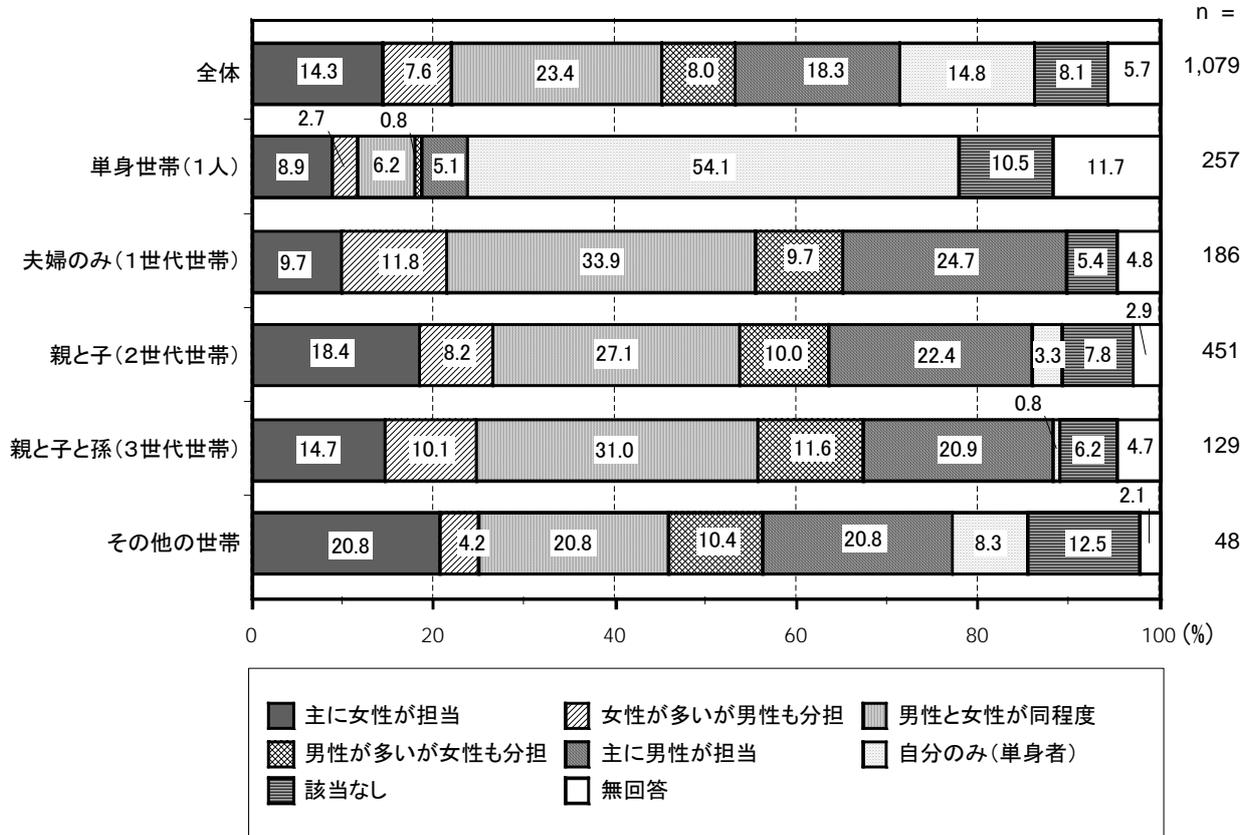
図表4-27 高額なものの購入担当(性別・年齢別)



(4) 世帯構成別

○夫婦のみ（1世代世帯）と親と子（2世代）、親と子と孫（3世代世帯）で、「男性と女性が同程度」の割合がそれぞれの世帯構成で最も高くなっています。（図表4-28）

図表4-28 高額なものの購入担当(世帯)



1-16 家庭生活における担当について（まとめ）

（1）全体のまとめ

- 「該当なし」を除くと、⑭高額なものを購入する以外の項目では、「主に女性が担当」が最も高くなっています。特に、①食事のしたくをする、②食事の後片付けをする、⑤洗濯をし、干す、⑥洗濯物を取り入れ、片づける、⑦食料品等の買い物をする、⑧掃除をする（48.2%）、⑬家計の管理をするでは、概ね5割を超えており、家事は女性に大きく依存しています。（図表4-29）
- ⑭高額なものを購入するでは、「男性と女性が同程度」が23.4%と最も高く、次いで「主に男性が担当する」が18.3%となっています。
- ②食事の後片付けをする、③ごみやリサイクルの分類をする（14.9%）、⑥洗濯物の取り入れ、後片付けをする、⑦食品等の買い物をする、⑧掃除をする、⑨風呂の掃除をする、⑩子どものしつけをするでは、「女性が多いが男性も分担」が概ね15%以上です。

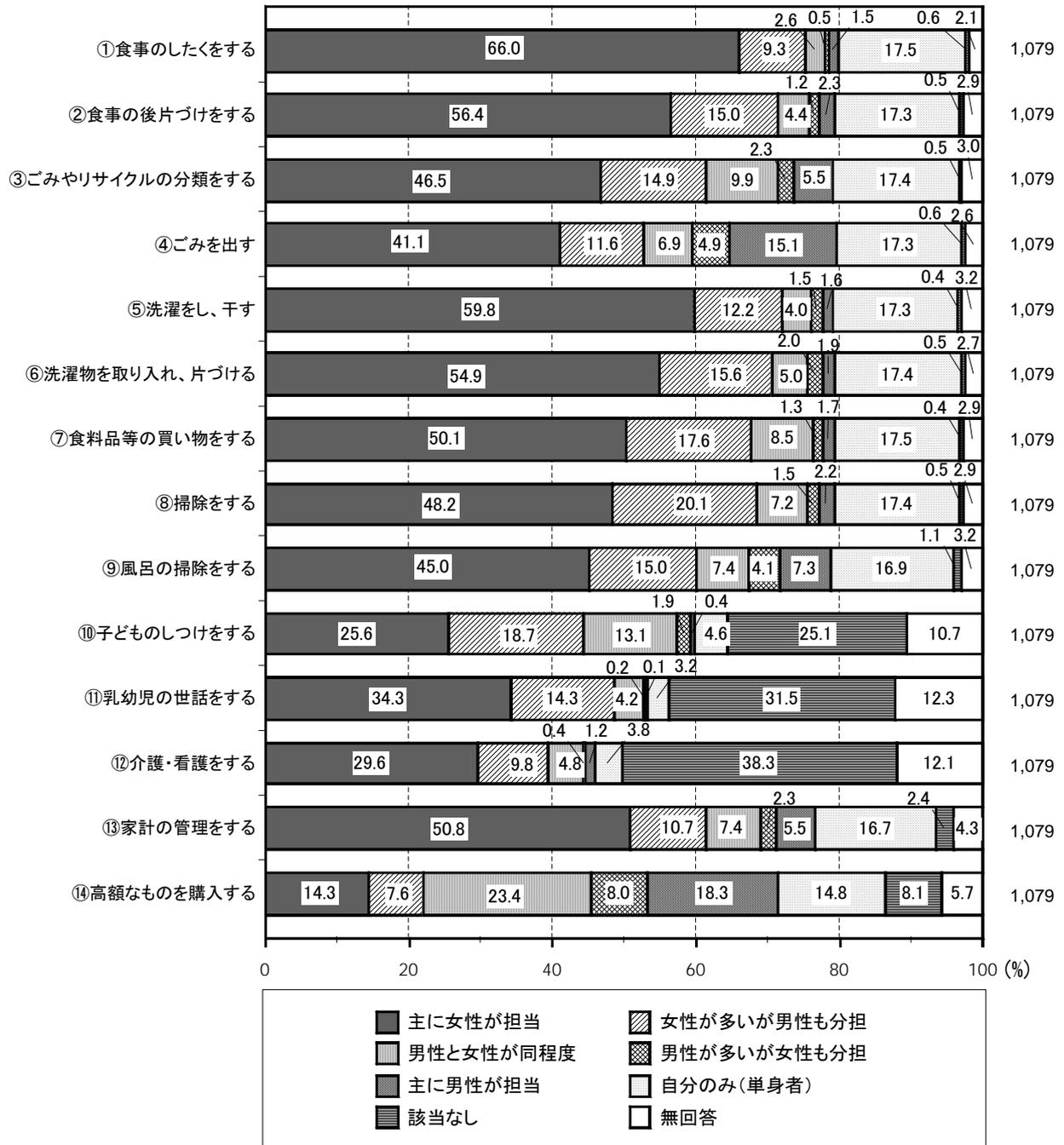
（2）平成20年度調査との比較

- 平成20年度調査から本調査にかけて、①食事のしたくをする、②食事の後片付けをする、③ごみやリサイクルの分類をする、④ごみを出す、⑤洗濯をし、干す、⑧掃除をする、⑨風呂の掃除をする、⑬家計の管理をするで、「主に女性が担当」が3ポイント以上低くなりました。
- ⑭高額なものを購入するは、「男性と女性が同程度」が本調査にかけて低くなりました。

図表4-29-1 家庭生活における担当について

(平成26年度調査)

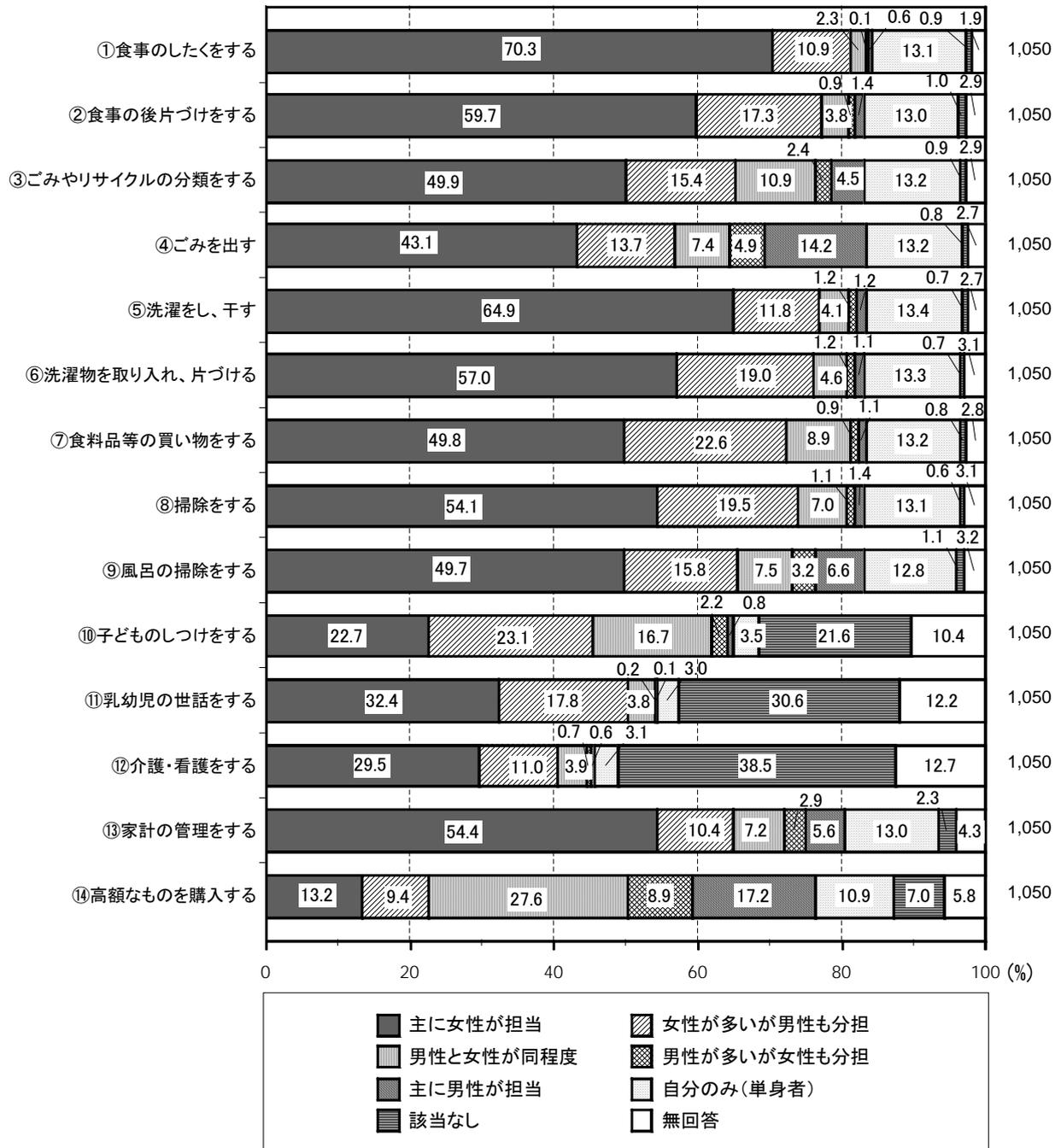
n =



図表4-29-2 家庭生活における担当について(平成20年度調査比較)

(平成20年度調査)

n =



2. 家事や育児、介護の分担の必要性について

問6 あなたは、家事や育児、介護などを男女で分担していくために必要だと思うことは何ですか。(○は1つ)

(1) 全体

- 「家族で役割分担についてよく話し合う」が 28.8%、「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」が 26.3%、「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」が 23.4%で、この3項目に回答が集まっています。(図表 4-30)

(2) 性別

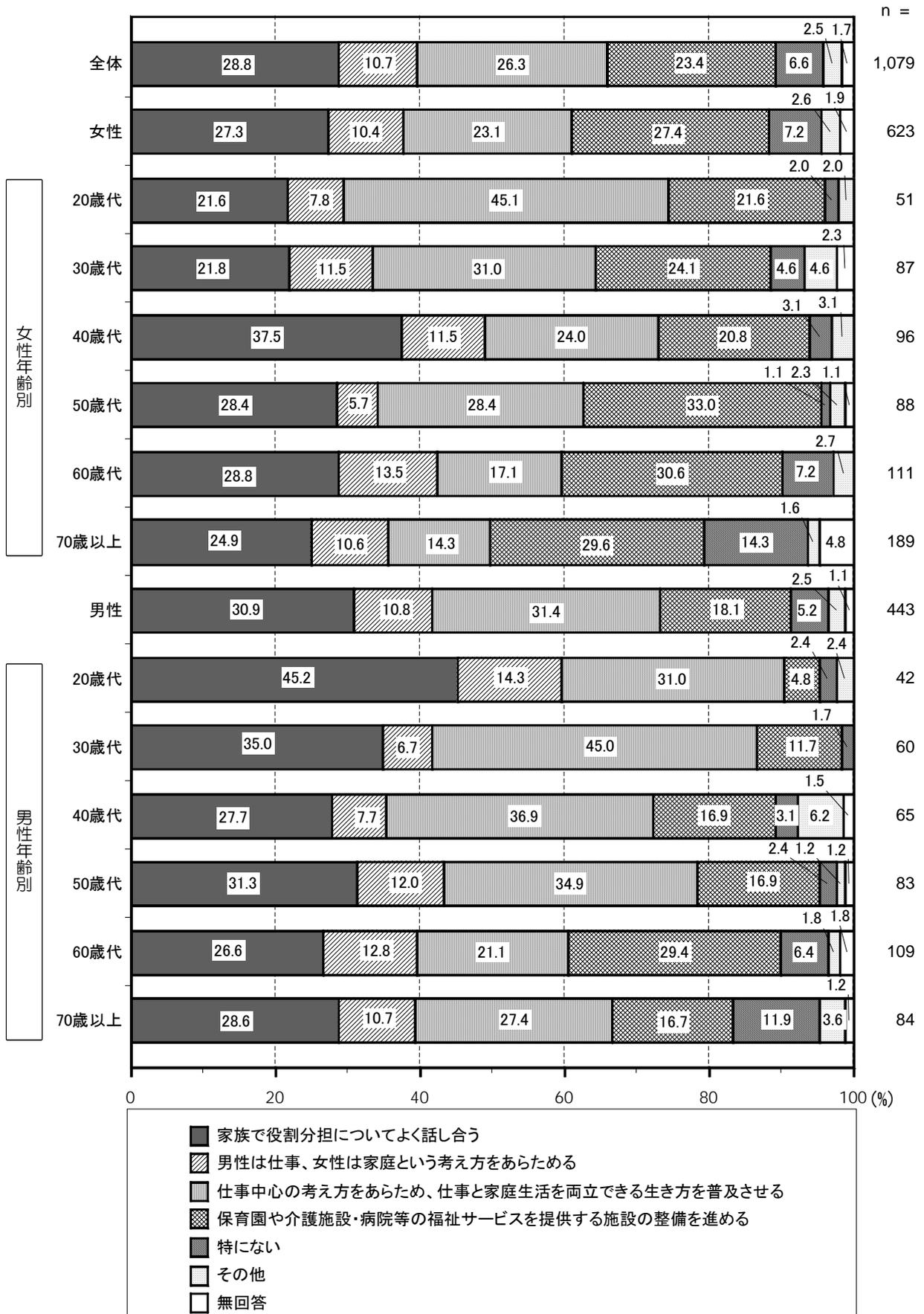
- 女性では「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」が 27.4%と高くなっています。
- 男性では「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」が 31.4%で高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代と 30 歳代、50 歳代で「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」が高く、20 歳代では 45.1%と特に高くなっています。
- 女性の 40 歳代では「家族で役割分担についてよく話し合う」が 37.5%、50 歳代では「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」が 33.0%と、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 20 歳代で「家族で役割分担についてよく話し合う」が 45.2%、30 歳代では「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」が 45.0%、60 歳代で「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」が 29.4%と特に高くなっています。
- 男性の 40 歳代と 50 歳代では、「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」が概ね 35%以上で、高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表4-30 家事や育児、介護の分担の必要性について(性別・年齢別)



第5章 子育て・教育について

1. 子どもの育て方について

問7 あなたは、子どもの育て方について、どのように思いますか。(○は1つ)

(1) 全体

○「男女の区別なく、同じように育てたほうがよい」が41.3%と最も多く、次いで「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が33.5%、「どちらともいえない」が23.6%となっています。(図表5-1)

(2) 性別

○男性では「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が43.3%で、女性よりも17ポイント高くなっています。

(3) 性別・年齢別

○女性では全ての年齢層で「男女の区別なく、同じように育てたほうがよい」が概ね4割以上となっており、40歳代でこの割合が46.9%と特に高くなっています。

○男性では、40歳代と70歳以上で「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が48%以上と高くなっています。

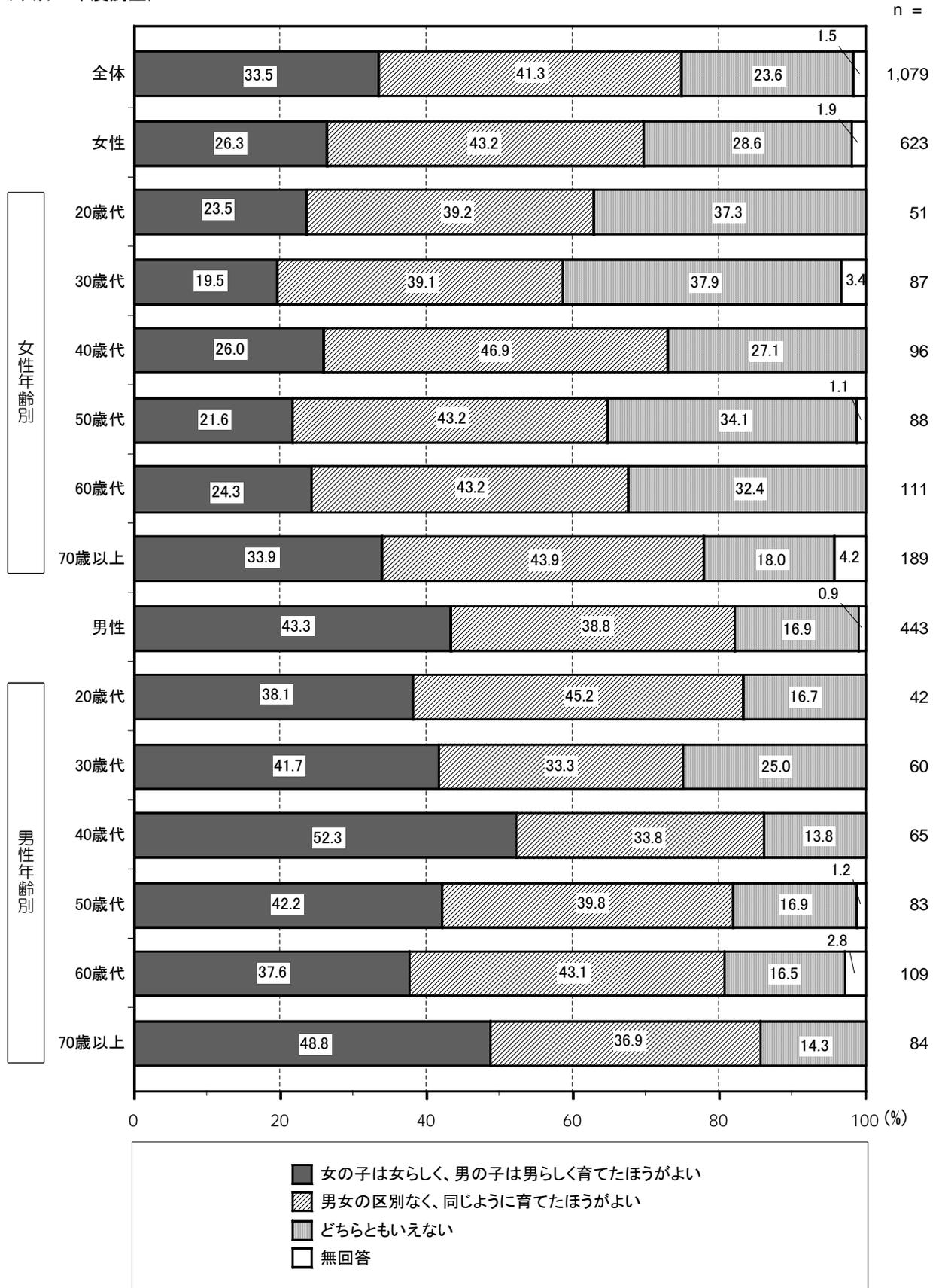
(4) 平成20年度調査との比較

○全体では、平成20年度調査では「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が40.7%と最も高かったですが、本調査では「男女の区別なく、同じように育てたほうがよい」が41.3%と最も高くなりました。(図表5-2)

○女性、男性ともに、「男女の区別なく、同じように育てたほうがよい」が、平成20年度調査から本調査にかけてやや高くなりました。

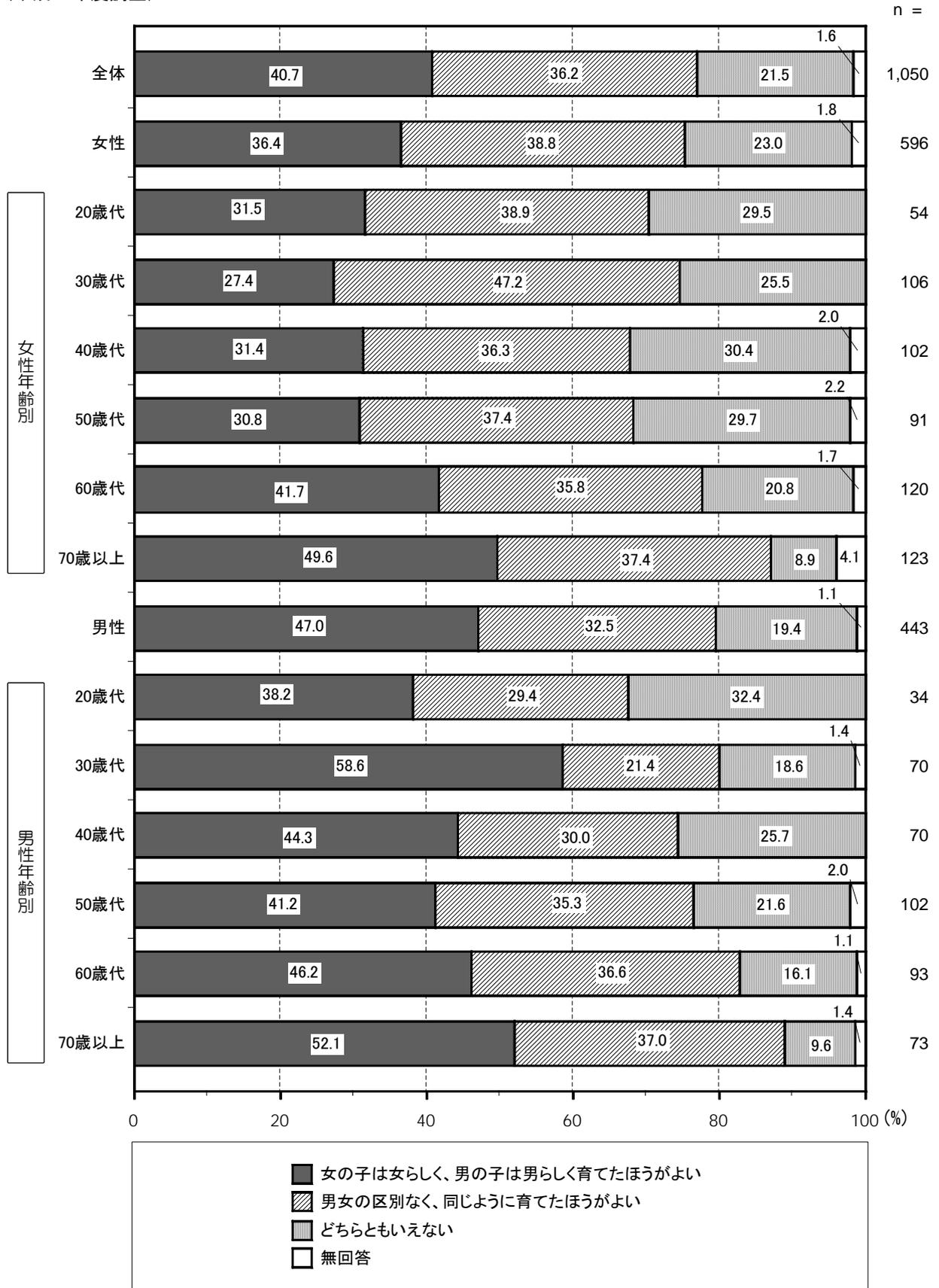
図表5-1 子どもの育て方について

(平成26年度調査)



図表5-2 子どもの育て方について(平成20年度調査比較)

(平成20年度調査)



2. 子育てにおける父親と母親の役割について

問8 あなたは、子育てにおける父親と母親の役割について、どのように思いますか。
(○は1つ)

(1) 全体

- 「子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよい」が76.0%と圧倒的に多くなっています。「子どものどの成長段階でも子育ての中心となるのは母親だと思う(8.4%)」と「子どもが3歳頃までは、母親が子育ての中心となり、それ以降からは父親が子育てに関わるとよい(8.1%)」がほぼ同じ割合となっています。(図表5-3)

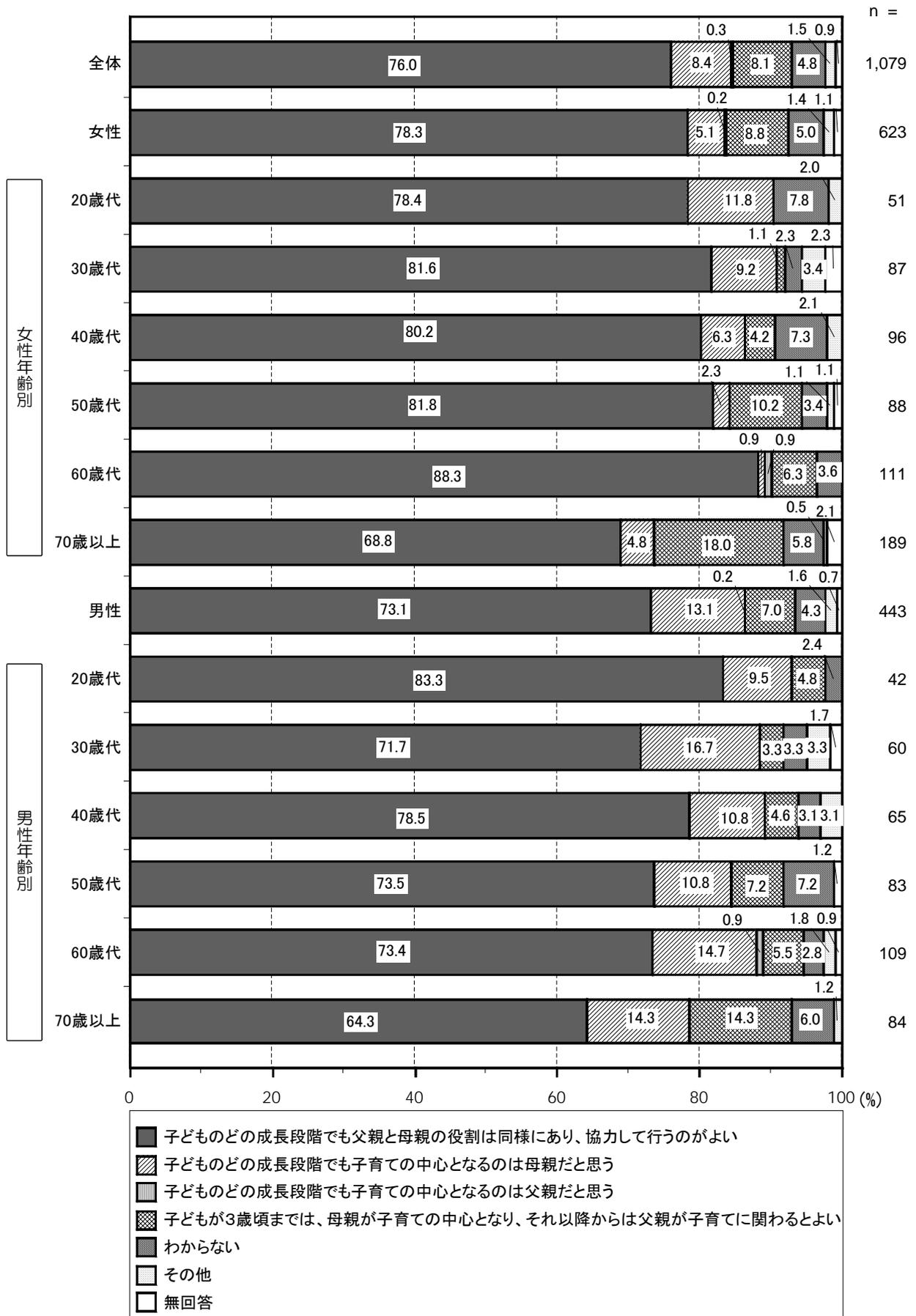
(2) 性別

- 男性では「子どものどの成長段階でも子育ての中心となるのは母親だと思う」が13.1%で、女性よりも高くなっています。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

- 女性では「子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよい」が、概ね年齢が上がるにしたがって高くなっているとうかがえます。
- 逆に男性では、30歳代を除き、若い世代ほど「子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよい」の割合が高くなっているとうかがえます。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表5-3 子育てにおける父親と母親の役割について(性別・年齢別)



3. 女性が安心して出産・子育てができる要件

問9

あなたは、女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

(1) 全体

- 「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が51.5%、「出産・子育て後に再就職しやすい環境づくり」が42.4%、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が42.0%と高くなっています。(図表5-4)

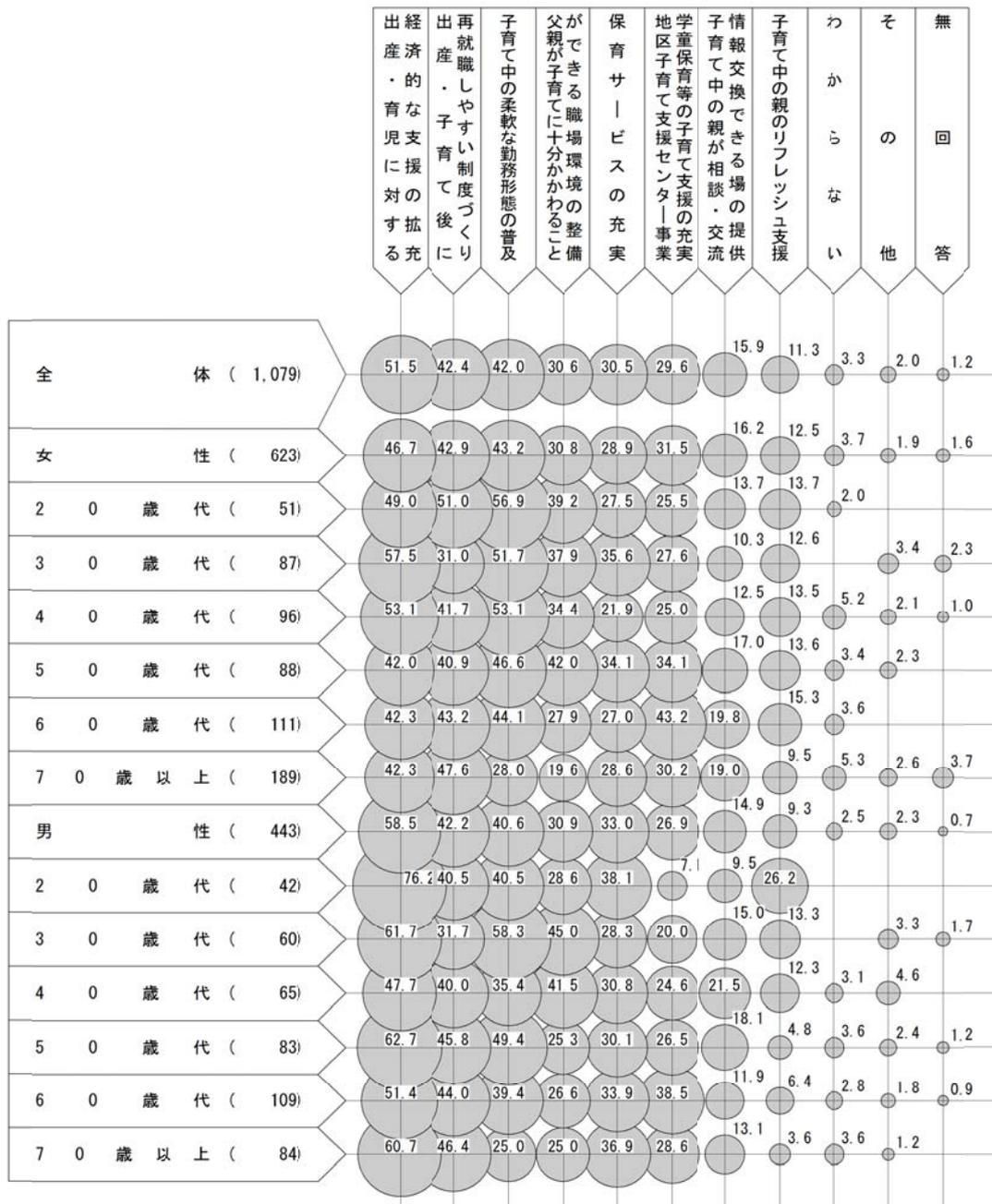
(2) 性別

- 男性で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が58.5%と女性より11ポイント高くなっています。
- ▼3-1：概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、30歳代で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が57.5%と高くなっています。また、20歳代で「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」は51.0%、20歳代から40歳代「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が50%を超えて高くなっていることなどがうかがえます。
- 男性では、20歳代で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が76.2%と高くなっています。また、30歳代では「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が58.3%、30歳代と40歳代で「父親が子育てに十分関わることができる職場環境の整備」が4割を超えて高くなっているとうかがえます。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。

図表5-4 女性が安心して出産・子育てができる要件（性別・年齢別）



4. 男性が育児に参加することの必要性について

問 10

あなたは、男性がより育児に参加していくために必要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

(1) 全体

- 「男性自身が育児に取り組む意識を持つこと」が 55.3%で最も高く、「男性が育児休業制度を利用しやすくすること」が 45.4%、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」が 39.9%の順となっています。(図表 5-5)

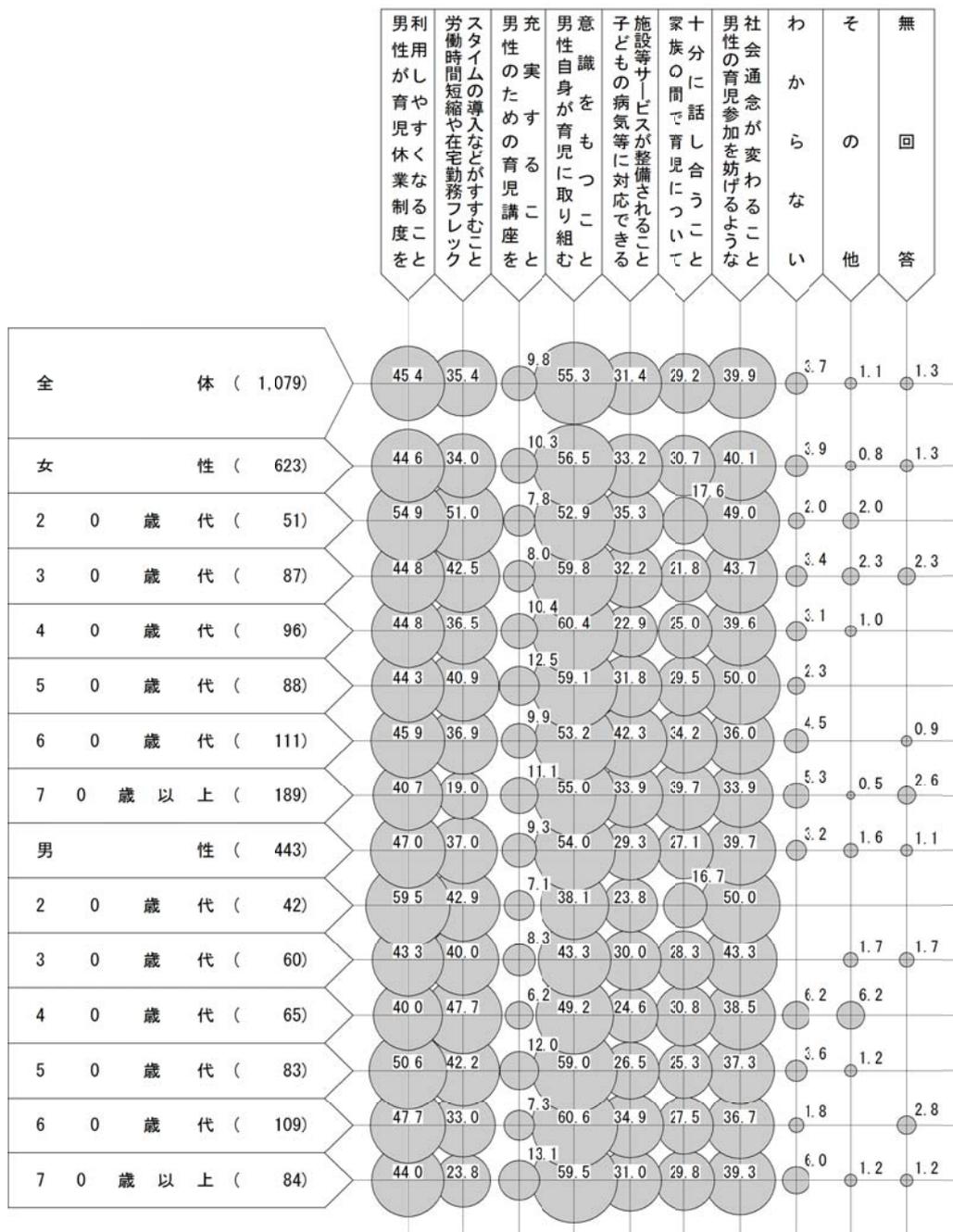
(2) 性別

- 女性と男性の間に目立った差は見られません。
▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性、男性ともに 20 歳代で「男性が育児休業制度を利用しやすくすること」の割合が、全体よりも 10 ポイント程度高くなっています。
- 女性で「家族の間に育児について十分に話し合うこと」が 30.7%と高くなっています。
▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

図表5-5 男性が育児に参加することの必要性について（性別・年齢別）



5. 男女平等意識育成のための教育現場における取組内容について

問 11

あなたは、男女平等の意識を育てるために、学校を中心とした教育の場ではどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。(○は2つまで)

(1) 全体

- 「生活指導等で男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が47.4%で最も高く、次いで「男女ともに家事や育児介護などについて学習する時間を設ける」が38.6%、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」が37.4%となっており、この3項目がかなり高くなっています。(図表 5-6)

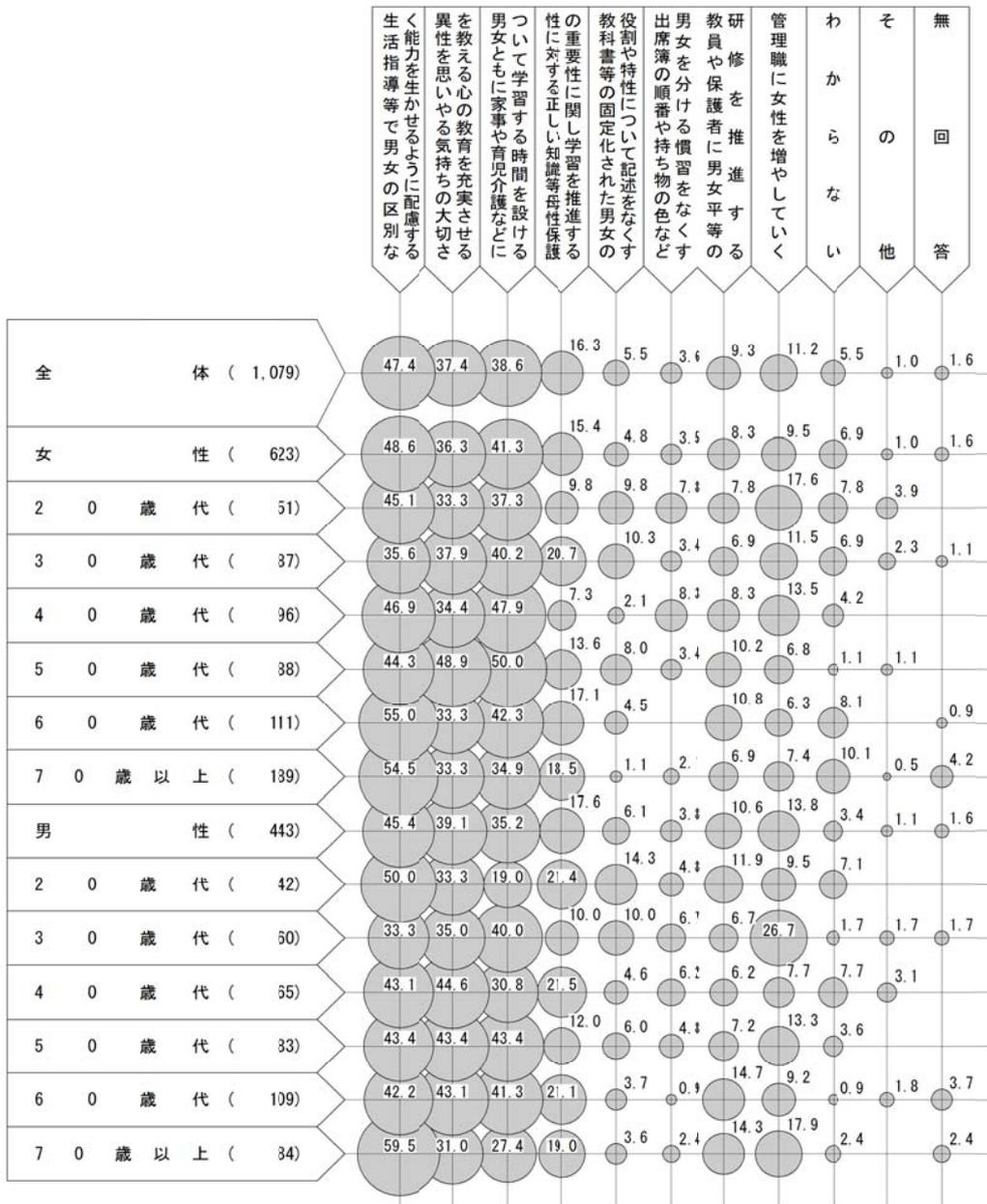
(2) 性別

- 女性と男性の間に目立った差はみられません。
- ▼3-1：概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

- 女性では60歳代、70歳以上で「生活指導等で男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」、40歳代と50歳代で「男女ともに家事や育児介護などについて学習する時間を設ける」、50歳代で「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」が高くなっています。
- 男性では30歳代から70歳以上にかけて年齢が上がるにしたがって「生活指導等で男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が高くなっているなどの特徴がうかがえます。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

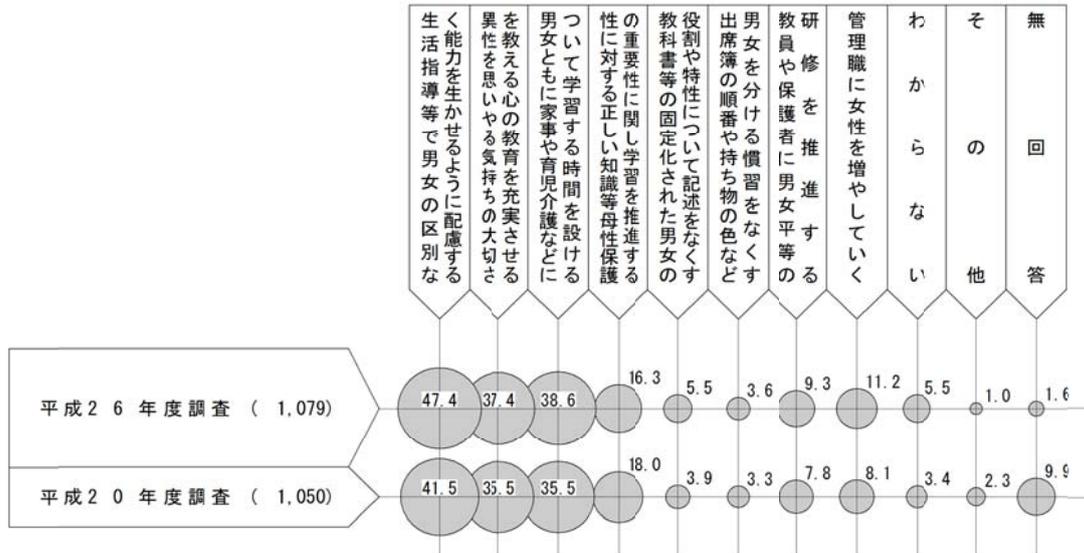
図表5-6 男女平等意識育成のための教育現場における取組内容について
(性別・年齢別)



(4) 平成 20 年度調査との比較

○本調査では「生活指導等で男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」は47.4%と、平成20年度調査よりやや高くなっています。さらに、本調査では「男女ともに家事や育児介護などについて学習する時間を設ける」と「管理職に女性を増やしていく」が平成20年度調査よりやや高くなっています。(図表5-7)

図表5-7 男女平等意識育成のための教育現場における取組内容について
(平成20年度調査比較)



第6章 職場について

1. 女性が仕事を持つことについて

問 12

あなたは、女性が職業(仕事)を持つことについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

(1) 全体

- 「子どもができたら職業(仕事)をやめ、大きくなったら再び職業(仕事)を持つほうがよい」が45.4%で最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業(仕事)を持ち続けるほうがよい」が32.9%となっており、この2項目で全体の8割近くを占めています。(図表 6-1)

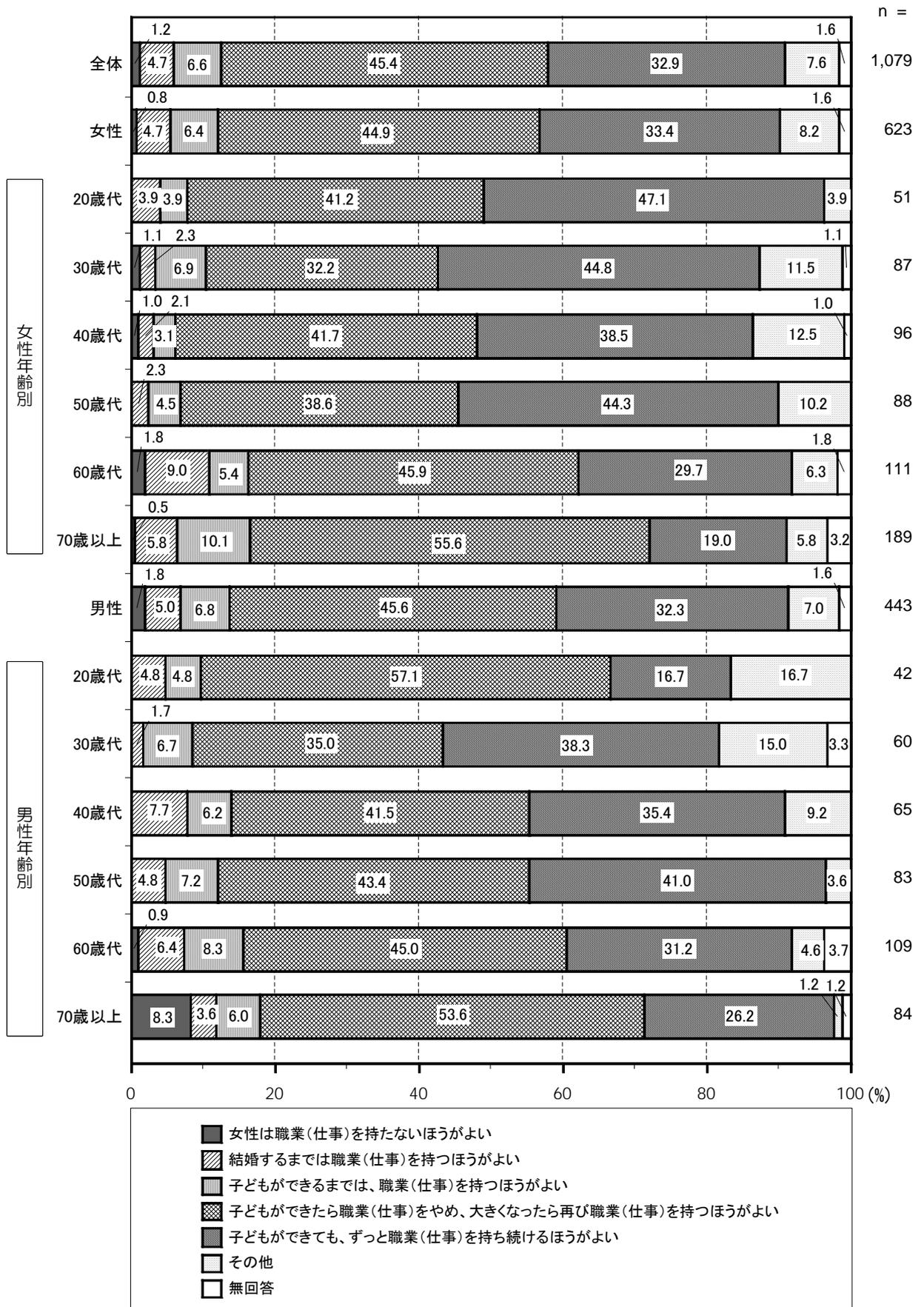
(2) 性別

- 女性と男性の間に目立った差は見られません。
- ▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代、30歳代、50歳代で「子どもができて、ずっと職業(仕事)を持ち続けるほうがよい」が44%を超えて全体よりも10ポイント以上高くなっており、70歳以上で「子どもができたら職業(仕事)をやめ、大きくなったら再び職業(仕事)を持つほうがよい」が55.6%で高くなっています。
 - 男性では、20歳代と70歳以上で「子どもができたら職業(仕事)をやめ、大きくなったら再び職業(仕事)を持つほうがよい」が5割を超えて高く、50歳代で「子どもができて、ずっと職業(仕事)を持ち続けるほうがよい」が41.0%と高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表6-1 女性が仕事を持つことについて（性別・年齢別）

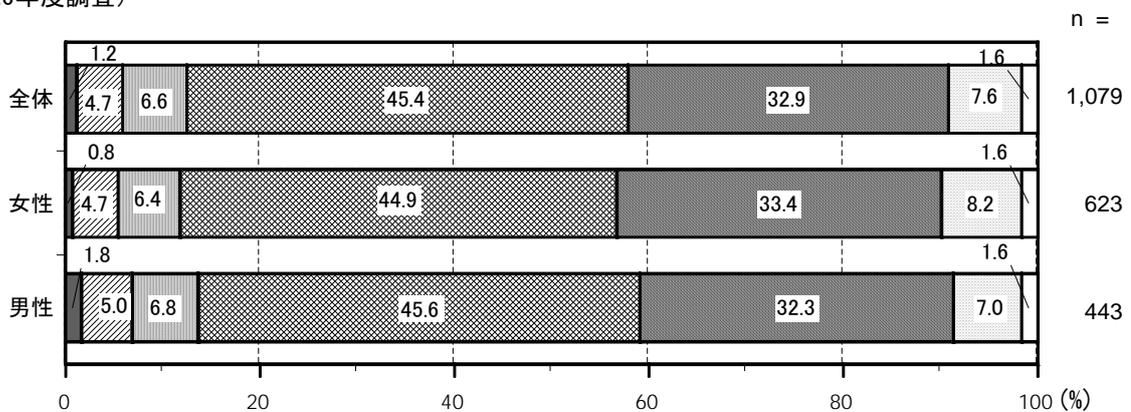


(4) 平成 20 年度調査との比較

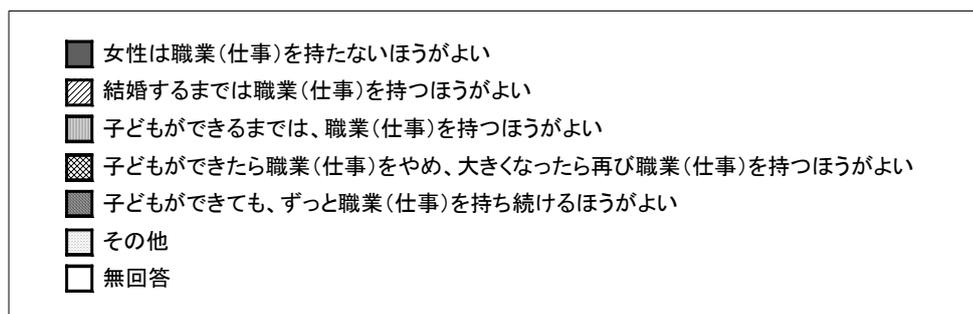
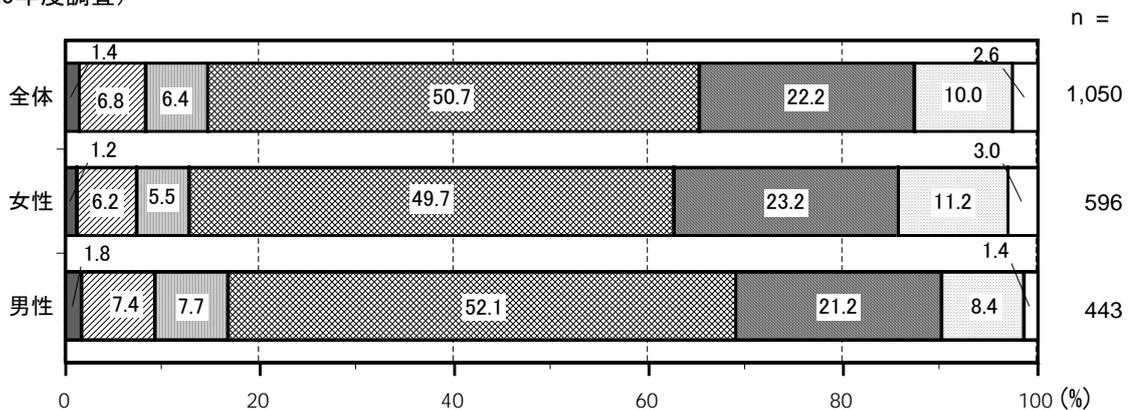
- 本調査では「子どもができて、ずっと職業（仕事）を持ち続けるほうがよい」が 32.9%で平成 20 年度調査より 10 ポイント以上高くなっています。この傾向は、女性、男性で見ても同様です。（図表 6-2）
- 一方、本調査では「子どもができたなら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい」が平成 20 年度調査よりやや低くなり、これは女性、男性で見ても同様の傾向になっています。

図表6-2 女性が仕事を持つことについて（平成 20 年度調査比較）

（平成26年度調査）



（平成20年度調査）



2. 職業を持つ場合の支障について

問 13 あなたは、自分が職業を持つ場合に何が支障になると思いますか。(○は3つまで)

(1) 全体

- 「休暇が取りにくい」と「子育てや家事の負担が大きい」が 30.8%で、「賃金が低い」(28.0%)、「労働時間が長い」(27.0%)、「募集採用の機会がない」(26.2%)などに回答が分かれています。(図表 6-3)

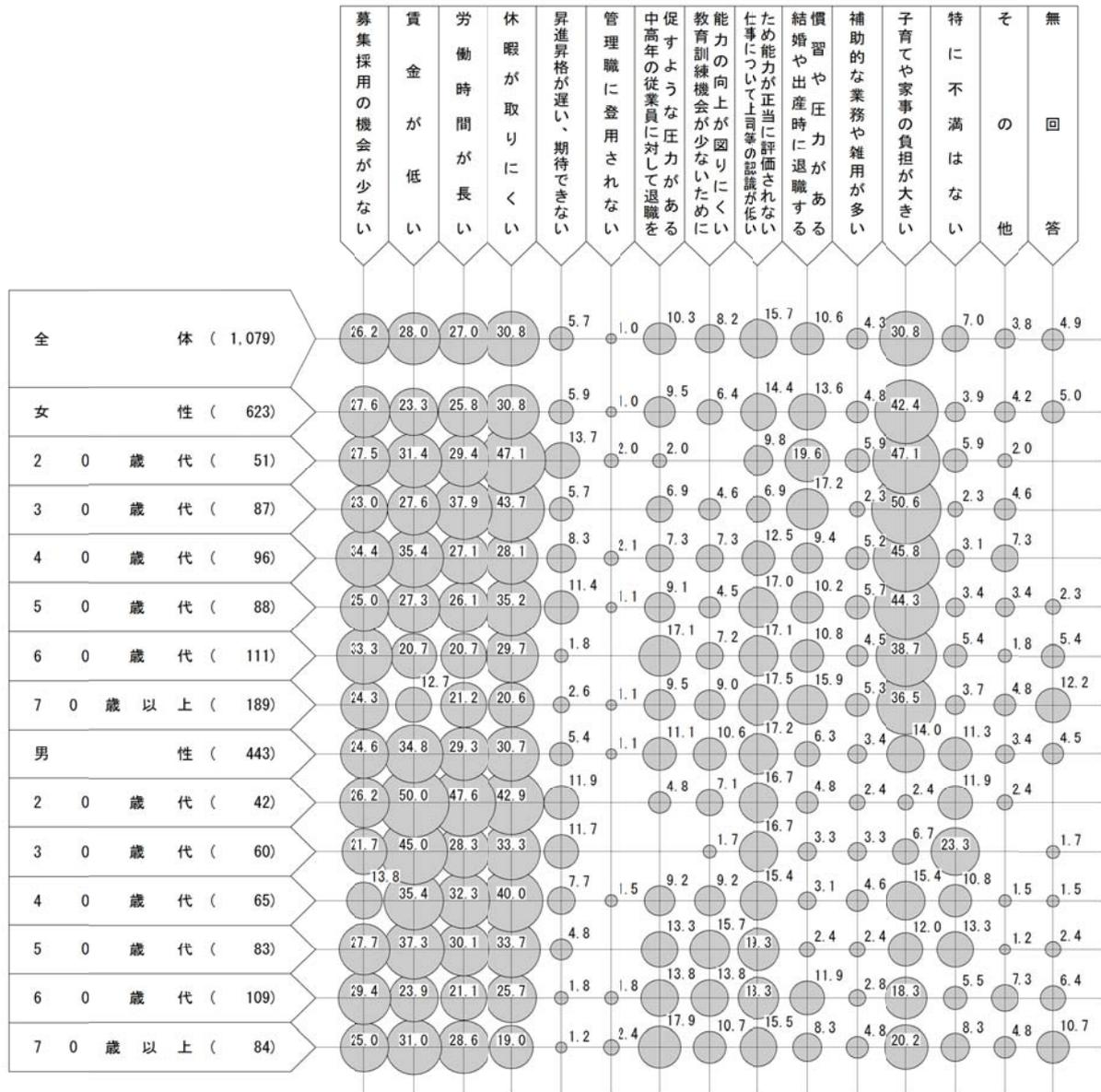
(2) 性別

- 女性では、「子育てや家事の負担が大きい」が 42.4%で全体より 10 ポイント以上高く、「結婚や出産時に退職する慣習や圧力がある」が 13.6%と全体より若干高くなっています。
 - 男性では、「賃金が安い」が 34.8%で全体より約 6 ポイント高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代から 40 歳代で「子育てや家事の負担が大きい」が 45%を超えて高くなっています。
 - 男性では 20 歳代と 30 歳代で「賃金が低い」が 45%以上と高くなっており、20 歳代で「労働時間が長い」が 47.6%とかなり高く、20 歳代と 40 歳代で「休暇が取りにくい」が 4 割以上で高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。

図表6-3 職業を持つ場合の支障について（性別・年齢別）



3. 安心して働ける環境について

問 14

あなたは、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(○は2つ)

(1) 全体

- 「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」が 46.7%で際立って高く、次いで「家族がそれぞれの仕事について理解し協力する」が 25.6%、「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」が 20.7%となっています。(図表 6-4)
- そのほかでは、「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」などが 15%程度で回答が分かれています。

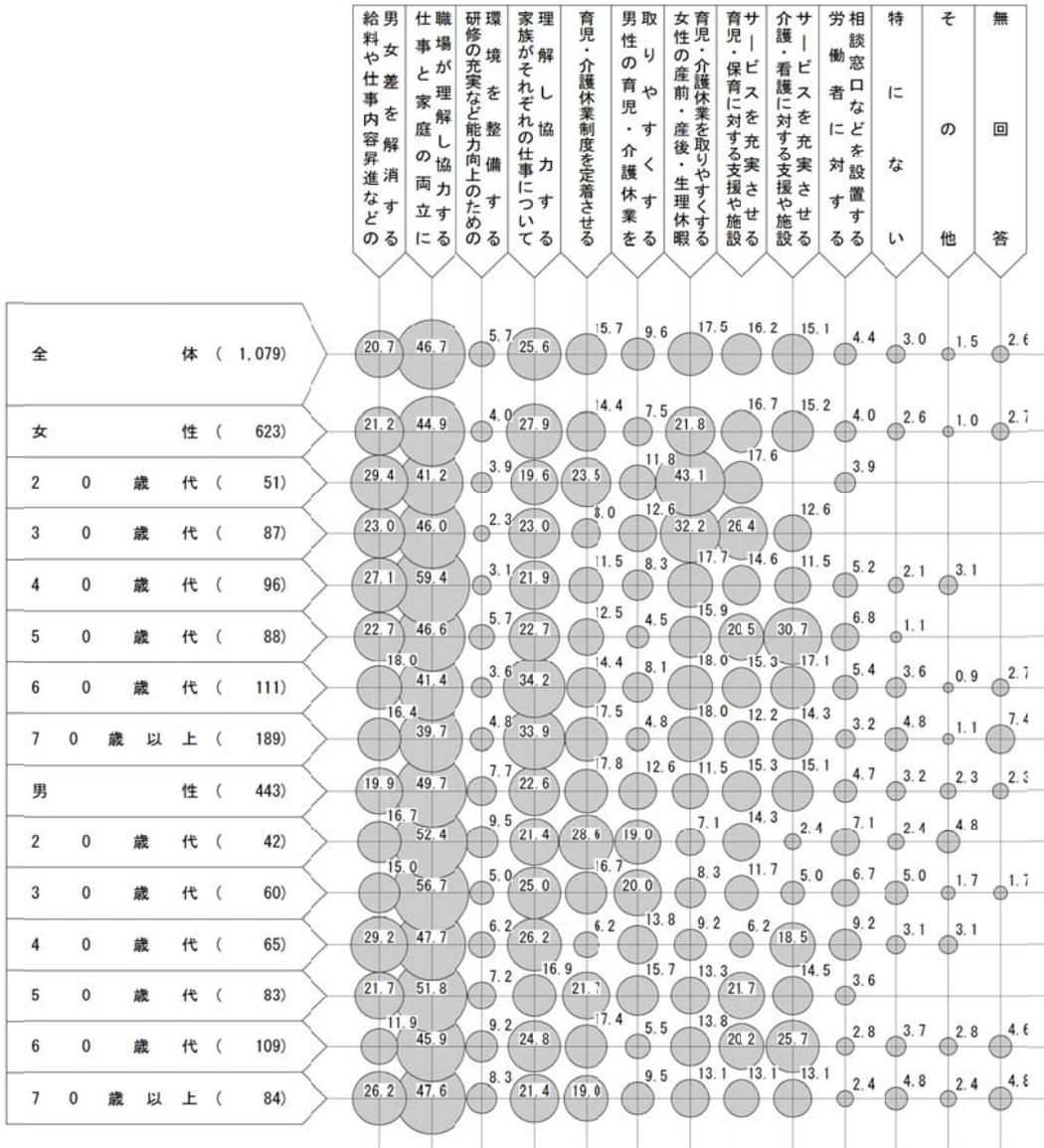
(2) 性別

- 女性では「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」が 21.8%と、全体よりやや高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい（有意差がある項目が少ない）。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代と 30 歳代で「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」、30 歳代で「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」、40 歳代で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」が、50 歳代で「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」が、それぞれ全体よりも 10 ポイント以上高くなっています。
- 男性では、20 歳代で「育児・介護休業制度を定着させる」、60 歳代で「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」が全体よりも 10 ポイント以上高くなっているなどの特徴がうかがえます。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。

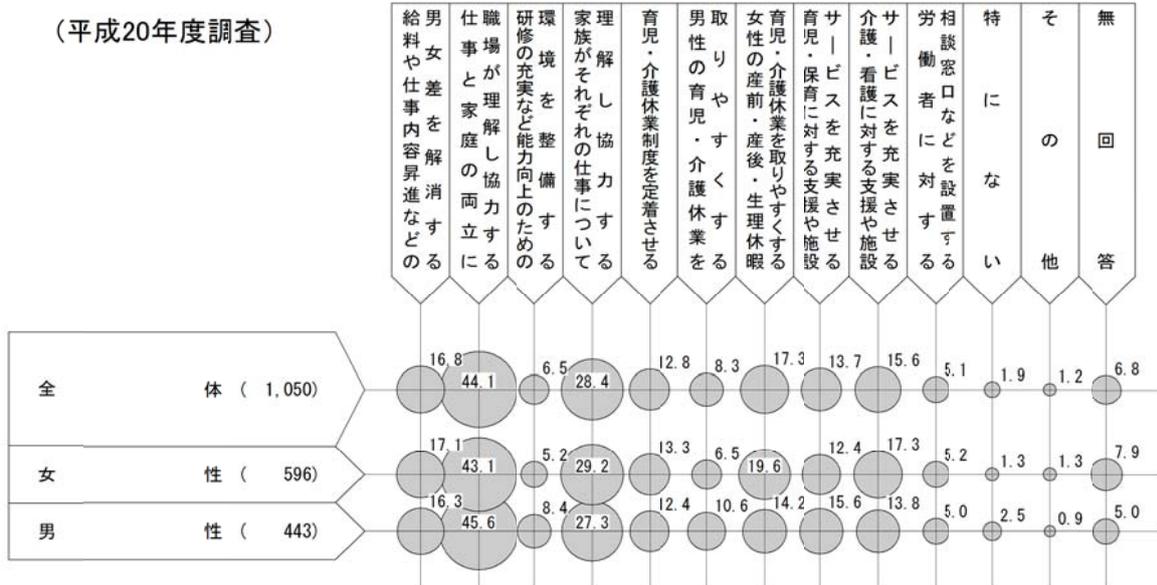
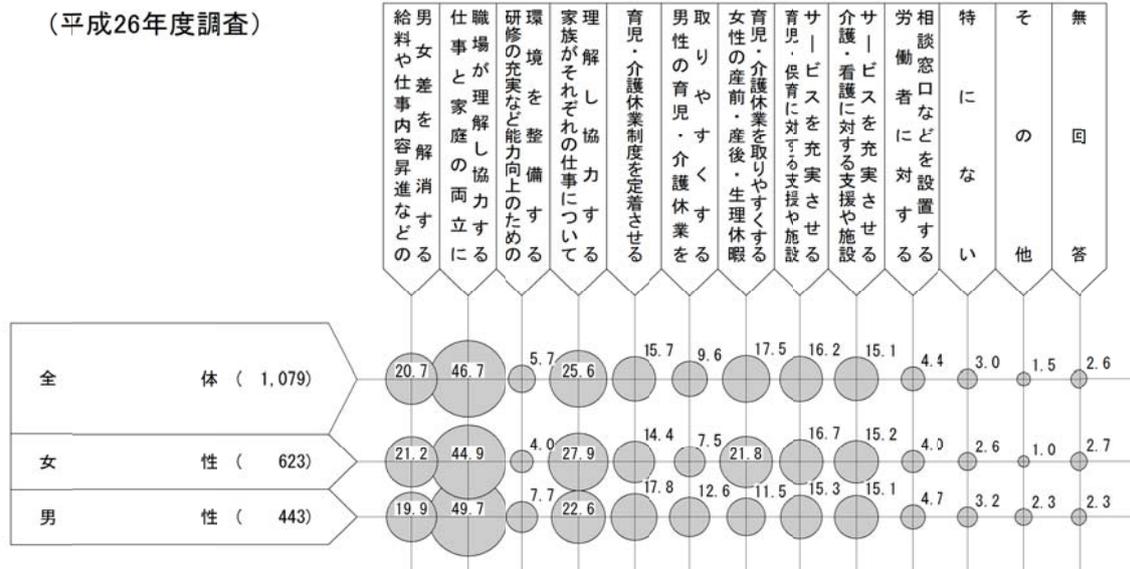
図表6-4 安心して働ける環境について（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 本調査では「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」と「育児・介護休業制度を定着させる」が、平成 20 年度調査よりやや高くなっています。(図表 6-5)
- 性別では、目立った変化はみられません。

図表6-5 安心して働ける環境について (平成 20 年度調査比較)



4. 職場におけるセクハラについて

問 15

職場におけるセクシャル・ハラスメント(セクハラ・性的いやがらせ)について次の中からあてはまるものを選んでください。(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 「自分や周りには、経験した人がいない」が 34.5%、「自分の職場では経験した人はいないと思う」が 27.8%です。(図表 6-6)
- 被害を受けたことがあるのは「自分が直接経験したことがある」が 14.6%、「同じ職場の女性で経験した人がいる」が 18.7%、「同じ職場の男性で経験した人がいる」が 5.9%です。

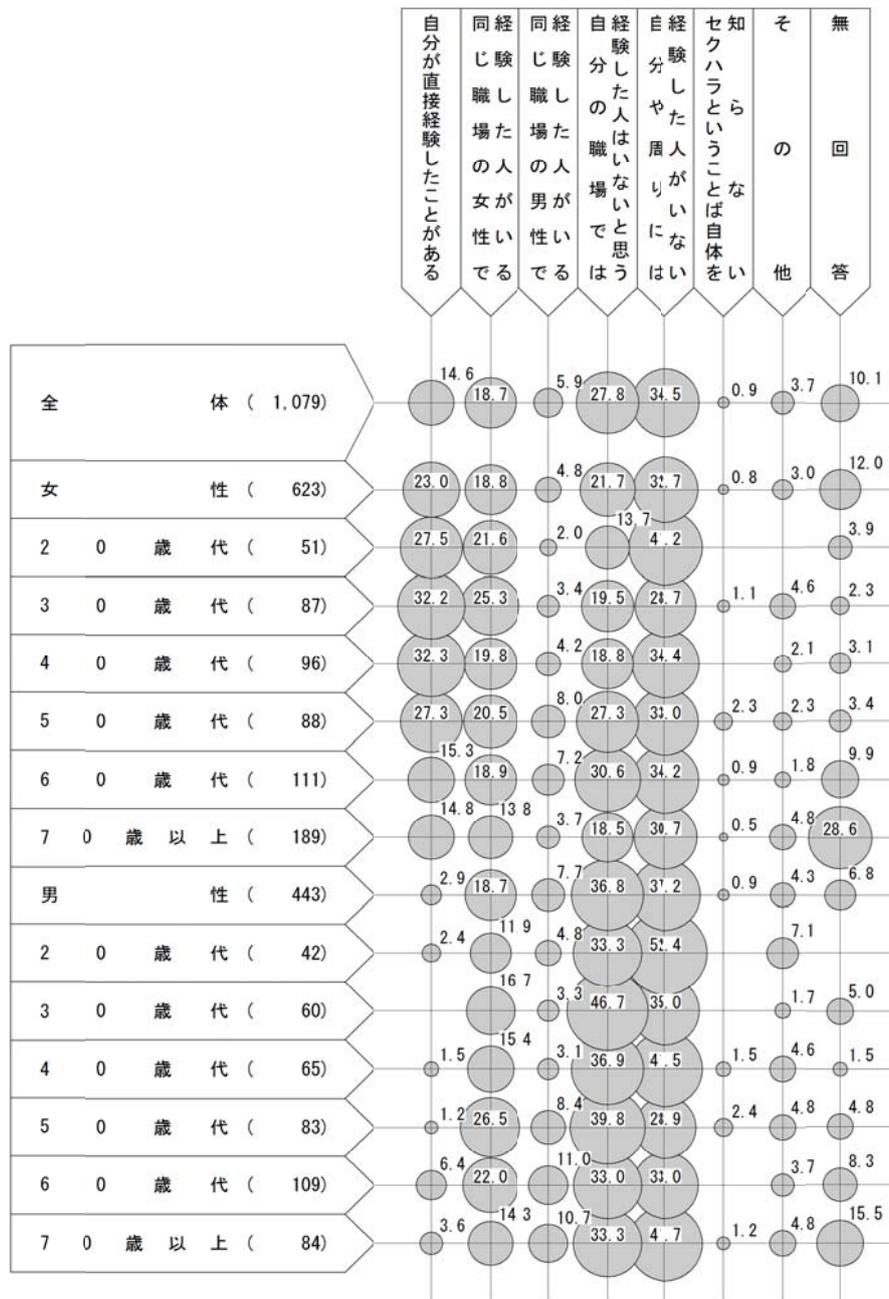
(2) 性別

- 女性では「自分が直接経験したことがある」が 23.0%と、男性の 7 倍程度のポイントになっています。
- 男性では「自分の職場では経験した人はいないと思う」が 36.8%と、女性より高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 30 歳代と 40 歳代で「自分が直接経験したことがある」が約 32%と高くなっています。女性の 20 歳代では「自分や周りには、経験した人がいない」が 41.2%と他の年齢層よりも高く、男性でも 20 歳代が 52.4%と高くなっています。
- 男性では 30 歳代で「自分の職場では経験した人はいないと思う」が 46.7%で高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

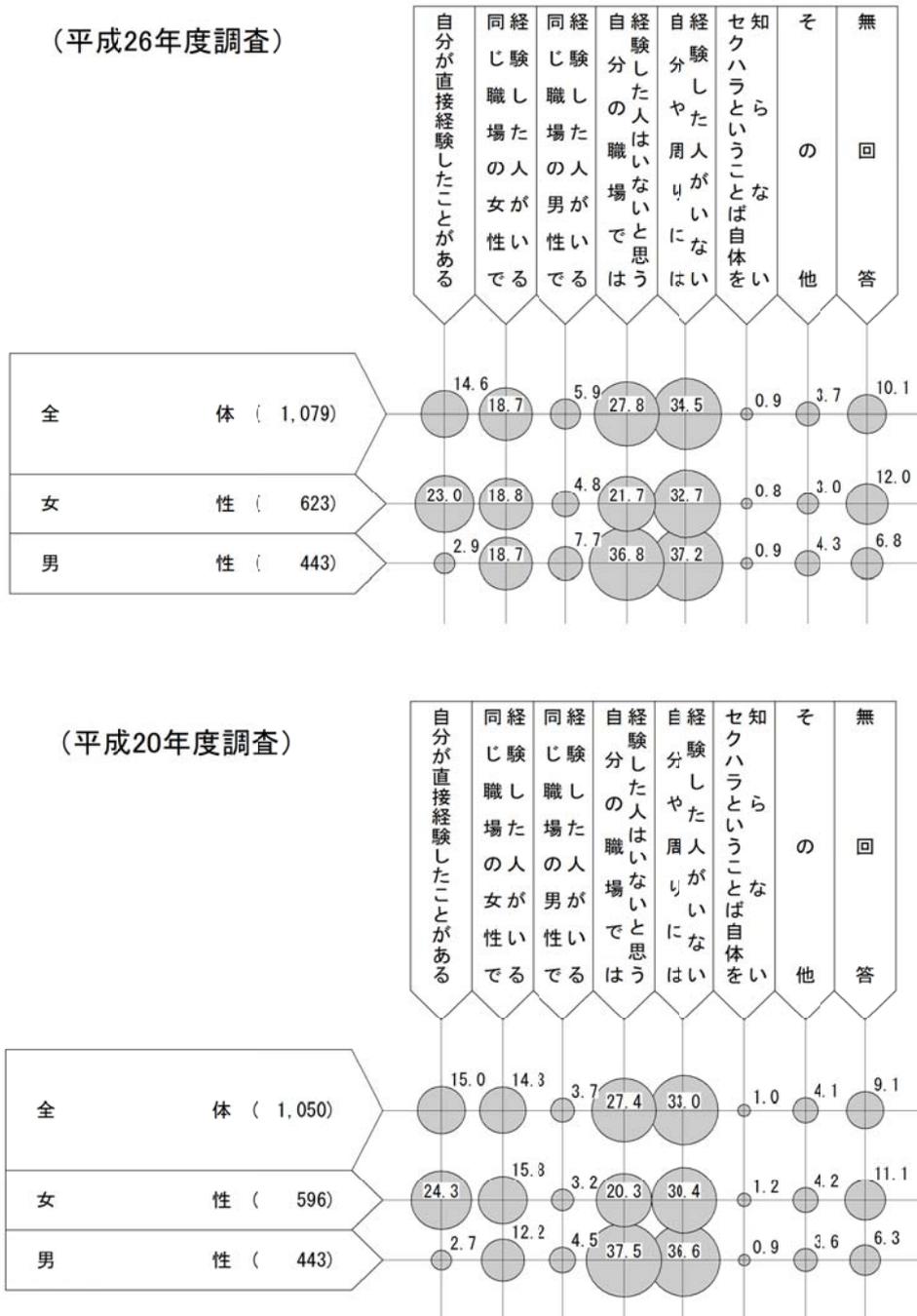
図表6-6 職場における職場におけるセクハラについて（性別・年齢別）



(4) 平成20年度調査との比較

○本調査では「同じ職場の女性で経験した人がいる」が平成20年度からやや高くなっており、性別に見ても同様の状況になっています。(図表6-7)

図表6-7 職場における職場におけるセクハラについて（平成20年度調査比較）



5. セクハラを経験した際の相談者について

問 16

問15で「1」～「3」と答えた方にお聞きします。

セクハラを自分が経験した、または身近に当事者がいた場合、誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

○主な相談先は「職場の同僚」が36.8%、「会社の上司」と「友人」が24.0%となっており、「相談しなかった」は25.9%みられます。(図表 6-8)

(2) 性別

○女性では「友人」が28.6%と全体よりやや高くなっています。

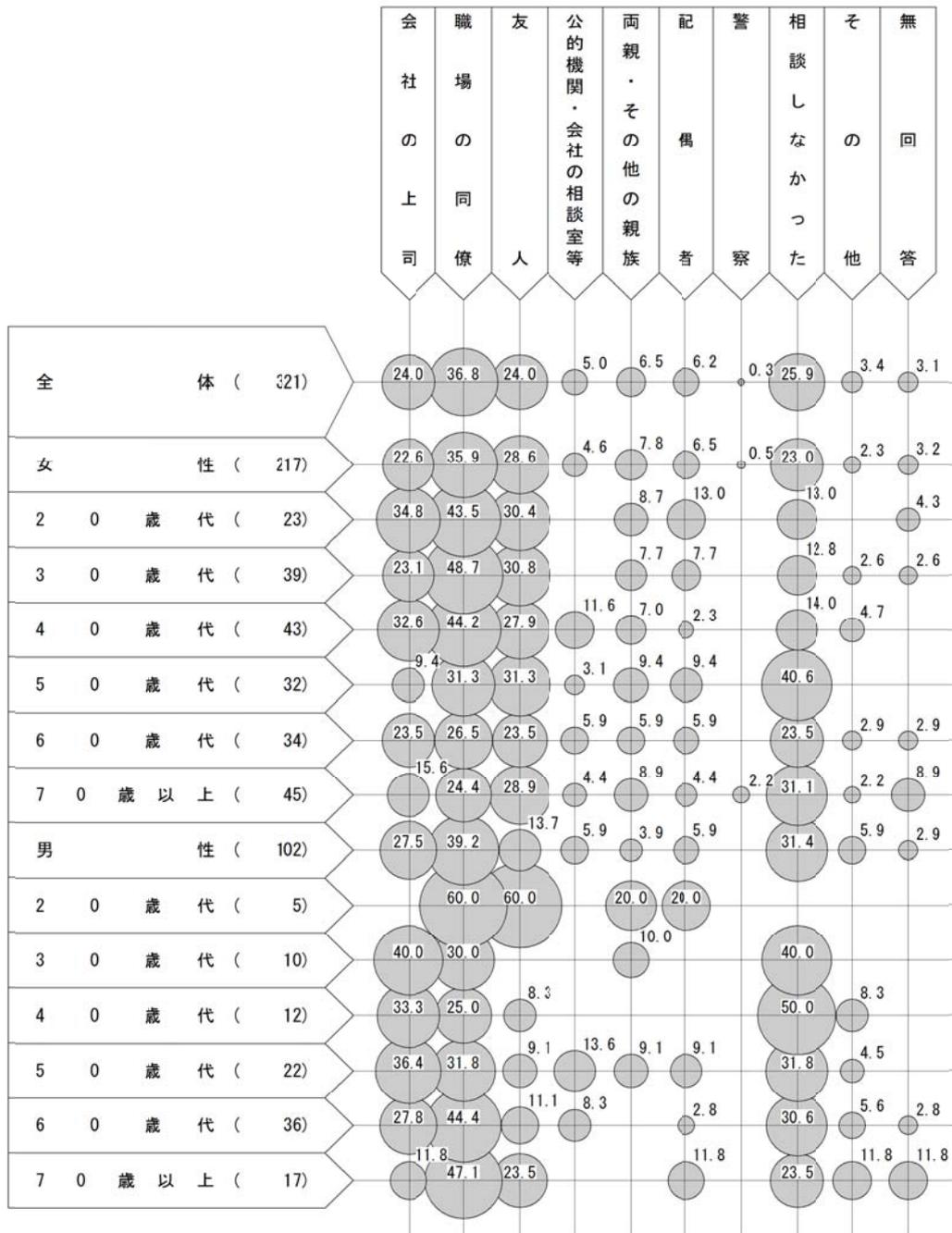
▼3-1：概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

○女性では20歳代と40歳代で「職場の上司」が32%を超えて、他の年齢層よりも高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

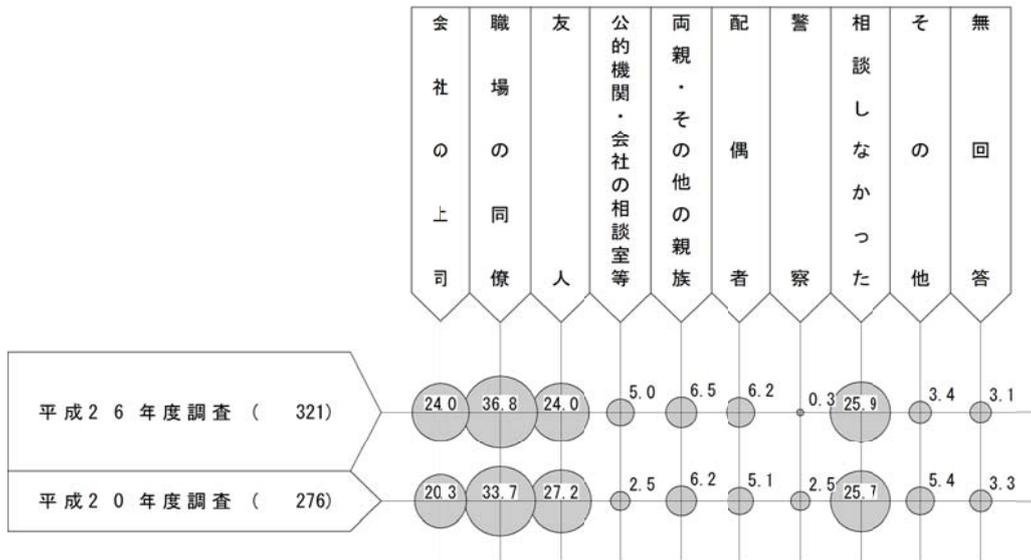
図表6-8 セクハラを経験した際の相談者について（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 本調査では「会社の上司」と「職場の同僚」が、平成 20 年度調査よりやや高くなっています。(図表 6-9)
- 「相談しなかった」の割合はほとんど変化していません。

図表6-9 セクハラを経験した際の相談者について（平成 20 年度調査比較）



6. セクハラ対策について

問 17 あなたは、セクハラに、どのような対策が必要だと思いますか。(○は2つまで)

(1) 全体

- 「事業主が対策に取り組むこと」が41.3%で最も高く、次いで「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」が32.7%、「相談機関を設置すること」が27.4%となっています。(図表 6-10)

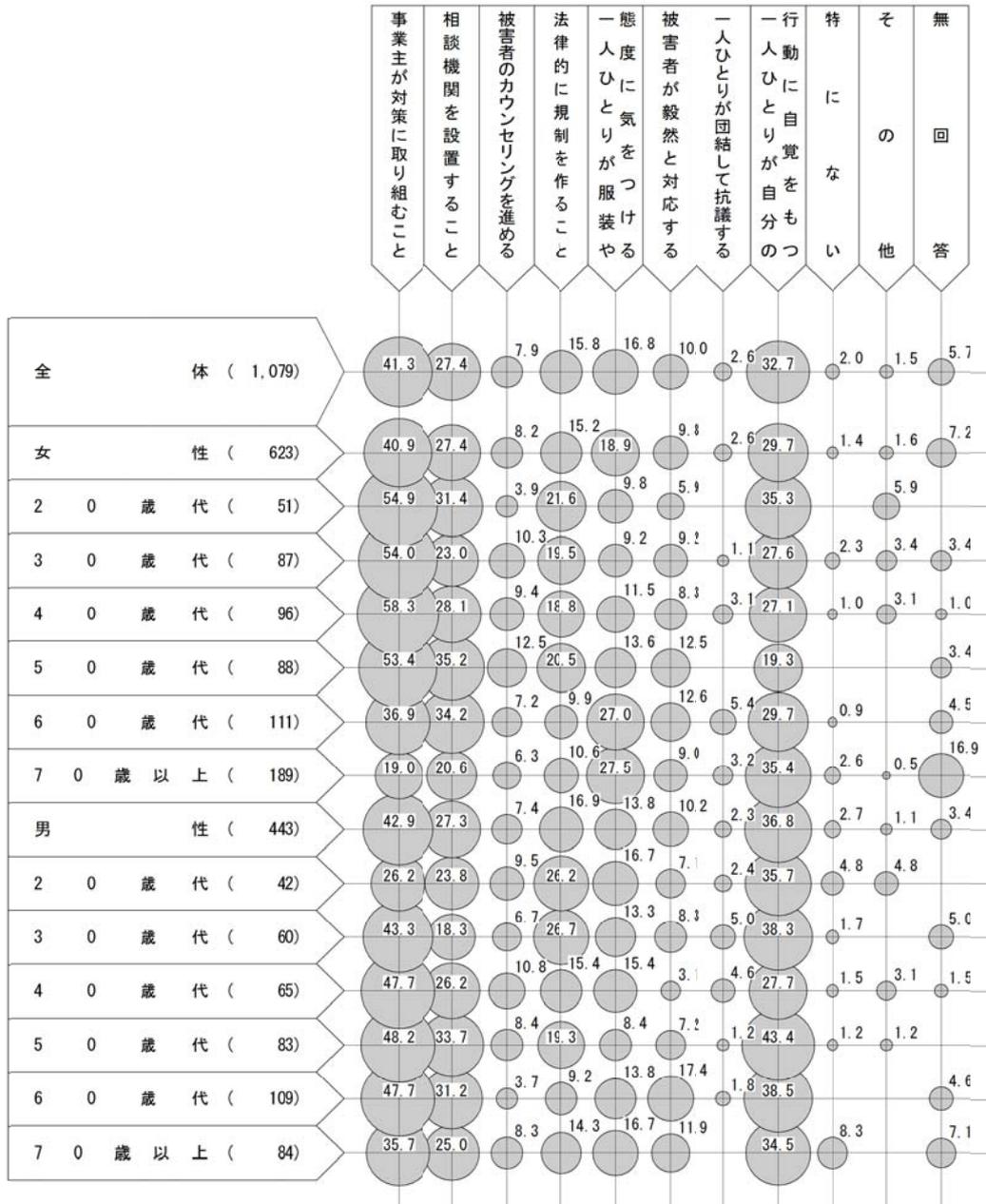
(2) 性別

- 女性では「一人ひとりが服装や態度に気をつける」では18.9%で、男性よりも高くなっています。
 - 男性では「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」では36.8%で、女性よりも高くなっています。
- ▼3-1：概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

- 女性の20歳代～50歳代で「事業主が対策に取り組むこと」が53%以上で、全体より10ポイント以上高くなっています。また、20歳代と70歳以上では「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」が約35%でほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では40歳代から60歳代で「事業主が対策に取り組むこと」が47%以上で、ほかの年齢層よりも高くなっています。また、50歳代では「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」が43.4%でほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

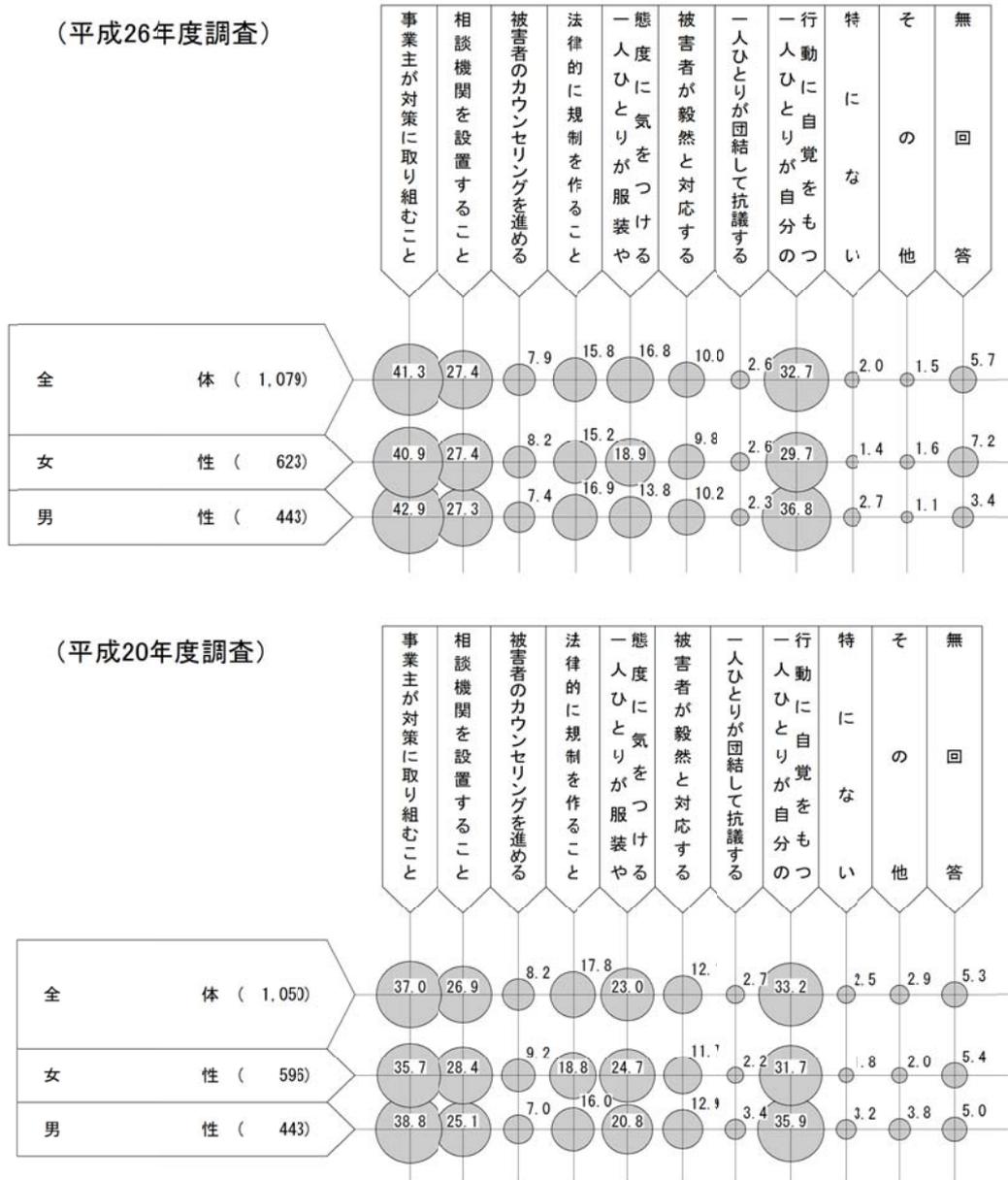
図表6-10 セクハラ対策について（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 本調査では「事業主が対策に取り組むこと」が 41.3%で平成 20 年度調査よりやや高くなっています。(図表 6-11)
- 逆に本調査では「一人ひとりが服装や態度に気を付ける」が 16.8%へ約 6 ポイント低下しています。

図表 6-11 セクハラ対策について (平成 20 年度調査比較)



7. ワーク・ライフ・バランスの認知

問 18 あなたは、【ワーク・ライフ・バランス】について、知っていますか。(○は1つ)

(1) 全体

- 「全く知らない」が47.2%、「ことばは聞いたことがある」が32.0%と8割近くが内容等を理解していません。「ことばの内容を理解している」は、17.6%です。(図表 6-12)

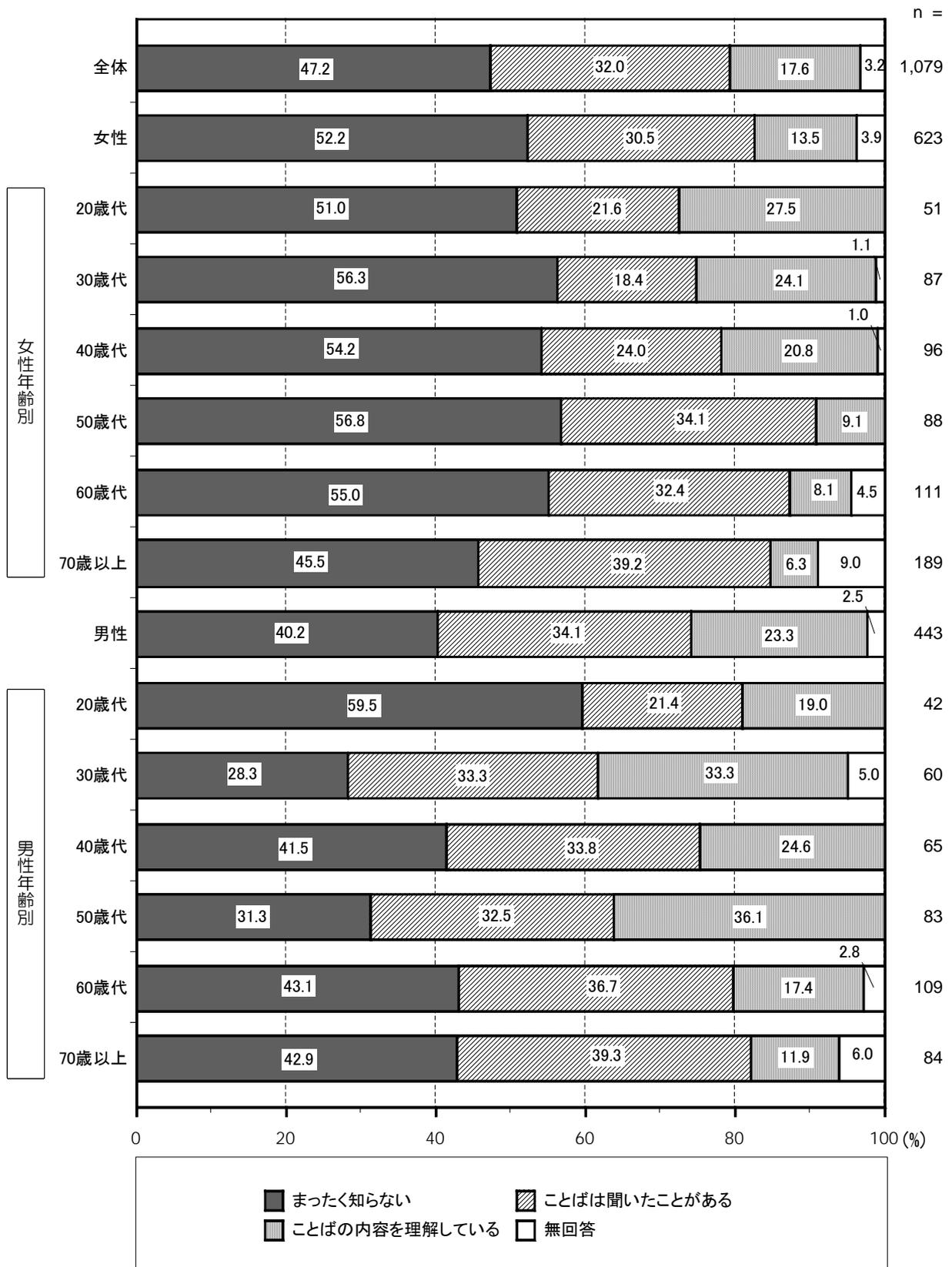
(2) 性別

- 女性で「全く知らない」が52.2%で、男性よりも10ポイント以上高くなっています。
- 男性では「ことばの内容を理解している」は23.3%で、女性よりも約10ポイント高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では、20歳代から年齢層が高くなるにしたがって「ことばの内容を理解している」が低くなっています。一方、30歳代から年齢が高くなるにしたがって「ことばは聞いたことがある」の割合が高くなっています。
- 男性では20歳代で「全く知らない」が59.5%と、特に高くなっています。「ことばの内容を理解している」で30歳代と50歳代で3分の1を超えて高くなっています。

図表6-12 ワーク・ライフ・バランスの認知（性別・年齢別）



8. 生活における仕事やプライベートな時間の優先度について

問 19

生活の中での、仕事・家事(育児)・プライベートな時間(趣味など)の優先度について、あなたの【希望】の優先度と、【現実】としての優先度をお答えください。
（【希望】と【現実】それぞれに1つ○）

1 希望

(1) 全体

- 【希望】では、「仕事・家事・プライベートを両立」が33.7%で最も多く、次いで「プライベートな時間優先」が15.9%、「家事とプライベート優先」が13.5%となっています。（図6-13）

(2) 性別

- 女性では「家事とプライベート優先」が17.0%と、男性の倍程度のポイントとなっています。
- 男性の希望では、「仕事とプライベート優先」が17.2%で女性の倍程度のポイント、「仕事優先」が8.4%ですが女性の3倍程度となっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代で「家事とプライベート優先」（25.5%）、30歳代と50歳代で「仕事・家事・プライベートを両立」（4割以上）と高くなっています。また、50歳代では「プライベート優先」（20.5%）、60歳代と70歳以上では「仕事と家事優先」（14%強）が全体よりも高くなっています。
 - 男性では、20歳代と40歳代「プライベートな時間優先」（概ね3割以上）、50歳代で「仕事とプライベート優先」（22.9%）、50歳代と60歳代で「仕事・家事・プライベートを両立」（4割弱）などが全体よりも高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

2 現実

(1) 全体

- 【現実】では、「仕事優先」が39.2%で最も多く、次いで「仕事と家事優先」が15.0%、「家事優先」が11.5%となっています。（図6-14）

(2) 性別

- 女性では、「家事優先」（18.3%）と「仕事と家事優先」（18.9%）が、全体よりもやや高くなっています。
- 男性では「仕事優先」（55.8%）が全体よりも15ポイント以上高く、「仕事とプライベート優先」がやや高くなっている反面、女性に比べて家事が関係する項目が低くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代から年齢が上がるにしたがって「仕事優先」が低くなっているとうかがえます。40歳代では「仕事と家事優先」(30.2%)、50歳代と60歳代では「家事優先」(2割以上)が全体よりも高くなっています。
 - 男性では、20歳代と40歳代、50歳代では「仕事優先」(6割以上)、20歳代と40歳代で「仕事とプライベート優先」(18%以上)、60歳代で「仕事・家事・プライベートを両立」(18.3%)などが全体よりも高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

3 希望と現実の乖離

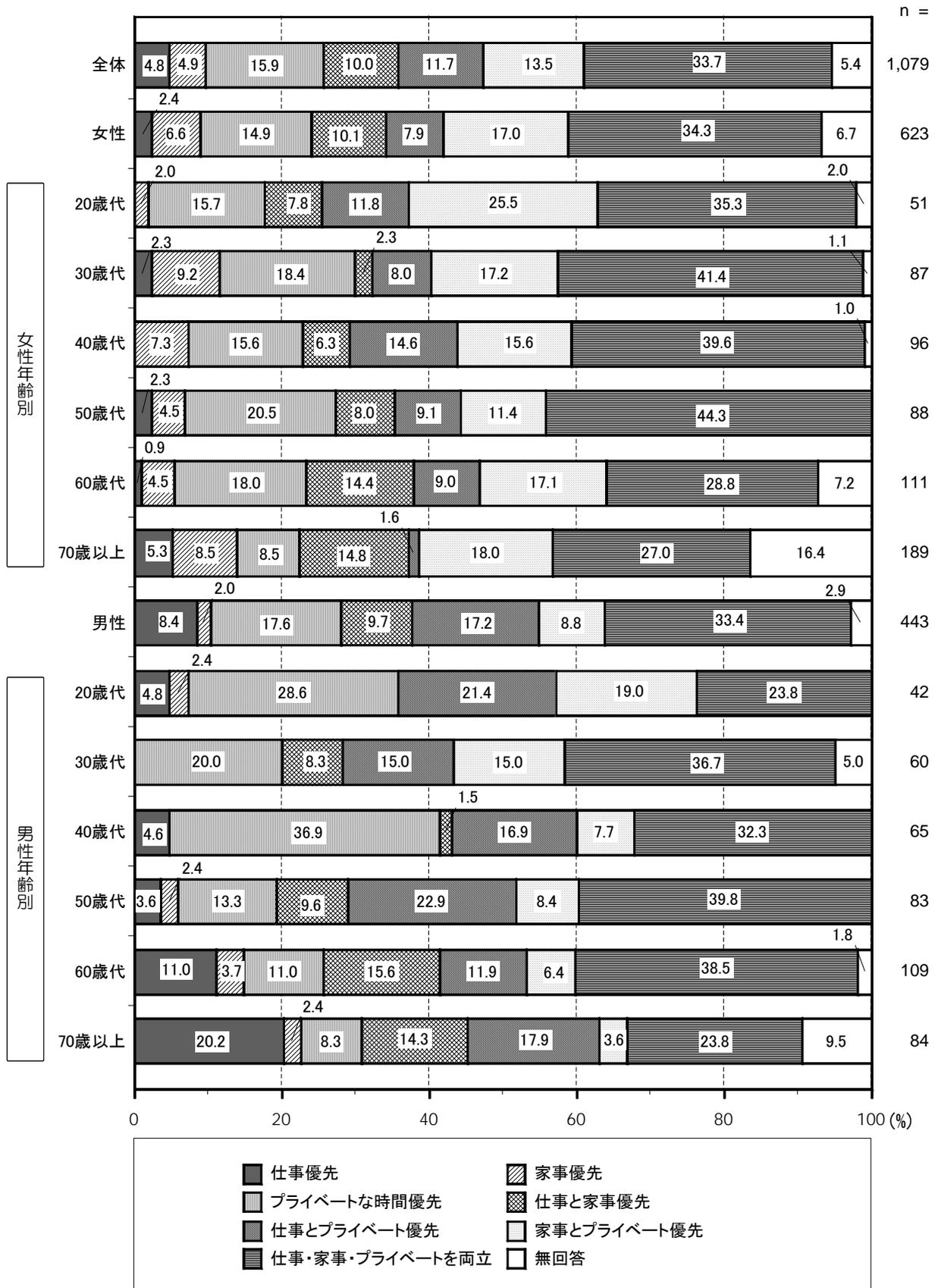
(1) 全体

- 特に乖離している項目は、「仕事優先」が希望では4.8%と低いですが現実では39.2%と高くなっています。
- 「仕事・家事・プライベートを両立」が希望では33.7%と高いですが現実では9.2%、「プライベートな時間優先」が希望では15.9%ですが現実では2.4%となっています。
- プライベートや家事を優先したいという希望はあるが、現実には仕事優先となっていると回答されています。

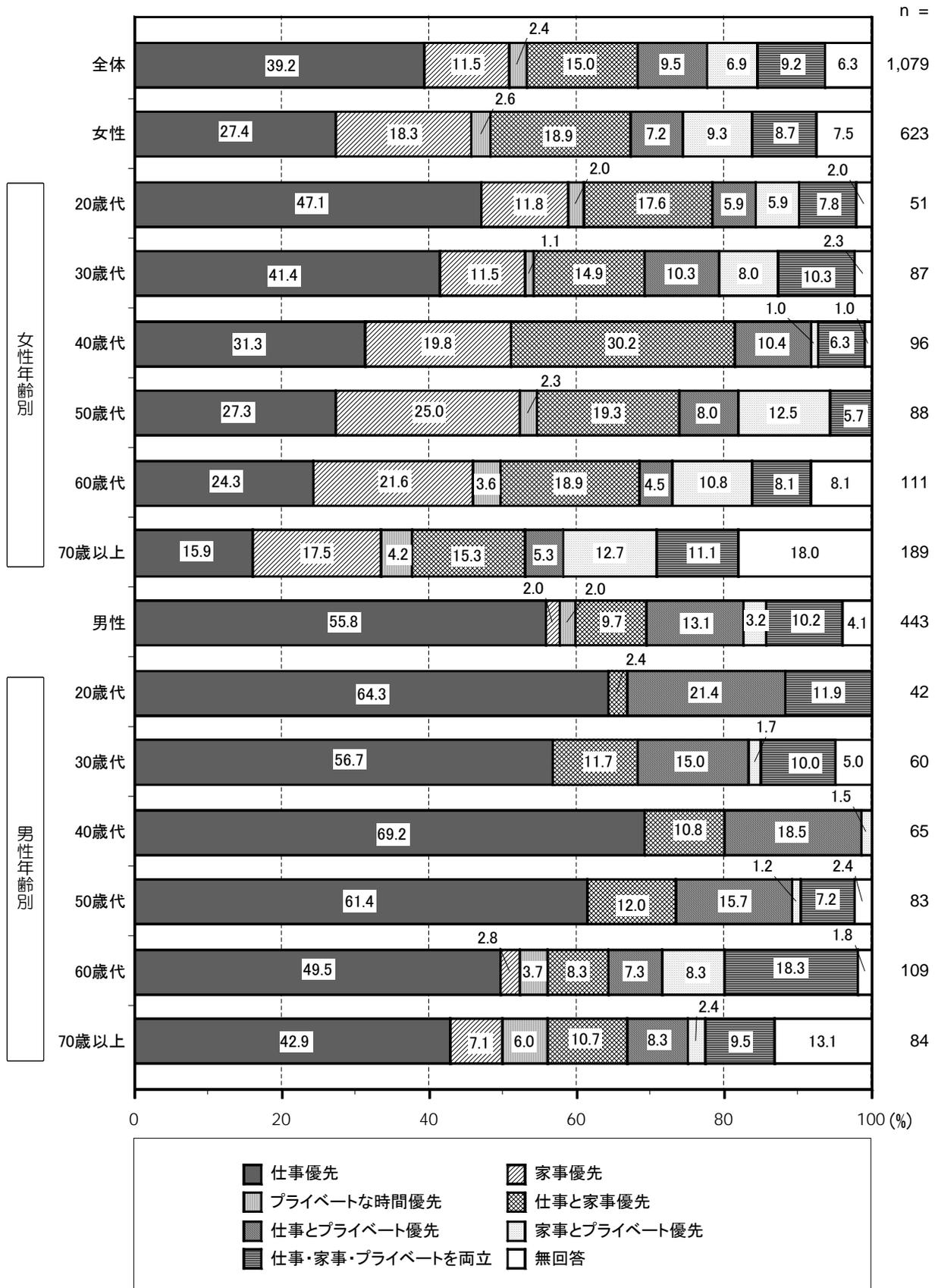
(2) 性別

- 希望と現実の乖離状況では、「仕事優先」の(希望割合－現実割合)が、女性で-25.0に対して男性では-47.4%であり、男性で希望に反して仕事優先となっていることがうかがえます。
- 「家事優先」と「仕事と家事優先」の(希望割合－現実割合)では、女性がそれぞれ-11.7、-8.8であるのに対して男性ではいずれも差がなく、女性は希望に反して家事優先となっている割合が高いことがうかがえます。

図表6-13 生活における仕事やプライベートな時間の優先度について【希望】
(性別・年齢別)



図表6-14 生活における仕事やプライベートな時間の優先度について【現実】
(性別・年齢別)



第7章 地域や社会との関わり方について

1. 地域活動の役割分担について

問 20 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。
(それぞれに1つ○)

1-1 地域役員や催しものの企画、決定

(1) 全体

- 「主に男性が担当」が 30.2%、「男性が多いが女性も分担」が 25.5%、「同程度」が 12.0%です。(図表 7-1)
- 『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)が約 56%であるのに対し、『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約 13%です。

(2) 性別

- 男性で『主に男性が担当』が約 61%と高くなっています。

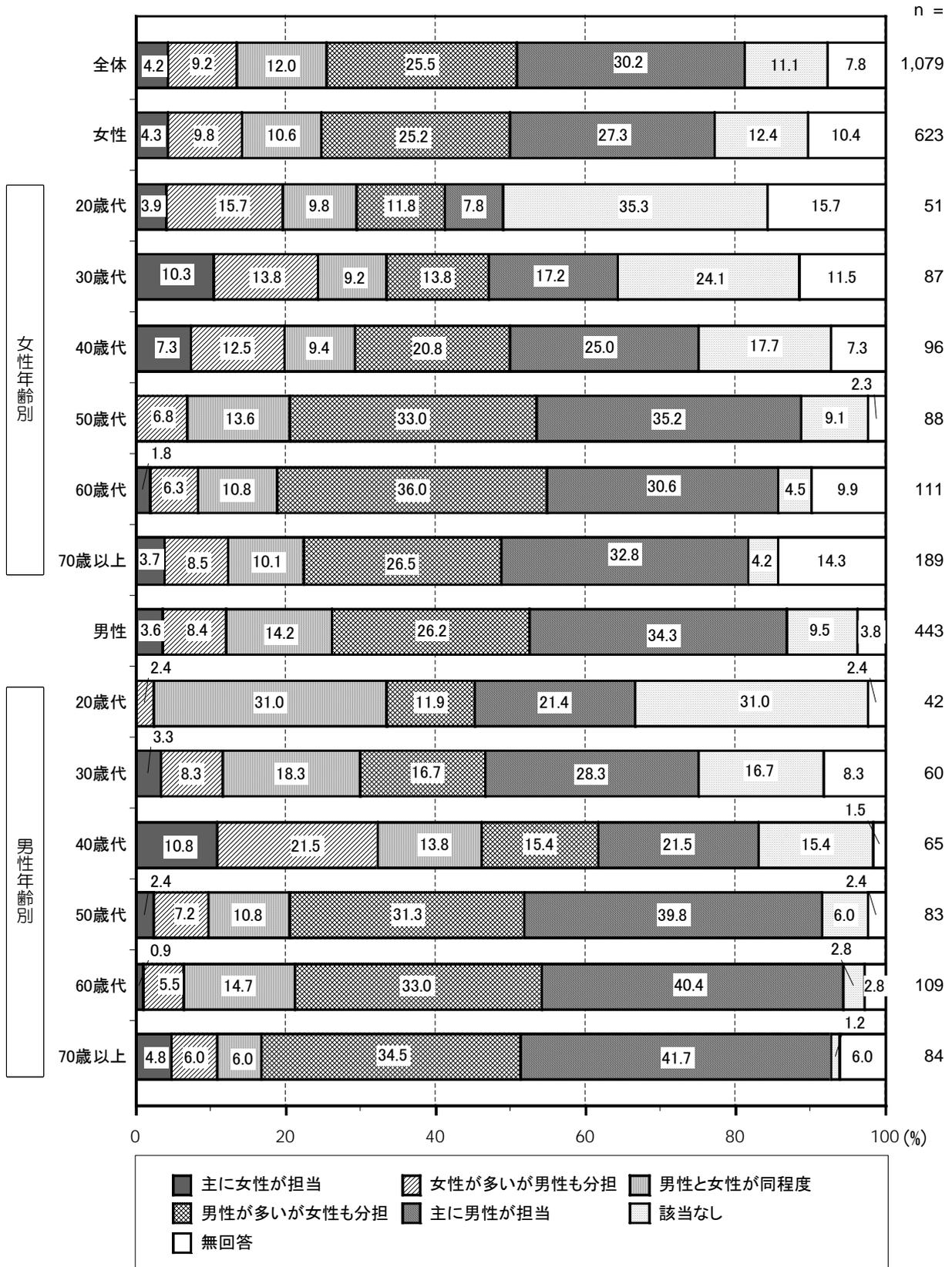
▼3-2: 有意差はない。

※問 20 のカイ二乗検定においては、図示している選択肢によるクロス集計では検定が困難な場合が多かったため、『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)と選択肢をまとめて検定した結果を主に示しています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代と 30 歳代で『主に女性が担当』(概ね 2 割以上)、60 歳代と 70 歳以上で『主に男性が担当』(概ね 6 割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 30 歳代で「男性と女性が同程度」(18.3%)、40 歳代で『主に女性が担当』(約 32%)、50 歳代以上では『主に男性が担当』(7 割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。

図表7-1 地域活動の役割分担としての地域役員や催しものの企画、決定
(性別・年齢別)



1-2 集会などの運営、取り仕切り

(1) 全体

- 「主に男性が担当」が 38.4%、「男性が多いが女性も分担」が 20.9%で合わせて『主に男性が担当』が約 59%です。(図表 7-2)
- 「同程度」が 11.5%の順であり、『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約 1割です。

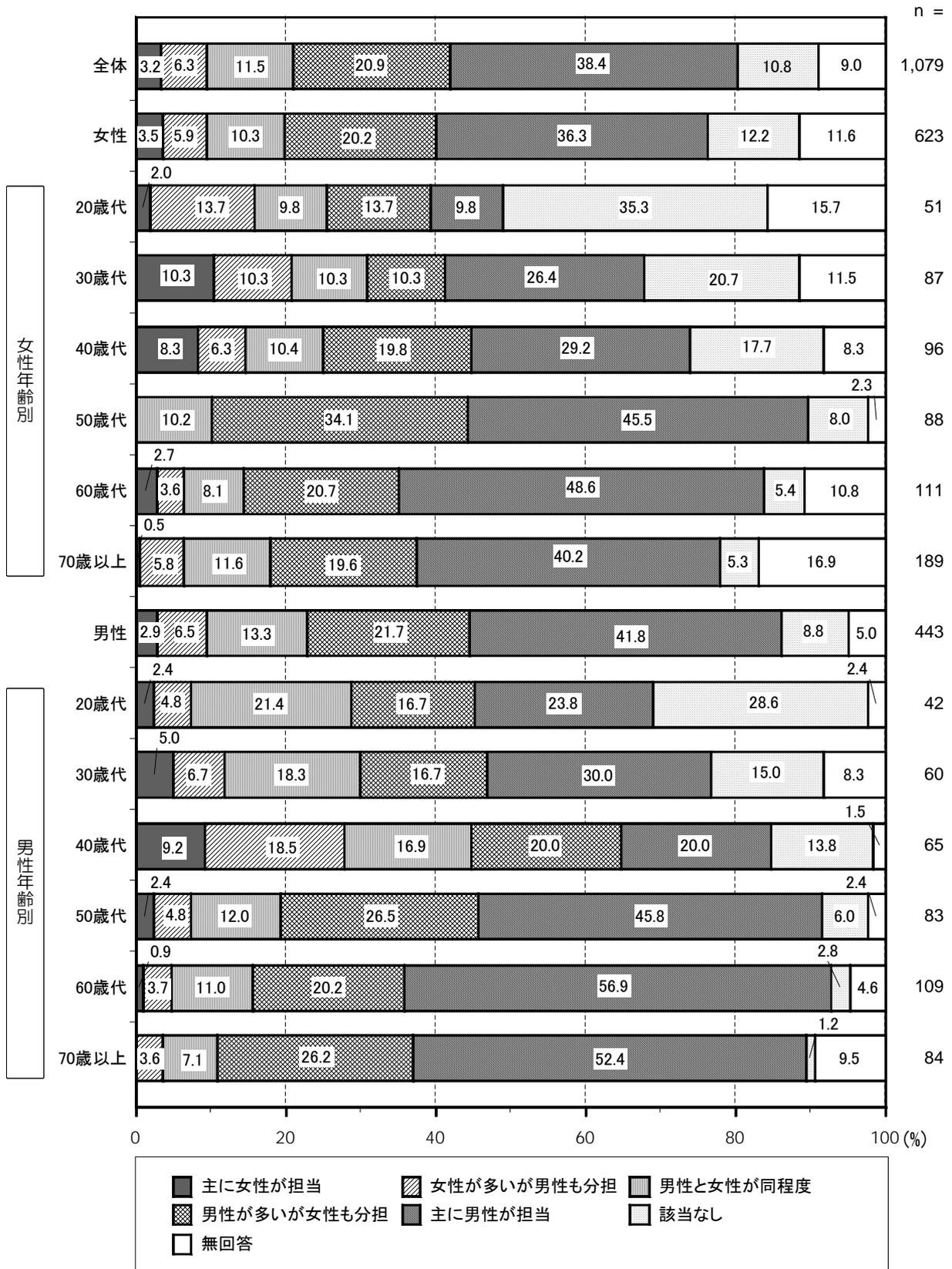
(2) 性別

- 男性で『主に男性が担当』が約 63%と高くなっています。
- ▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代から 40 歳代で『主に女性が担当』(30 歳代では約 21%)、50 歳代と 60 歳代で『主に男性が担当』(概ね 7割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 30 歳代で「男性と女性が同程度」(18.3%)、40 歳代で『主に女性が担当』(約 28%)、50 歳代以上では『主に男性が担当』(7割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。

図表7-2 地域活動の役割分担としての集会などの運営、取り仕切り
(性別・年齢別)



1-3 集会などでのお茶くみ、調理

(1) 全体

- 「主に女性が担当」が44.9%、「女性が多いが男性も分担」が22.3%で合わせて『主に女性が担当』が約67%になっています。(図表7-3)
- 「同程度」が6.0%の順であり、『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)が約3%です。

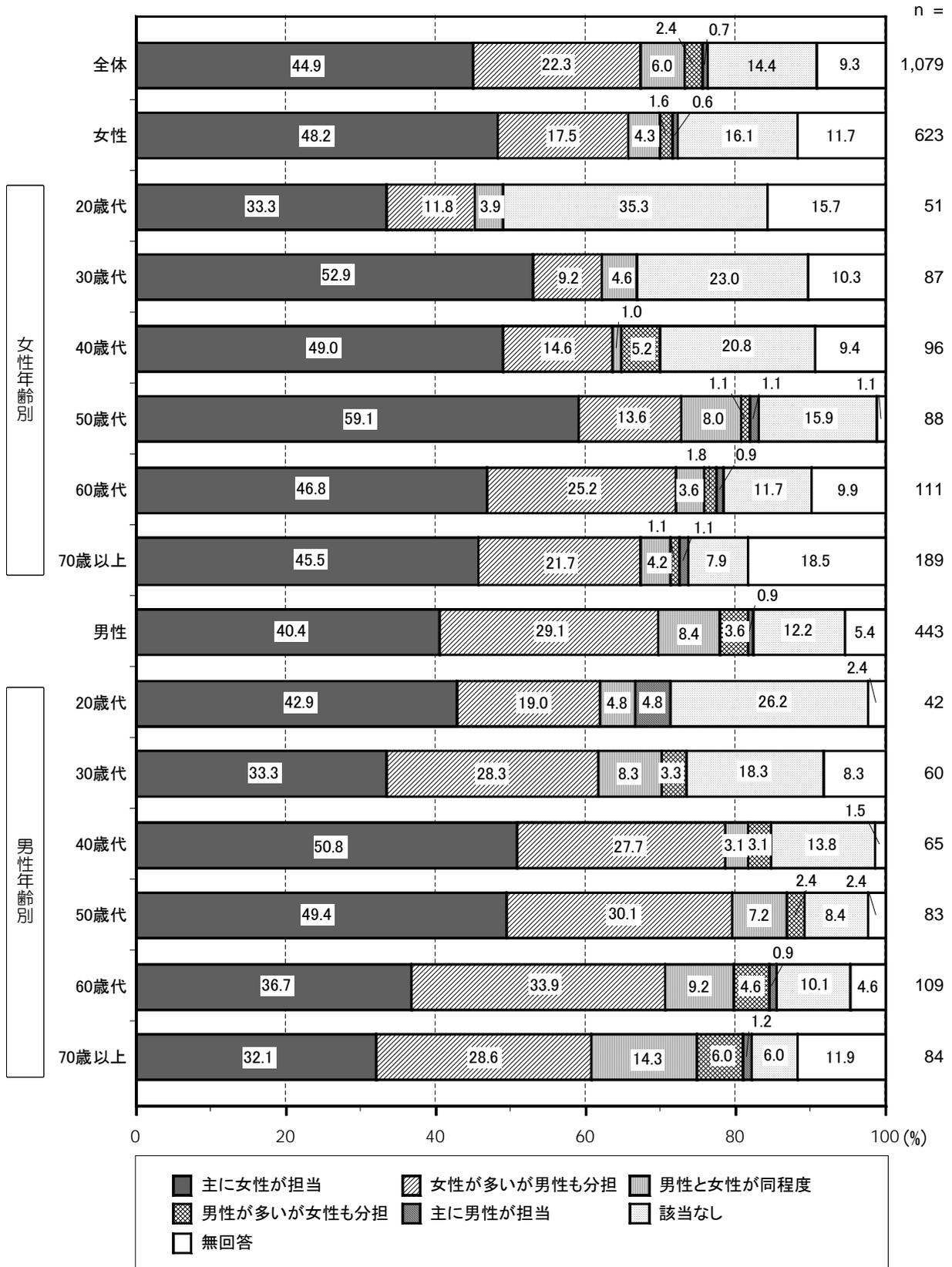
(2) 性別

- 女性では『主に女性が担当』が約66%と男性よりも高く、特に「主に女性が担当」が48.2%と高くなっています。
- 男性では「女性が多いが男性も分担」が29.1%と高くなっています。
- ▽1-1：5%水準で有意差があるが、2項目間の相関は弱い。

(3) 性別・年齢別

- 女性では50歳代と60歳代で『主に女性が担当』(7割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では40歳代と50歳代で『主に女性が担当』(8割弱)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表7-3 地域活動の役割分担としての集会などでのお茶くみ、調理
(性別・年齢別)



1-4 祭りや葬儀の運営、取り仕切り

(1) 全体

- 「主に男性が担当」が 29.7%、「男性が多いが女性も分担」が 24.7%で、合わせて『主に男性が担当』が約 54%です。(図表 7-4)
- 「同程度」が 13.1%の順であり、『女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）は約 11%です。

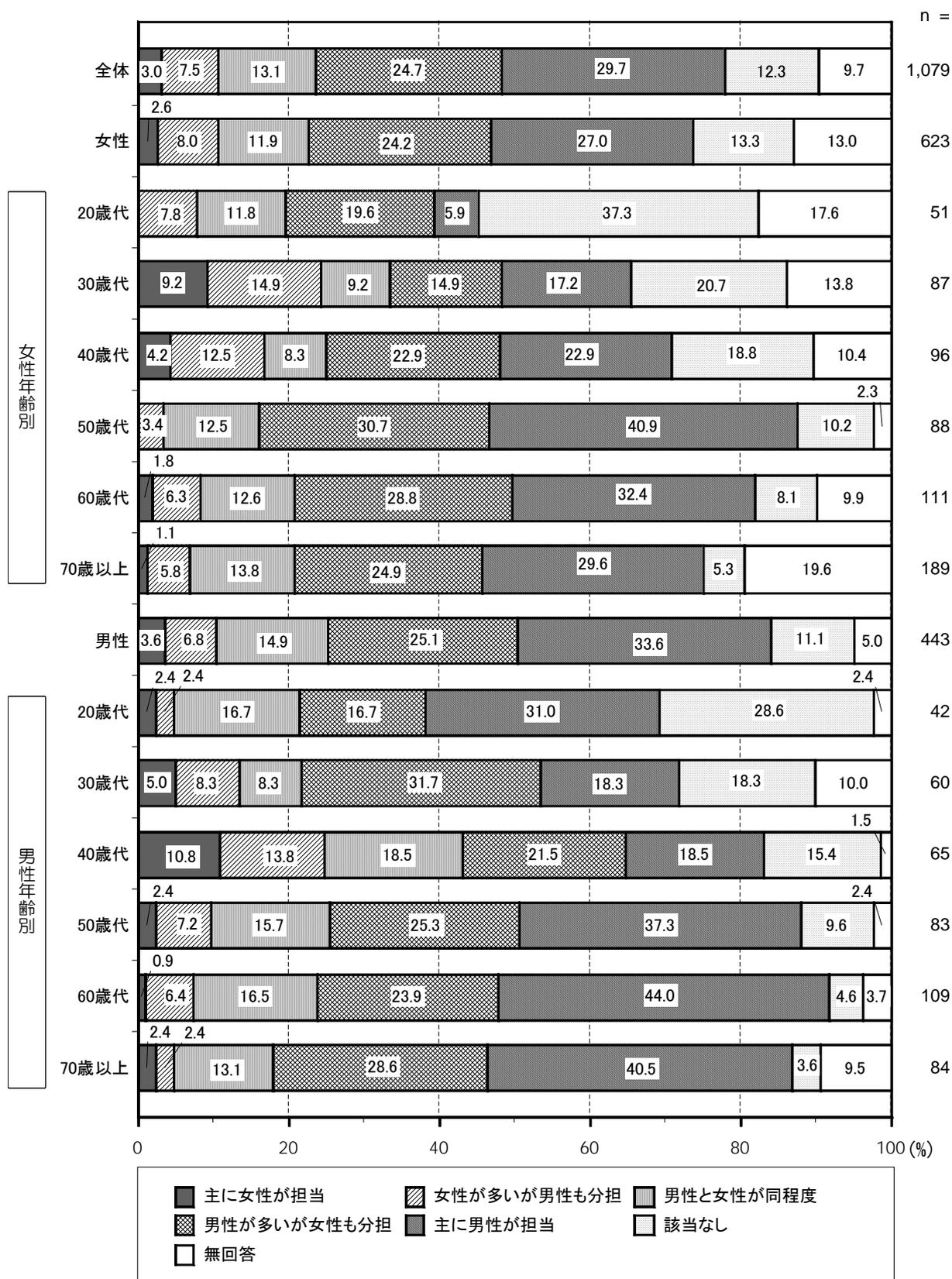
(2) 性別

- 男性で『主に男性が担当』が約 59%と女性よりも高くなっています。
▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 30 歳代と 40 歳代で『主に女性が担当』が 15%を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。一方、50 歳代と 60 歳代では『主に男性が担当』が 6 割を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 40 歳代で『主に女性が担当』が 24.6%でほかの年齢層よりも高くなっています。一方、60 歳代と 70 歳以上で『主に男性が担当』（7 割弱）がほかの年齢層よりも高くなっています。

図表7-4 地域活動の役割分担としての祭りや葬儀の運営、取り仕切り
(性別・年齢別)



1-5 PTAや保護者会の運営、取り仕切り

(1) 全体

- 「男性が多いが女性も分担」が17.1%、「女性が多いが男性も分担」が15.9%、「同程度」が15.8%とほぼ並んでいます。(図表7-5)
- 『主に男性が担当』(「男性が多いが女性も分担」+「主に男性が担当」)が約31%であるのに対し、『主に女性が担当』(「主に女性が担当」+「女性が多いが男性も分担」)は約26%とやや少なくなっています。

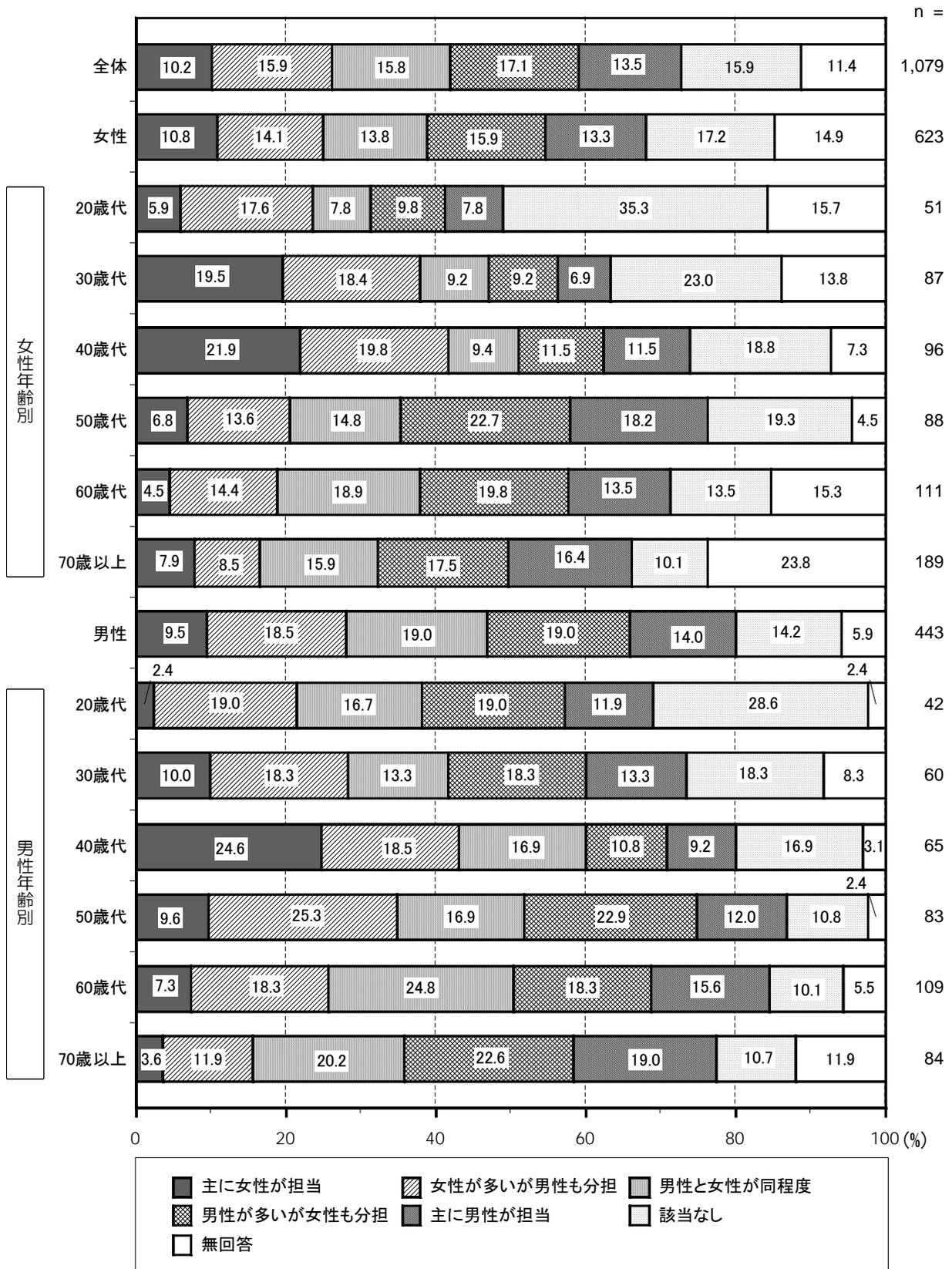
(2) 性別

- 性別による目立った差はみられません。
- ▼3-2: 有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では30歳代と40歳代で『主に女性が担当』(4割前後)、ほかの年齢層よりも高くなっています。一方、50歳代では『主に男性が担当』が40.9%でほかの年齢層よりも高く、60歳代では「男性と女性が同程度」が18.9%でやや高くなっています。
- 男性では40歳代と50歳代で『主に女性が担当』(概ね35%以上)でほかの年齢層よりも高くなっています。一方、70歳以上で『主に男性が担当』が41.6%、60歳代では「男性と女性が同程度」が24.8%でほかの年齢層よりも高くなっています。

図表7-5 地域活動の役割分担としてのPTAや保護者会の運営、取り仕切り
(性別・年齢別)



1-6 会長などの役職

(1) 全体

- 「主に男性が担当」が 59.7%、「男性が多いが女性も分担」が 11.1%で、合わせて『主に男性が担当』が約 71%と多くなっています。(図表 7-6)
- 「男性と女性が同程度」が 4.8%、『主に男性が担当』が 70.8%であるのに対し、『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）が約 3%とわずかです。

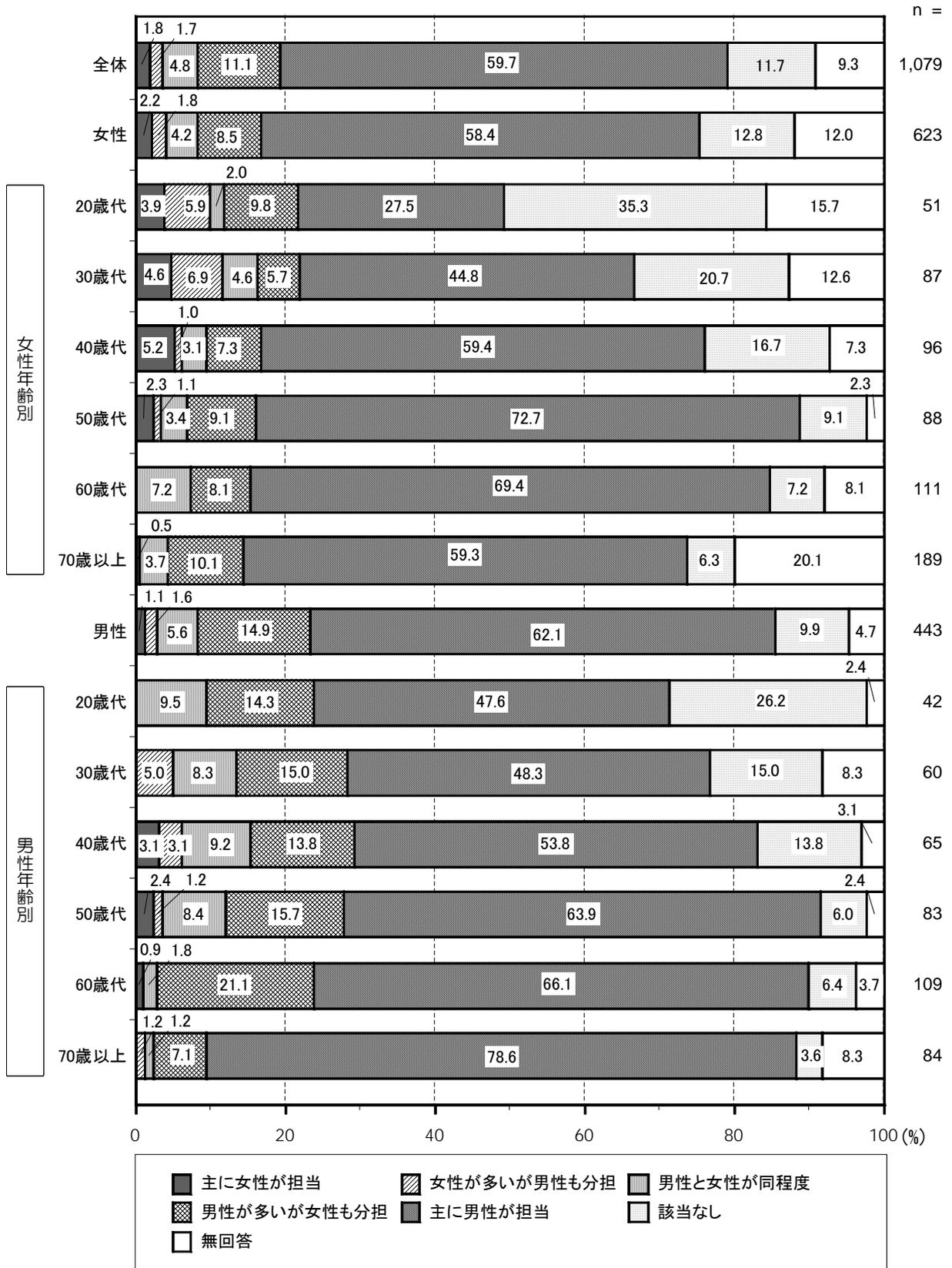
(2) 性別

- 男性で『主に男性が担当』が約 77%で高くなっています。
- ▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では 20 歳代と 30 歳代で『主に女性が担当』（約 1 割）、一方、50 歳代と 60 歳代では『主に男性が担当』（8 割前後）でほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 60 歳代と 70 歳以上で『主に男性が担当』が 85%を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。

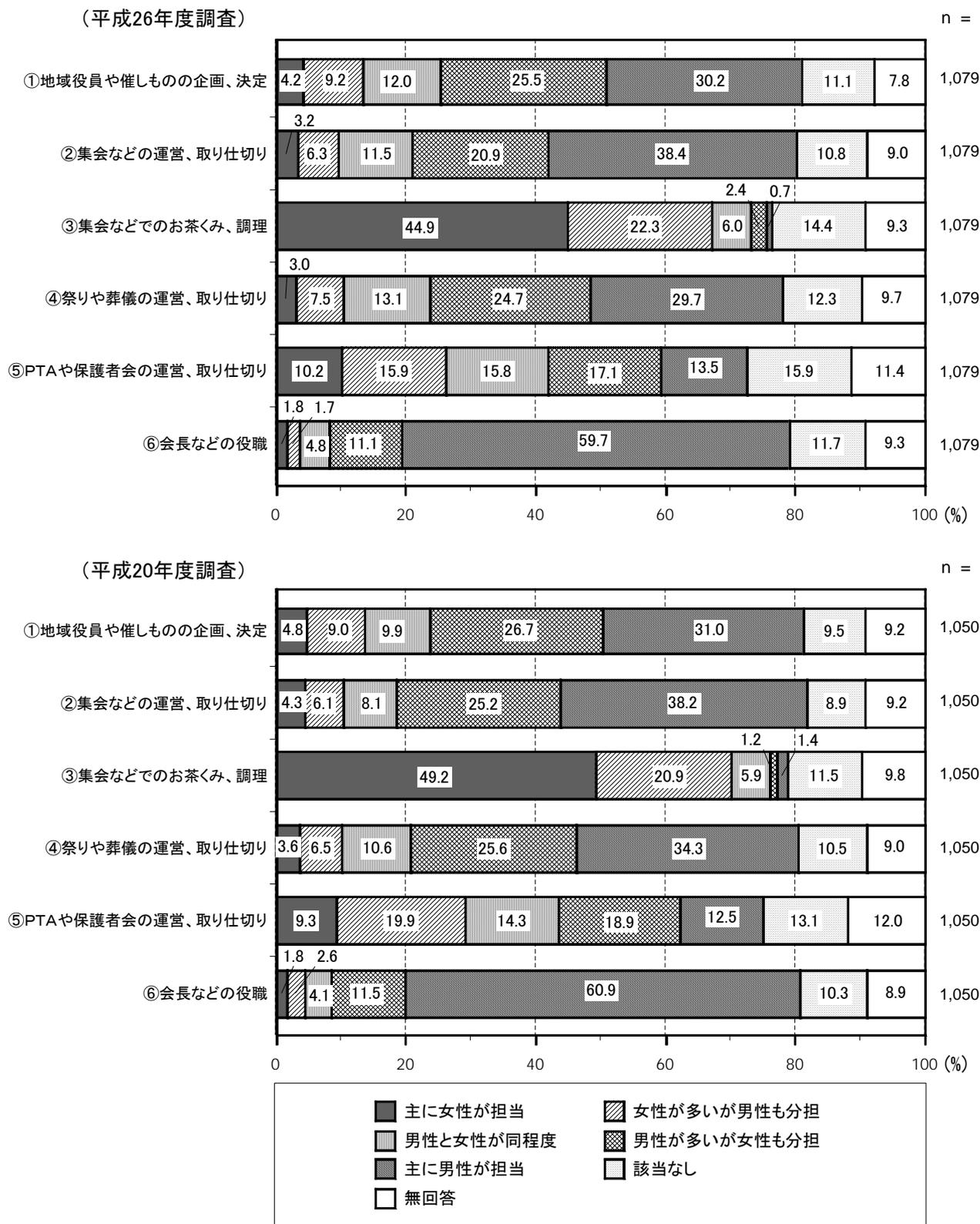
図表7-6 地域活動の役割分担としての会長などの役職
(性別・年齢別)



1-7 平成20年度調査との比較

- 本調査では平成20年度調査と比べて『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も担当」）が、③集会などでのお茶くみ、調理（本調査では約67%）や、⑤PTAや保護者会の運営、取り仕切り（本調査では約26%）において、やや低くなっています。（図表7-7）
- 一方、本調査では平成20年度調査と比べて『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）が、②集会などの運営、取り仕切り（本調査では約59%）、④祭りや葬儀の運営、取り仕切り（本調査では約54%）において、低くなっています。
- また、②集会などの運営、取り仕切りでは、本調査では「男性と女性が同程度」（11.5%）が、平成20年度調査よりやや高くなっています。
- ①地域役員や催しものの企画、決定と、⑥会長などの役職は、本調査と平成20年度調査では大きな差はありません。

図表7-7 地域活動の役割分担について（平成20年度調査比較）



2. 現在、参加している地域活動について

問 21 あなたは、どのような地域活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 「活動していない」が45.8%で最も高く、次いで「自治会・町内会」が33.4%、以下、「スポーツ・レクリエーション活動」が12.1%と高くなっています。(図表7-8)
- 「ボランティアなどの社会奉仕活動」は9.7%、「文化活動(趣味・教養)」が9.0%となっています。

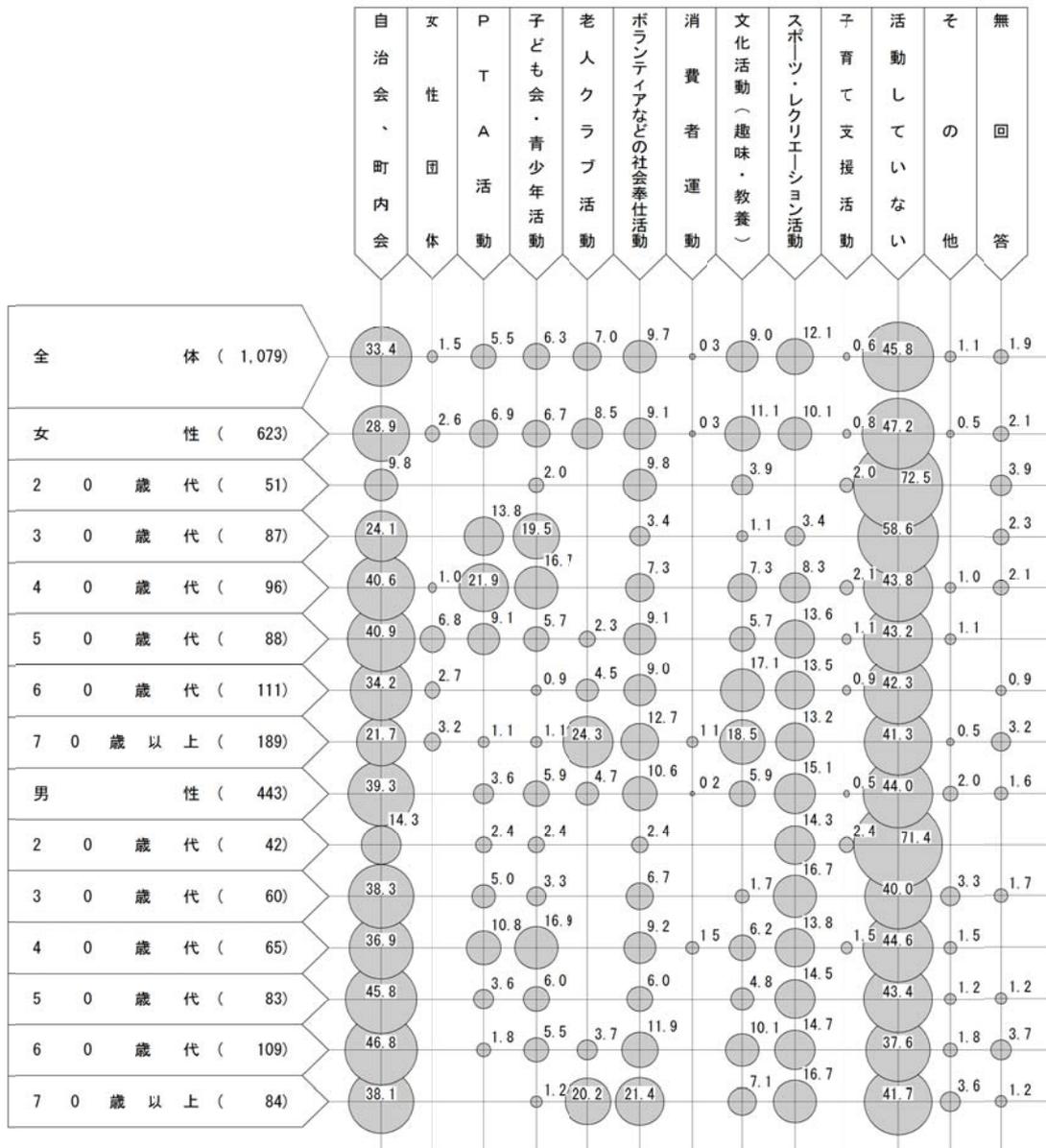
(2) 性別

- 男性で「自治会・町内会」が39.3%で、女性よりも10ポイント以上高く、「スポーツ・レクリエーション活動」でも15.1%と女性より高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。(有意差がある項目が多い)

(3) 性別・年齢別

- 女性では、20歳代「活動していない」が72.5%と最も高く、年代が上がるにしたがってこの割合は低くなっています。また、40歳代と50歳代で「自治会・町内会」が4割以上とほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では20歳代で「活動していない」が71.4%と最も高く、概ね年代が上がるにしたがってこの割合は低くなっています。また、50歳代と60歳代で「自治会・町内会」が45%以上とほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。(有意差がある項目は半分ぐらい)

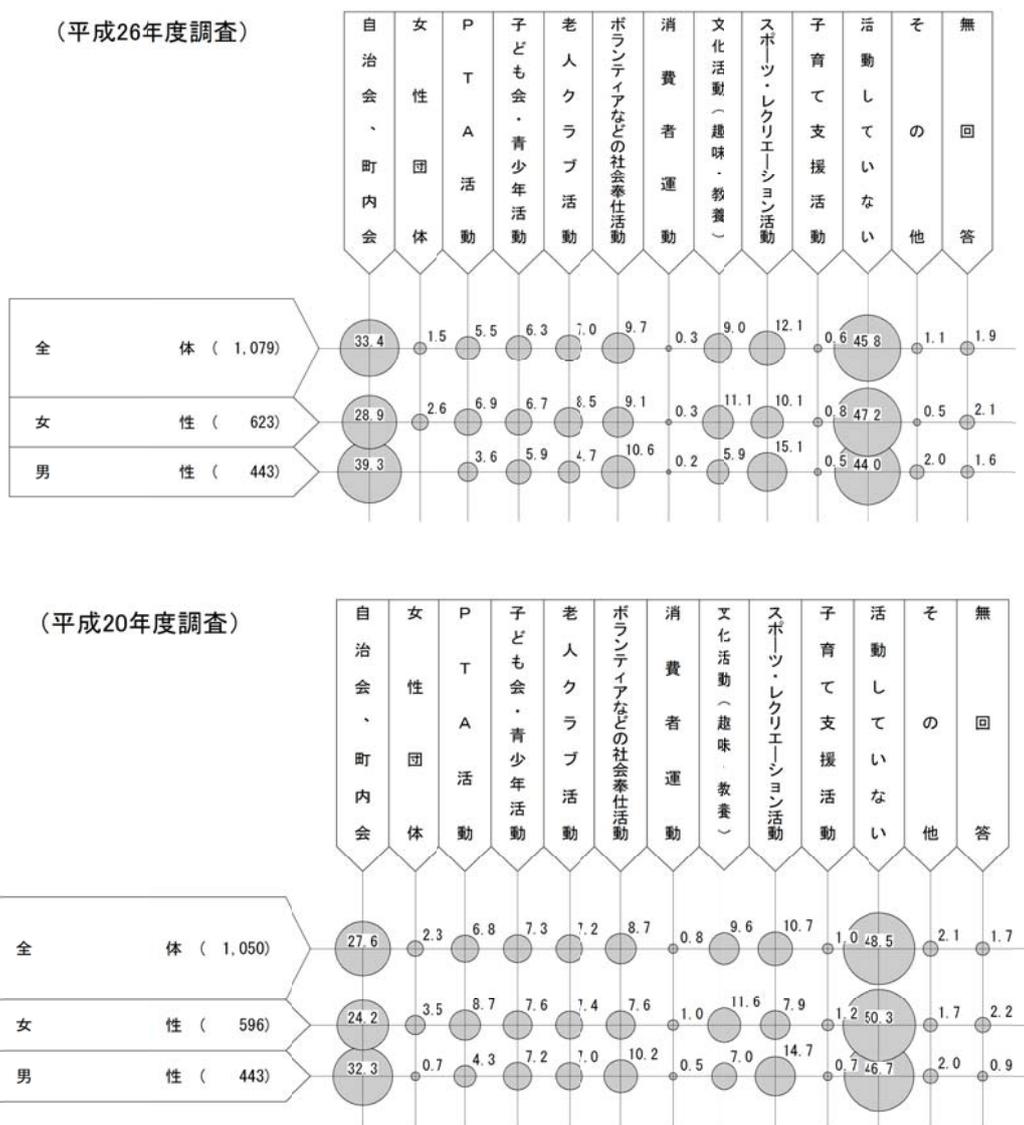
図表7-8 現在、参加している地域活動について（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 本調査では「自治会・町内会」(33.4%)が平成 20 年度から約 6 ポイント高くなっています。(図表 7-9)
- 女性、男性とも本調査では「自治会・町内会」が平成 20 年度調査よりも高くなっており、「活動していない」がやや低くなっています。

図表 7-9 現在、参加している地域活動について (平成 20 年度調査比較)



3. 地域活動に参加しない理由

問 22 問21で「11. 活動していない」と答えた方にお聞きします。

あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 地域活動を行っていない494人のうちでは、「仕事や家事が忙しい」が31.0%で最も高く、次いで「特に理由はない」が28.3%、「人間関係がわずらわしい」が17.8%、「経済的な余裕がない」が13.4%となっています。(図表7-10)
- このほか「必要な情報が不足している」などの項目が、1割強となっています。

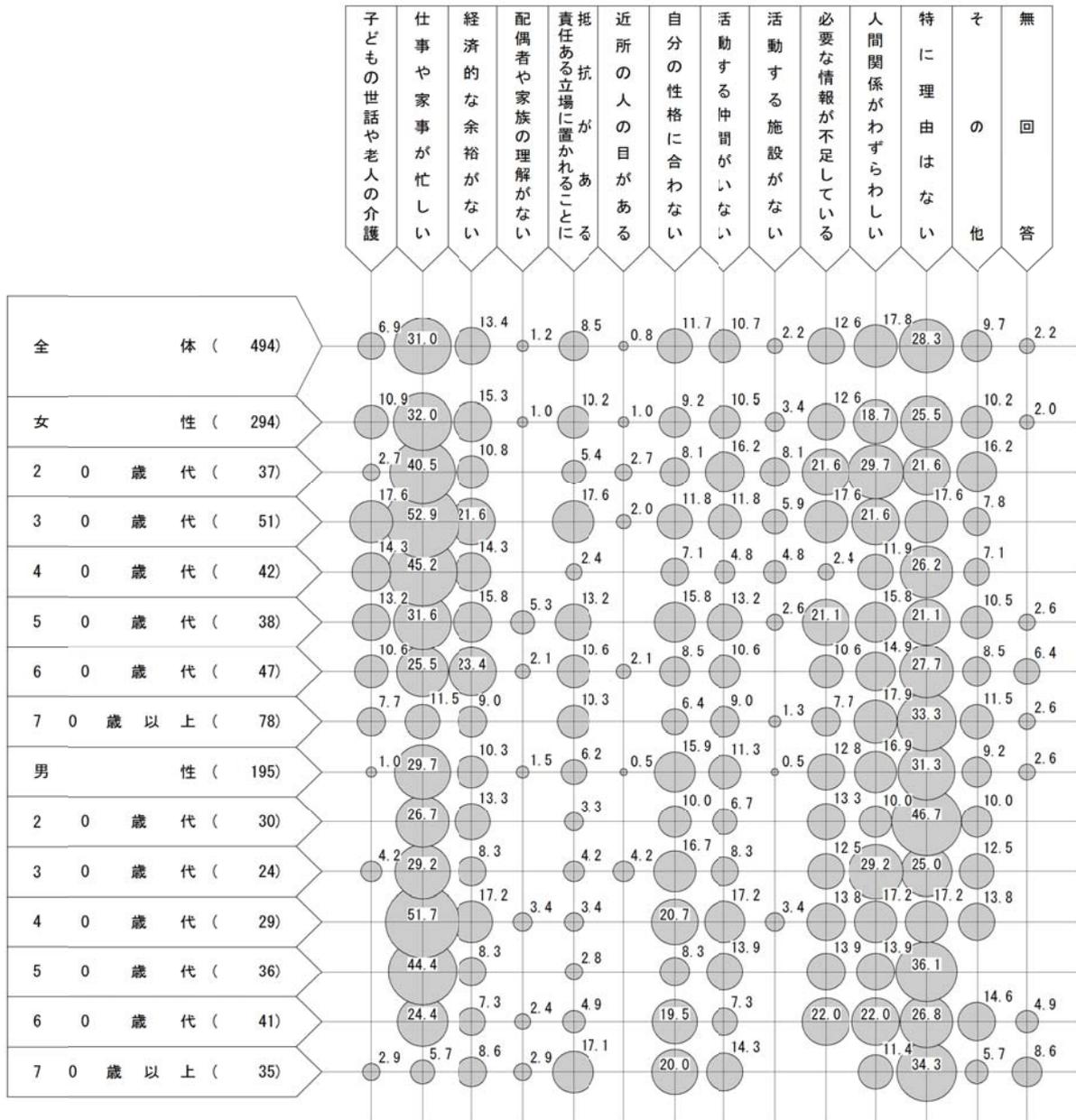
(2) 性別

- 女性では「子どもの世話や老人の介護」が10.9%と男性よりも10ポイント近く高くなっています。
- 男性では「自分の性格に合わない」が15.9%で、女性よりも高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。(有意差がない項目が多い)

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代から40歳代「仕事や家事が忙しい」(30歳代で52.9%)が高くなっているほか、20歳代「人間関係がわずらわしい」が29.7%でほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では40歳代と50歳代で「仕事や家事が忙しい」(40歳代で51.7%)が高くなっているほか、20歳代と50歳代「特に理由がない」が35%を超えてほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり大半が検定不能。

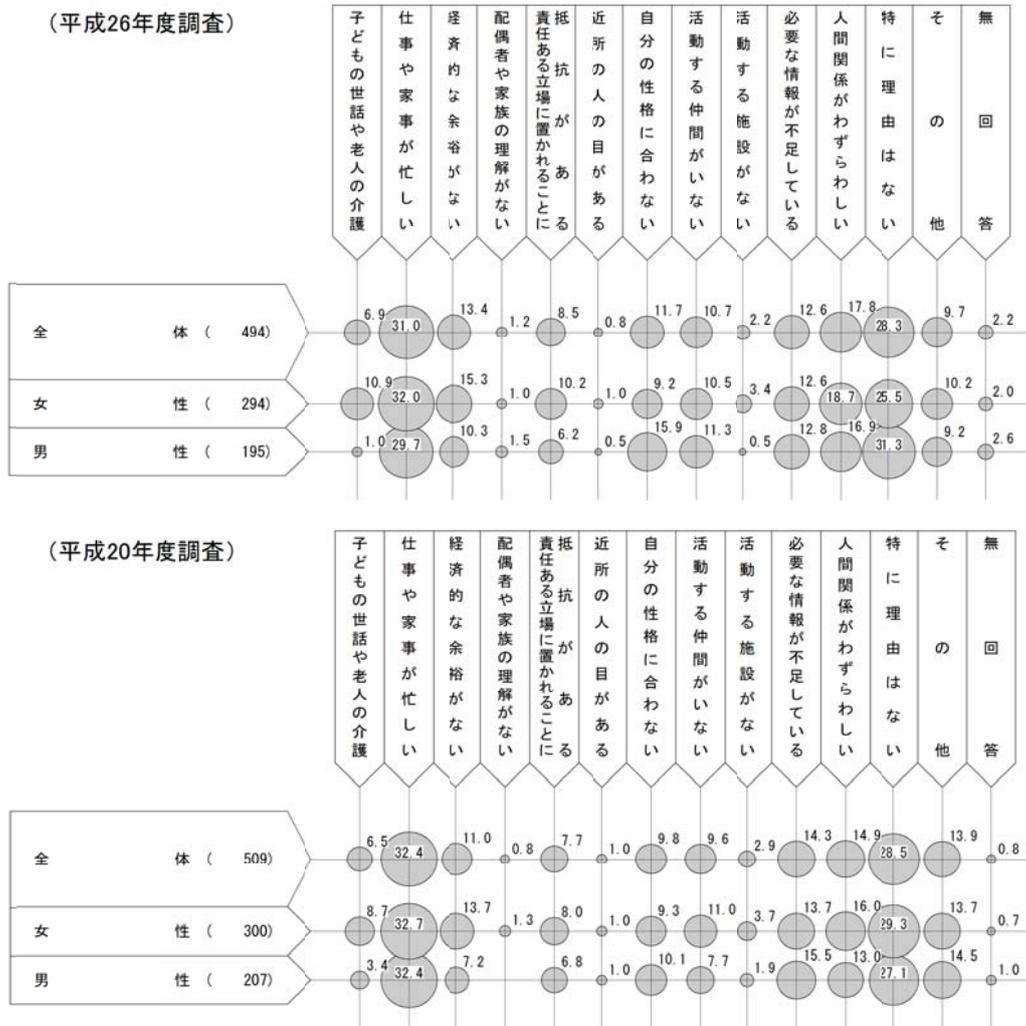
図表7-10 地域活動に参加しない理由（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 平成 26 年度調査と平成 20 年度調査の間には目立った変化はみられません。(図表 7-11)
- 男性では、本調査で「自分の性格に合わない」(15.9%)が、平成 20 年度調査より約 6 ポイント高くなっています。

図表 7-11 地域活動に参加しない理由 (平成 20 年度調査比較)



4. 今後、参加を希望する地域活動について

問 23 あなたは、今後、どのような地域活動をしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 「活動したいとは思わない」が31.7%で最も高くなっています。(図表7-12)
- 活用したい内容では「文化活動」が25.9%、「ボランティアなどの社会奉仕活動」が23.6%、「スポーツ・レクリエーション活動」が19.7%、「自治会・町内会」が14.2%となっています。

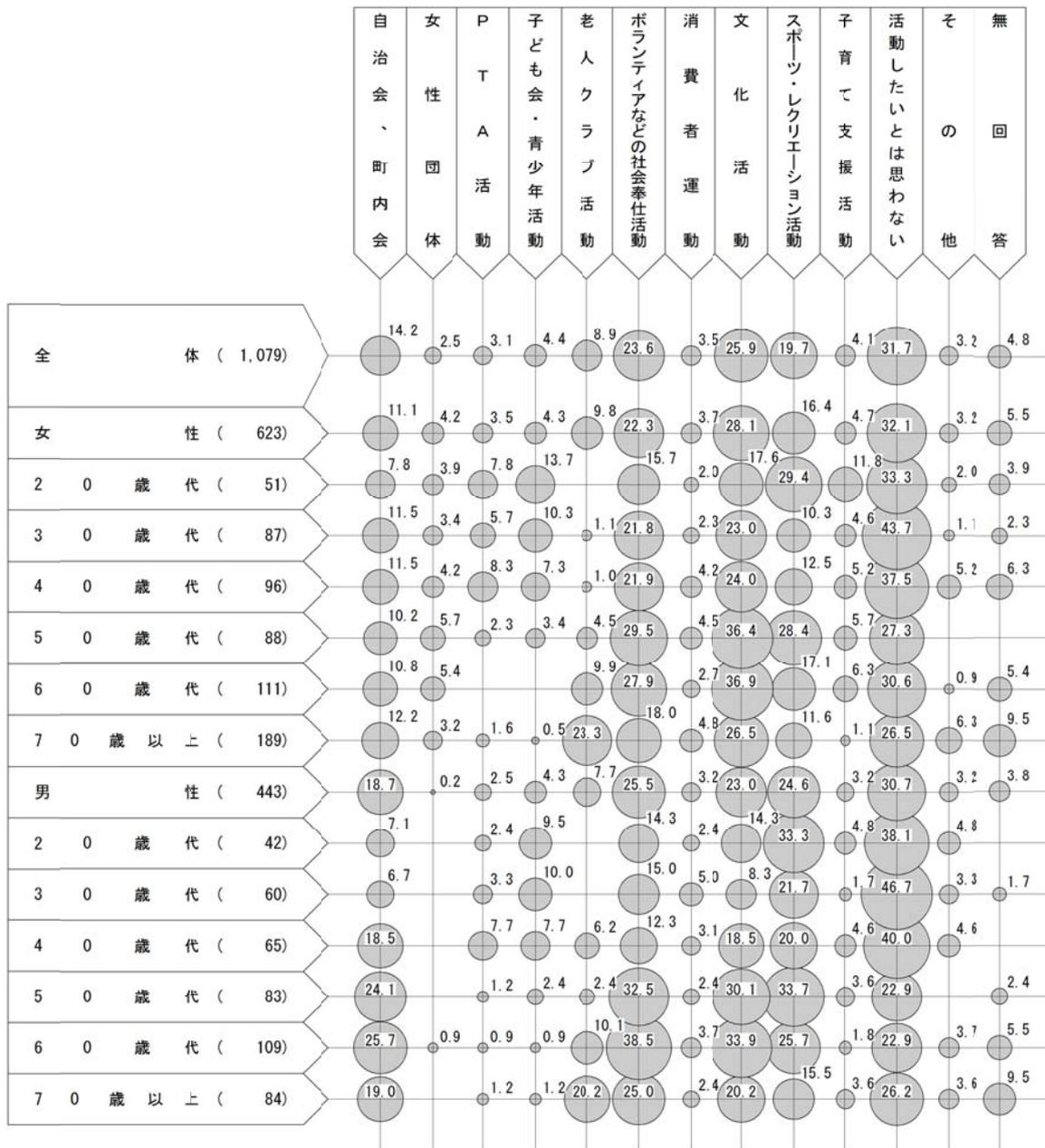
(2) 性別

- 女性では「文化活動」が28.1%であり、男性より約5ポイント高くなっています。
- 男性では「自治会・町内会」(18.7%)と「スポーツ・レクリエーション活動」(24.6%)が女性よりも約8ポイント高くなっています。
- ▼3-1 概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

- 女性では50歳代で「ボランティアなどの社会奉仕活動」が29.5%で、これをピークとしてこれより高齢あるいは若くなるにしたがって低くなっています。30歳代で「活動したいとは思わない」が43.7%と最も高く、40歳代も高くなっています。
- このほか女性では50歳代と60歳代で「文化活動」(36%強)、20歳代と50歳代で「スポーツ・レクリエーション活動」(3割弱)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では、50歳代と60歳代「町内会・自治会」(25%程度)や、「ボランティアなどの社会奉仕活動」(60歳代で38.5%)、「文化活動」(3割以上)がほかの年齢層よりも高くなっています。
- また、男性では20歳代と50歳代では「スポーツ・レクリエーション活動」(約33%)が高くなっていますが、20歳代から40歳代にかけて「活動したいとは思わない」が高く、30歳代では46.7%見られます。
- ▼2-1 有意差がある項目と検定不能が半々ぐらい。

図表7-12 今後、参加を希望する地域活動について（性別・年齢別）



(4) 平成 20 年度調査との比較

- 本調査では「自治会・町内会」(14.2%)と「活動したいとは思わない」(31.7%)が、平成 20 年度調査と比べてやや高くなっています。また、本調査では「文化活動」(25.9%)は、平成 20 年度調査と比べてやや低くなっています。(図表 7-13)
- また、男女ともに本調査で「活動したいと思わない」(3割強)が、平成 20 年度調査よりやや高くなっています。

図表 7-13 今後、参加を希望する地域活動について (平成 20 年度調査比較)

